

# 大渡道場遺跡

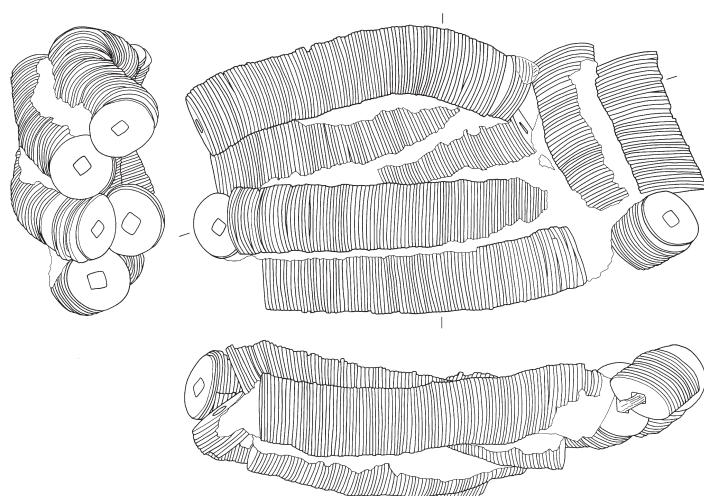
前橋市消防局西消防署移転新築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011.12

前橋市教育委員会

# 大渡道場遺跡

前橋市消防局西消防署移転新築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



2011.12

前橋市教育委員会

巻頭図版 1



巻頭図版 2



1号火葬墓 藏骨器 (1 : 3)

## はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する大渡道場遺跡は市の西部に位置し、前橋西消防署の建て替えに伴う発掘調査です。調査の結果、古墳時代の水田をはじめ、中世の溝に区画された内部に、建物跡や蔵骨器を伴う墓坑群も発見されました。さらに、中世の溝の中から本市で2例目となる埋納備蓄錢が発見されました。分析の結果、572枚の渡来錢が数えられ、貴重な研究資料となりました。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、調査発注者の前橋中央消防署、調査受注者の有限会社毛野考古学研究所および各方面のご配慮の結果といえます。また、真夏の炎天下の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成23年12月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

## 例　　言

1. 本報告書は、前橋市消防局西消防署移転新築工事に伴う大渡道場遺跡発掘調査報告書である。

2. 調査は、前橋市教育委員会の監理・指導の下に有限会社毛野考古学研究所が実施した。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所	群馬県前橋市大渡町二丁目3番5
遺　　跡　　コ　　ード	23 A 144
発　　掘　　調　　査　　期　　間	平成23年4月19日～平成23年6月21日
整理・報告書作成期間	平成23年6月6日～平成23年12月22日
発　　掘　　・　　整　　理　　担　　当　　者	南田法正・山本千春・高橋清文（有限会社毛野考古学研究所）

4. 本遺跡に関わる遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

5. 本書の編集は南田が行った。原稿執筆はIを福田貫之（前橋市教育委員会）、II・VI-3を山本、他を南田が担当した。遺物の項目は南田と山本が協力した。出土遺物の実測・観察表作成・写真撮影は、山本と土井道昭（石器・石製品、有限会社毛野考古学研究所）が行った。

6. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】 青柳美保・狩野友好・北野進二・小関泰洋・斎藤清一・佐藤闇男・竹中美保子・永井述史・古郡孝一・森山孝男

【整理作業】 青柳美保・石田満理・磯 洋子・合田幸子・武士久美子・永井祐二・深谷道子・伴場りく

7. 発掘調査で出土した遺物及び、図面・写真等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

8. 以下の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

大西雅広・坂口 一・早田 勉（火山灰考古学研究所）・清水 豊・能登 健・増田 修・三浦京子  
前橋市消防局・群馬ダイハツ自動車株式会社・山下工業株式会社

## 凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を1/60縮尺で表現することを基本として掲載した。各挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北を示し、座標値は日本測地系に基づいている。

2. 遺物実測図の縮尺は、1/1～1/4縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。

遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

3. 遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。

H：住居跡 W：溝跡 D：土坑 P：ピット T：竪穴状遺構 B：掘立柱建物跡 I：井戸

S X：不明遺構

4. 遺構覆土および土器類の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に拠った。

5. 本文中や挿表中において、〔 〕は残存値を、（ ）は推定値を、それぞれ示す。

6. 本書で使用する火山灰指標テフラの略称は以下のとおりである。

As-A: 浅間A軽石（西暦1783年）

As-B: 浅間B軽石（西暦1108年） Hr-FA: 榛名山二ツ岳渋川テフラ (Hr-S・6世紀初頭)

As-C: 浅間C軽石（3世紀後葉～末葉） Hr-FP: 榛名山二ツ岳伊香保テフラ (Hr-I・6世紀中葉)

7. 本書で使用した引用・参考文献については、本文末に一括して収めた。

# 目 次

巻頭図版

はじめに

例言・凡例

目次

I 調査に至る経緯	1	6 地下式坑	17
II 遺跡の位置と環境	2	7 土坑・火葬墓（藏骨器）	17
1 地理的環境	2	8 火葬跡	18
2 歴史的環境	2	9 溝 跡	19
III 調査方針と経過	6	10 貨幣埋納遺構（埋納備蓄錢）	22
1 調査方針	6	11 井戸跡	23
2 調査経過	6	12 畠 跡	23
IV 標準堆積土層	7	13 水田跡	24
V 遺構と遺物	8	14 不明遺構	24
1 遺跡の概要	8	15 遺構外出土遺物	24
2 住居跡	11	VI まとめ	58
3 壇穴状遺構	13	1 古墳時代以降の耕地と古代の集落	58
4 掘立柱建物跡	14	2 中世の屋敷跡と墓域	58
5 ピット	14	3 埋納備蓄錢（一括出土錢）の構成	62

引用・参考文献一覧

写真図版

抄録

奥付

## 挿図目次

Fig. 1 調査区域図	1	Fig. 20 遺物図（1）H-1号住居跡 / H-2号住居跡①	38
Fig. 2 大渡道場遺跡位置図	2	Fig. 21 遺物図（2）H-2号住居跡② / H-3号住居跡 / H-6号住居跡①	39
Fig. 3 遺跡分布図	4	Fig. 22 遺物図（3）H-6号住居跡② / H-7・8号住居跡 / T-2・3号竪穴状遺構 / P-192・238・275 / D-4・15号土坑 / 1号火葬墓	40
Fig. 4 標準堆積土層	7	Fig. 23 遺物図（4）W-3号溝 / W-5号溝①	41
Fig. 5 全体図	9	Fig. 24 遺物図（5）W-5号溝② / W-8・13号溝 / W-12号溝 / I-1号井戸①	42
Fig. 6 A区全体図	10	Fig. 25 遺物図（6）I-1号井戸②	43
Fig. 7 遺構図（1）H-1号住居跡 / H-2号住居跡①	25	Fig. 26 遺物図（7）1号畠跡 / S X-1号不明遺構 / 遺構外出土遺物	44
Fig. 8 遺構図（2）H-2号住居跡② / H-3～5号住居跡①	26	Fig. 27 遺物図（8）1号埋納備蓄錢①	48
Fig. 9 遺構図（3）H-3～5号住居跡②	27	Fig. 28 遺物図（9）1号埋納備蓄錢②	49
Fig. 10 遺構図（4）H-6・7・8号住居跡	28	Fig. 29 遺物図（10）1号埋納備蓄錢③	50
Fig. 11 遺構図（5）B-1・2号掘立柱建物跡 / ピット群①・②	29	Fig. 30 遺物図（11）1号埋納備蓄錢④	51
Fig. 12 遺構図（6）ピット群③	30	Fig. 31 遺物図（12）1号埋納備蓄錢⑤	52
Fig. 13 遺構図（7）T-1～3号竪穴状遺構 / 1号地下式坑 / I-2号井戸	31	Fig. 32 遺物図（13）1号埋納備蓄錢⑥	53
Fig. 14 遺構図（8）D-1～8・23・24号土坑 / 1号火葬墓	32	Fig. 33 屋敷跡変遷想定図①	59
Fig. 15 遺構図（9）D-9～20・22号土坑・1号火葬跡	33	Fig. 34 屋敷跡変遷想定図②	60
Fig. 16 遺構図（10）W-3～15号溝①	34	Fig. 35 掘立柱建物跡個別想定図	61
Fig. 17 遺構図（11）W-3～15号溝②	35	Fig. 36 主要銭貨の構成割合	63
Fig. 18 遺構図（12）W-1・2・11・13号溝 / 1号埋納備蓄錢 / I-1号井戸 / S X-1号不明遺構	36		
Fig. 19 遺構図（13）1号畠跡 / 1号水田跡	37		

## 表目次

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	5	Tab. 9	出土遺物観察表（4）	47
Tab. 2	ピット一覧表（1）	15	Tab.10	埋納備蓄銭一覧表（1）	54
Tab. 3	ピット一覧表（2）	16	Tab.11	埋納備蓄銭一覧表（2）	55
Tab. 4	ピット一覧表（3）	17	Tab.12	埋納備蓄銭一覧表（3）	56
Tab. 5	土坑・火葬墓一覧表	18	Tab.13	埋納備蓄銭一覧表（4）	57
Tab. 6	出土遺物観察表（1）	44	Tab.14	錢種一覧表（全体）	63
Tab. 7	出土遺物観察表（2）	45	Tab.15	錢種一覧表（縦別）	63
Tab. 8	出土遺物観察表（3）	46	Tab.16	鑄造国別比率	63

## 写真図版目次

<b>P L . 1</b>	北部ピット群（掘立柱建物群）全景	<b>P L . 8</b>
遺跡（A区）全景	南部ピット群（掘立柱建物群）全景	1号埋納備蓄銭全景
1号畠跡 全景	南部ピット群（掘立柱建物群）近景	1号埋納備蓄銭近景
標準土層	<b>P L . 5</b>	I - 1号井戸 全景
<b>P L . 2</b>	1号地下式坑・I - 2号井戸 全景	1号畠跡 全景
H - 1号住居跡 全景	1号地下式坑・I - 2号井戸 全景	1号畠跡 埋没状況
H - 1号住居跡 カマド遺物出土状態	D - 1号土坑 全景	1号畠跡 北壁埋没状況
H - 2号住居跡 全景	D - 2・3・4号土坑 全景	1号畦畔（Hr - FA直下）全景
H - 2号住居跡 カマド遺物出土状態	D - 5号土坑 全景	1号水田（Hr - FA直下）全景
H - 2号住居跡 貯蔵穴完掘・	D - 5号土坑 埋没状況	<b>P L . 9</b>
耳皿出土状態	D - 6・7・8号土坑 全景	出土遺物（1）
H - 2号住居跡 カマド推定復原状況	1号火葬墓 全景	H - 1・2・3号住居跡
H - 3・4号住居跡 全景	<b>P L . 6</b>	<b>P L . 10</b>
H - 3号住居跡 カマド遺物出土状態	D - 9・10号土坑 全景	出土遺物（2）
<b>P L . 3</b>	D - 11・12号土坑 全景	H - 6号・7号・8号住居跡
H - 3号住居跡 貯蔵穴遺物出土状態	D - 15号土坑 全景・遺物出土状態	T - 2号・3号竪穴状遺構
H - 5号住居跡 全景	D - 15号土坑 ヒト大臼齒検出状態	P - 192・P - 238・P - 275
H - 6号住居跡 全景	D - 16号土坑 全景	D - 4号・15号土坑、1号火葬墓
H - 6号住居跡 カマド全景	D - 17号土坑 全景	W - 3号・12号溝、W - 8・13号溝
H - 6号住居跡 遺物出土状態	D - 18号土坑 全景	<b>P L . 11</b>
H - 6号住居跡 丸鞠（石帶）出土状態	1号火葬跡 全景	出土遺物（3）
H - 7号住居跡 全景	<b>P L . 7</b>	W - 5号溝、I - 1号井戸①
H - 8号住居跡 カマド全景	W - 1・2号溝およびB区 全景	<b>P L . 12</b>
<b>P L . 4</b>	W - 3・4・5・6号溝 全景	出土遺物（4）
T - 1号竪穴状遺構 全景	W - 4号溝 動物遺体検出状態	I - 1号井戸②
T - 2号竪穴状遺構 全景	W - 5号溝 遺物出土状態	SX - 1号不明遺構
T - 3号竪穴状遺構 全景	W - 7号溝 全景	1号畠跡
B - 1号掘立柱建物跡 全景	W - 8・13号溝 全景	遺構外出土遺物
B - 2号掘立柱建物跡 作業状況	W - 10号溝 全景	<b>P L . 13</b>
	W - 11・12号溝 全景	出土遺物（5） 1号埋納備蓄銭

# I 調査に至る経緯

平成 22 年 8 月 17 日付けで前橋市消防局総務課より前橋市消防局西消防署移転新築工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年 9 月 2 日に試掘調査を実施し、堅穴住居跡や溝を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、建設予定地の変更は不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。平成 23 年 1 月 20 日付けで前橋市長高木政夫（消防局総務課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼書が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入等については、依頼者である前橋市の合意も得られ、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 23 年 4 月 15 日付けで前橋市と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所 取締役 長井正欣との間で発掘調査業務契約を締結し、同年 4 月 20 日から発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「大渡道場遺跡」（遺跡コード：22A144）の「大渡」は町名、「道場」は小字名を表している。



Fig. 1 調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現形図 52-1』1/2,500 を 50%縮小）

## II 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境 (Fig. 2)

本遺跡は、前橋市の南西部に広がる前橋台地に位置する。前橋台地は、利根川が赤城山・榛名山の山麓の間から、関東平野に流出した所に広がる緩傾斜地の扇状地性台地である。「前橋砂礫層」の上に、浅間山噴火に伴う山体崩壊（約2万年前）による「前橋泥流」が利根川に沿って流れ込み、その上にシルト層・砂層・粘土層等から構成される水成上部ロームが堆積して構成される。前橋台地の西部には、相馬ヶ原扇状地が広がり、本遺跡はその末端部に立地する。相馬ヶ原扇状地は、榛名山の陣場岩屑なだれに起因するものとされており、その範囲は榛名山南東麓の大部分にわたる。陣場岩屑なだれは発掘調査によってA s - Y P（浅間板鼻黄色軽石：13,000～14,000年前降下：y B P）とA s - S r（浅間白糸軽石：18,000年前降下）の間に起きていることが解明されている。

市域の西側では、榛名山麓を源とする幾つもの小河川を集め利根川が貫流している。利根川の現流路は15世紀後半頃に定まったものとされており、それ以前は、前橋市大手町の北側で現流路から逸れて、南東流していたことが確認されている。なお、旧利根川の流路は、現在の広瀬川であったとされている。本遺跡周辺にも榛名山麓より染谷川・牛池川・八幡川等の河川が北西-南東方向に流下し、台地を開析している。なお、本遺跡は滝川と牛池川に挟まれた台地上に立地するが、滝川は総社町大字屋敷付近で八幡川と天狗岩用水が合流し、滝川と名称を変えて南方へ流下する。本遺跡は、滝川から分水した小河原用水の右岸崖線上にあたる。

### 2 歴史的環境 (Fig. 3・4、Tab. 1)

本遺跡が立地する地域周辺では、県内でも著名な遺跡・遺構が数多く存在する。古くは上野国府・国分僧寺・国分尼寺・山王廃寺等が建立され、群馬県内において中枢をなす地域として広く知られている。さらに中世になると蒼海城を始めとしていくつもの城館が築城されているが、どのような歴史が綴られてきたのか。ここでは、各時代の遺跡について概観してみたいと思う。



Fig. 2 大渡道場遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小）

縄文時代は、本遺跡周辺において草創期～前期前半の集落等は確認されていない。前期後半～中期の集落は、八幡川・牛池川・染谷川各流域の微高地上に集中する傾向がある。元総社小見遺跡【24】で諸磯b式期と加曽利E3式期の住居跡が、元総社蒼海遺跡群（13）【26】で諸磯c式期の住居跡が確認されている。八幡川・滝川などの小河川によって開拓された低台地の南端にある産業道路東遺跡【18】からは、縄文時代中期後半（加曽利E式期）の住居跡が確認されている。近接する産業道路西遺跡【19】では、後期前半の石圍炉が検出されており、周辺における集落の存在を示唆するものと推測される。晚期は、元総社蒼海遺跡群（9）【36】で堅穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡は、依然として調査事例が少ない状況にあり、後期の遺構がわずかに確認されている程度である。樽式期の住居跡が、下東西遺跡【2】や上野国分僧寺・尼寺中間地域【25】、日高遺跡【59】で確認されている。このうち、上野国分僧寺・尼寺中間地域では方形周溝墓2基が検出されている。生産遺構としては、平野部の後背湿地に位置する日高遺跡において、浅間C軽石（A s-C : 3世紀後半～4世紀初頭）直下の水田跡が検出されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて営まれたものと理解されている。

古墳時代になると遺跡数は飛躍的に増大する。集落は稻荷塚道東遺跡【20】で前期～後期にかけての集落が確認されているが、前期の住居跡は少ない傾向にある。中期～後期になると首長層の居館跡が確認された三ツ寺I遺跡を中心として集落跡が増大する。集落に伴う畠・水田等の生産域に関しては八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中している。古墳は本地域においても数多く築造されており、利根川右岸に遠見山古墳【10】が築造されたのをはじめ、王山古墳【30】、総社二子山古墳【7】・愛宕山古墳【9】・宝塔山古墳【12】・蛇穴山古墳【11】などの大型古墳が築造されており、これらは総社古墳群と呼称される。なお、宝塔山古墳の石棺と蛇穴山古墳の石室に見られる石造技術は、約900m南西に建立された山王庵寺【16】の塔芯礎や石製鷲尾等の石造物と同系統の技術であることから、仏教色の強い古墳であるとされている。該期の生産遺跡として、元総社北川遺跡【23】・総社閑泉明神北遺跡および総社閑泉明神北遺跡V【36】・元総社明神遺跡I～XIII【49】・元総社寺田遺跡I～III【50】で水田跡が、総社甲稻荷塚大道西IV遺跡【28】・総社閑泉明神北遺跡【36】・元総社西川遺跡【31】で畠跡が確認されている。

奈良・平安時代は近接する元総社地区において、上野国府・国分僧寺【60】・国分尼寺【61】が置かれ、古代上野国の中枢を担う地域へと編成される。未だに上野国府の範囲等は不明瞭な部分が多いが、元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）【36】・閑泉樋遺跡【37】で東西方向、元総社明神遺跡【49】で南北方向の大溝が確認されたことにより、国府域における北及び東外郭線が想定されている。国分僧寺は昭和55年より本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・堀などが捉えられている。国分尼寺は、昭和44・45年にトレンチ調査が行われたことにより伽藍配置の推測が可能となった。この結果を基に、平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団による寺域確認調査が行なわれ、南東・南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状遺構が確認された。この他、関連する遺構としては上野国分僧寺・尼寺中間地域で大規模な集落・掘立柱建物跡群が確認され、鳥羽遺跡【55】では神社遺構、中尾遺跡【57】では工房跡などが検出されている。また、東山道（国府ルート）や日高道の存在も明らかになりつつある。他方、いわゆる一般集落は国府推定域外に多数分布し、元総社蒼海遺跡群では8～11世紀代の住居跡が密集する状況が看取される。これらに伴う生産遺跡は少なく、水田跡では日高遺跡が挙げられる程度である。ただし、元総社北川遺跡【23】ではHr-F A泥流（6世紀初頭）やHr-F P泥流（6世紀中葉）の上位面を鋤き込む畠跡が検出されており、注目される。

中世以降は、鎌倉時代の遺跡は周辺地域においてほとんど見受けられない。室町時代に入ると、上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地とした。同城は上野国府の地割を利用したものとされ、地形の制約を受け、あるいは巧みに利用した複雑な列郭式構造をもち、県内最古級の城郭である。近年の区画整理事業に伴う発掘調査の増加により、堀・郭・建物跡などの関連遺構が検出されている。この他、本遺跡周辺の平

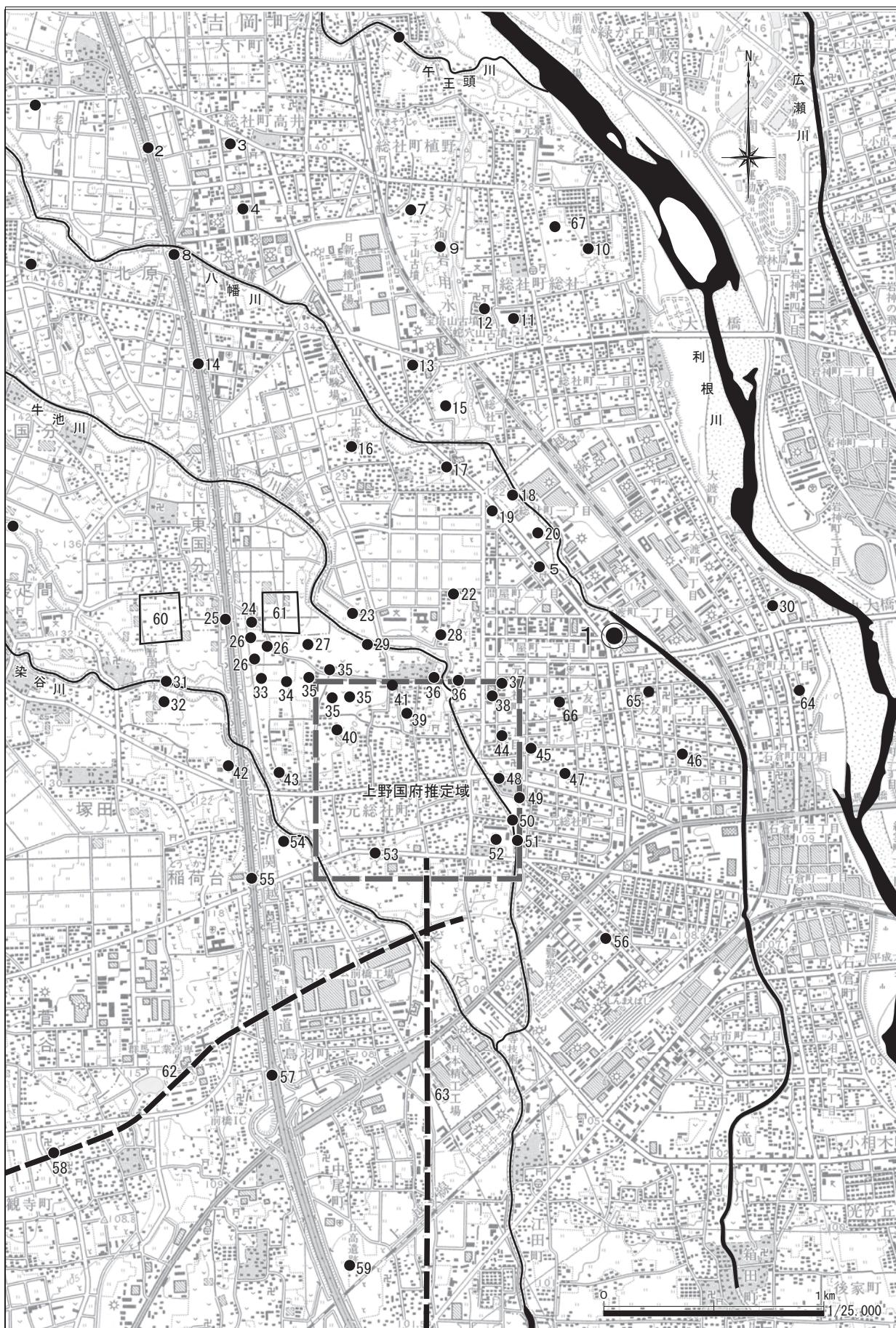


Fig. 3 遺跡分布図（国土地理院発行『前橋』1/25,000）

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	大渡道場遺跡	●		●	●	●	●
2	下東西遺跡	●	●	●	●	●	
3	中島遺跡			●			
4	柿木遺跡・II遺跡			●			
5	稻荷山古墳		●				
6	大小路山古墳		●				
7	総社二子山古墳		●				
8	北原遺跡	●	●	●			
9	愛宕山古墳		●				
10	遠見山古墳		●				
11	蛇穴山古墳		●				
12	宝塔山古墳		●				
13	村東遺跡		●	●	●		
14	国分境遺跡 国分境II遺跡 国分境III遺跡		●	●	●		
15	大屋敷遺跡I～VI	●	●	●	●		
16	山王廐寺跡		●				
17	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡			●			
18	産業道路東遺跡	●					
19	産業道路西遺跡	●					
20	稻荷塚道東遺跡		●	●			
21	稻荷山古墳		●				
22	総社甲稻荷塚大道西遺跡 総社甲稻荷塚大道西II遺跡			●	●	●	
23	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	●	●	●	●	●	●
24	元総社小見II遺跡 元総社小見IV・V遺跡 元総社小見VI・VII遺跡 元総社蒼海遺跡群(4)	●		●	●	●	
25	上野国分僧寺・尼寺中間地域	●	●	●	●	●	
26	元総社蒼海遺跡群(13)	●		●	●	●	
27	元総社小見内VII遺跡 元総社蒼海遺跡群(1)(5)	●		●	●	●	
28	総社甲稻荷塚大道西III遺跡 総社閑泉明神北III遺跡 総社甲稻荷塚大道西IV遺跡		●	●			
29	元総社小見内III遺跡 元総社小見内VI遺跡 元総社蒼海遺跡群(12)		●	●	●		
30	王山古墳		●				
31	元総社西川遺跡				●	●	
32	上野国分寺参道遺跡				●	●	
33	元総社小見遺跡		●		●	●	
34	元総社小見III遺跡 元総社草作V遺跡		●		●	●	●
35	元総社小見内IV遺跡 元総社小見内VIII遺跡 元総社小見内IX・X遺跡 元総社蒼海遺跡群(2)(6) 元総社蒼海遺跡群(11)				●	●	
36	元総社閑泉明神北遺跡 元総社閑泉明神北II遺跡 元総社閑泉明神北V遺跡 元総社蒼海遺跡群(7) 元総社蒼海遺跡群(9)(10)				●	●	
37	閑泉樋遺跡					●	
38	閑泉樋南遺跡				●	●	
39	元総社宅地遺跡1～23トレンチ			●	●	●	●
40	草作遺跡				●	●	●
41	元総社蒼海遺跡群(23)			●	●	●	
42	塚田村東遺跡					●	
43	元総社蒼海遺跡群(8)					●	
44	屋敷遺跡II・III遺跡				●	●	●
45	堰越II遺跡					●	
46	大友宅地添遺跡					●	
47	堰越遺跡					●	
48	大友屋敷II・III遺跡			●	●	●	
49	元総社明神遺跡I～13			●	●	●	●
50	元総社寺田遺跡I～III			●	●	●	●
51	寺田遺跡					●	
52	元総社小学校校庭遺跡					●	
53	天神遺跡II遺跡					●	
54	弥勒遺跡II遺跡				●	●	
55	鳥羽遺跡				●	●	
56	元総社稻葉遺跡				●	●	
57	中尾遺跡					●	
58	正觀寺遺跡I～IV			●	●	●	●
59	日高遺跡			●		●	
60	上野国分寺跡					●	
61	上野国分尼寺跡					●	
62	東山道(推定)						
63	日高道(推定)						
64	石倉城						●
65	大友城						●
66	村山城						●
	総社城						●

\* 本表の遺跡番号は本文およびFig. 3『遺跡分布図』の番号と一致している。

野部でも屋敷に堀を巡らせた環濠屋敷などが認められる。本遺跡で確認された屋敷跡も溝で囲郭されている。このような環濠屋敷を連結した列郭式の城館として、中尾城などが挙げられる。戦国期には上野国も小田原北条氏、甲斐武田氏、越後上杉氏による戦乱の場と化した。永禄8(1565)年に武田信玄が厩橋城の上杉謙信と交戦するために築いた「石倉城」【64】をはじめ、「大友城」【65】や北条氏直の配下・村上佐渡守の居城であった「村山城」【66】などの城館が築城された。江戸時代になると、慶長初期に河岸段丘を利用した「総社城」【67】が築城される。城主である秋元長朝は、領内の経済基盤を安定させるため、慶長9(1604)年に天狗岩用水を開削した。本遺跡の東側を南流するこの用水は、現在でもなお、農業用水として利用されている。

### III 調査方針と経過

#### 1 調査方針

本調査は、前橋市消防局管内の前橋西消防署移転新築工事に伴うもので、庁舎部分（A区）と備蓄水防倉庫部分（B区）を合わせた1,373 m<sup>2</sup>（実質調査面積1,110 m<sup>2</sup>）が発掘調査計画対象地であった。ところがA区南端とB区北端は南北敷地境界線にあたっており、調査区の変更を余儀なくされた。さらに試掘調査後に施行された客土が厚く堆積しており、現地表面から遺構確認面までの最大深度が2mを超えることが判明し、掘削に伴う排土置き場のスペースを確保しつつ、安全面を考慮した結果、調査面積はA・B区合わせて約840 m<sup>2</sup>となった。

調査はまずB区から行い、調査終了後には、A区の表土掘削排土によってB区を埋め戻した。調査区には、2000年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている日本測地系を基準にした4m方眼を設定し、近隣調査との整合性を図った。遺構記述内容における位置の項目は、遺跡内でのおよその位置のほか、日本測地系X・Y座標の下3桁と、上野国分尼寺確認調査で設定されたグリッド名称を括弧付きで併記した。

〔例〕 X=673～677、Y=-462～-466（X 333・334、Y 81・82）

調査方法は、基本的に重機による表土掘削→遺構確認→遺構調査・掘り下げ→遺構断面観察→遺構完掘の順に行い、測量及び写真撮影による記録保存は、調査の進捗に合わせて適宜実施した。表土掘削は0.7 m<sup>3</sup>バックホーを用いて遺構確認面まで掘削した。確認面は、A区西側でH r - F A (VI層)上面、A区北東側でA s - C混入黒褐色土層 (VIIa層～VIII層)上面とした。A区南東部ではVIII層がほぼ完全に失われていたため、IX層上面に設定した。B区では表土直下がIX層であった。遺構確認はジョレン等を使用して人力手作業で行った。各遺構は移植ゴテ等を使用して掘り下げ、住居跡・カマド・溝・井戸・地下式坑等は土層観察ベルトを設定し、土坑・柱穴・ピットは半截によって埋没状況を確認した。出土遺物は可能な限りトータルステーションで出土位置及び標高を記録した後に取り上げを行った。各遺構は、平面・断面測量及び写真撮影で記録保存を図った。遺構断面図は1/10・1/20縮尺で手実測し、平面図は自動追尾システムトータルステーションで測量した。遺構写真は、35mm白黒ネガ・35mmカラーリバーサルフィルム・1,000万画素相当のデジタルカメラによって撮影した。

#### 2 調査経過

発掘調査および整理業務における調査経過の概要は以下のとおりである。

**平成23年4月19日**：現地にて前橋市消防局・前橋市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所の3者事前協議。  
**4月20・22日**：調査区測り出し。重機打ち合わせ。近隣への挨拶。**4月25日**：重機によるB区表土掘削開始。プレハブ・仮設トイレ設置。**4月26・27日**：B区表土掘削終了。A区表土掘削開始。器材搬入。**4月28日**：発掘補助員動員。B区遺構確認後、調査開始。測量・撮影等調査完了。B区終了確認検査後、埋め戻し。**4月29・30日**：A区表土掘削。**5月2日**：A区表土掘削終了。**5月6日**：遺構確認精査作業。全景写真。遺構調査開始。**5月9～13日**：W-3～5溝・B-1建物調査。基準点設置。**5月11日**：雨天中止。**5月16～20日**：H-1～5住・W-3～7溝・D-1～4土坑・I-1～2井戸・地下式坑、調査。**5月23～27日**：H-3～6住・D-2～11土坑・W-8～11溝・I-1～2井戸・地下式坑・ピット群、調査。**5月30日～6月4日**：H-3～6住・D-9～13土坑・W-9～11溝・I-2井戸・地下式坑・火葬跡・ピット群、調査。**6月6～11日**：H-1～7住・W-8～13溝・火葬跡・ピット群・土坑群・畠跡・水田跡、調査。**6月13日**：ピット群・畠跡・水田跡、調査。器材撤収。調査完了。**6月14日**：終了確認検査。**6月16～18日**：埋め戻し。**6月21日**：プレハブ・トイレ撤去。**6月6日**：出土遺物の洗浄・出土層位・接合を開始。**6月16日**：図面修正・写真整理開始。**6月27日**：遺構原稿執筆及び遺物実測開始。**8月10日**：遺物・遺構トレース開始。**10月10日**：版組み。**11月10日**：入稿・校正。**12月16日**：印刷・製本。**12月22日**：報告書納品・発行。

## IV 標準堆積土層 (Fig. 4, PL. 1)

本遺跡は滝川右岸の上位段丘崖上に位置しており、東側低地部（下位段丘面）との比高差は2m程度である。標準堆積土層は、A区中央（Aトレンチ）・A区北東隅（Bトレンチ）・B区北東隅（Cトレンチ）の3箇所で確認した。Aトレンチは現代の搅乱を掘り抜いたものである。

全体的に北西から南東方向へと緩やかに傾斜し、厚い客土（Ia層）によって現況地表面はほぼ平坦である。Ib層は客土以前の表土であろう。Ic層は、客土以前の現代洪水砂層である。II層は細砂主体の浅間B軽石（As-B:1108年降下）混入土層で、浅間C軽石（As-C:3世紀後半～末頃降下）と榛名山二ッ岳渋川テフラ（Hr-Fa:6世紀初頭頃降下）あるいは榛名山二ッ岳伊香保テフラ（Hr-Fp:6世紀後半降下）を含む。IIa・IIb層には浅間A軽石（As-A:1783年降下）の可能性がある白色軽石（φ1cm程度）が微量含まれ、II層の堆積時期は近世～近代と想定しておく。IIIa層は砂質で、IIIb層はIX層ブロックを含む場合もあり、土質が異なるものの、いずれもAs-Bを微量混入する。W-3～5号溝の新旧関係には鍵となる。IIIb層には地業などの人為的埋積物の可能性が残る。IV層は部分的に残存するAs-B主体土層で、2次堆積のAs-Bと推定した。

V層はA区北西部～西部にかけて残存するHr-Fa混入土層で、Va層は水田跡上部にのみ堆積し、土地利用の違いやわずかな高低差が、一定時間経過後の堆積土壤にも影響を与えていている。Vb層は水田跡・畠跡両方を被覆する。Vc層は畠跡以前の堆積層である。VI層はHr-Faの一次堆積層で、複数ユニットを観察した。畠跡はこのVI層を掘り込み、水田跡はVI層に直接覆われる。

VII層は畠跡部分（VIIa層）と水田跡耕作土（VIIb層）に分かれる。VIIa層にも、Hr-Fa降下以前に畠耕作土であった可能性が残る。VIIc層は色調が暗いものの、As-Cの純層に近い。

IX層は均質な黒色粘質土層で、Aトレンチの本土層中から加曾利E式土器が1点出土したこと、W-5号溝近辺の同層から石鏃1点が出土したこと等から推し量り、縄文時代中期頃～以前の遺物包含層と判断した。X層は、いわゆる漸移層である。XI層はシルト主体の洪水層で、XII層も含めて、いわゆる総社砂層に該当する。XII層はシルトと細砂の互層で、XIIe層には大型礫が多数伴う。また、水磨作用によって球状を呈した、白色～黄白色軽石（φ2cm以下）を含む。特定はできなかったが、縄文時代中期以前に降下した火山噴出物であると推測する。

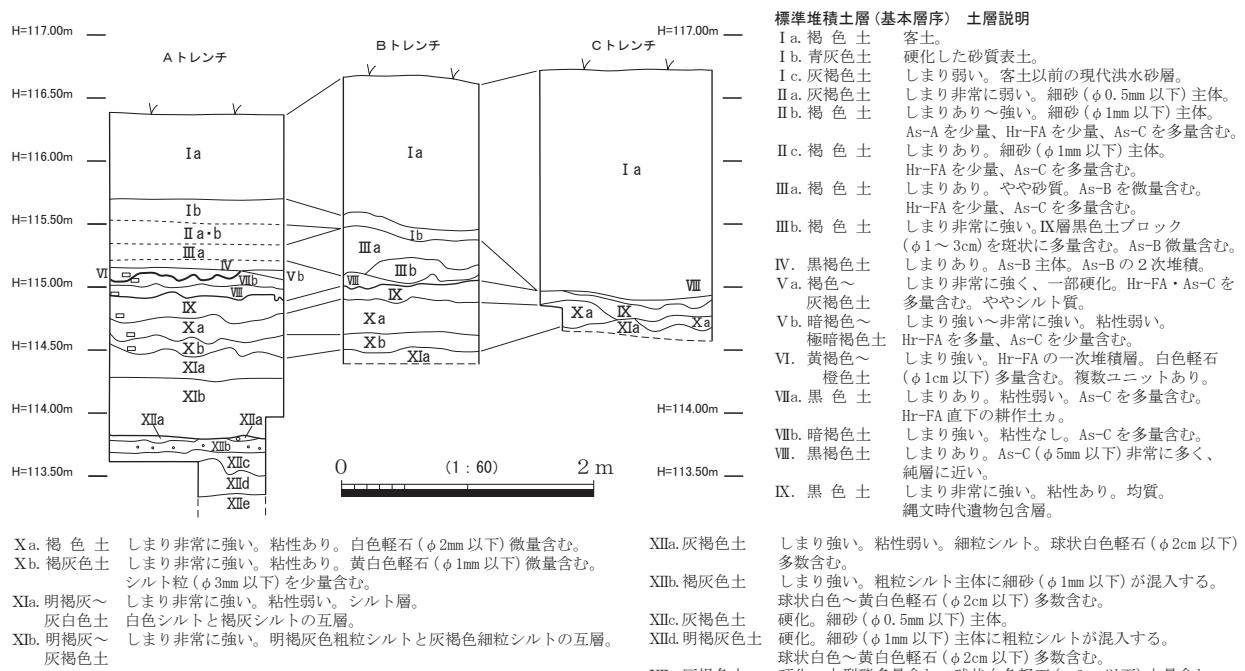


Fig. 4 標準堆積土層

## V 遺構と遺物

### 1. 遺跡の概要 (Fig. 1・5・6、PL. 1、口絵写真1)

調査区は、庁舎建設地点のA区と、備蓄水防倉庫建設地点のB区に分かれる。大きく捉えて、①Hr-FA直下の水田跡 ②Hr-FA降下以後の畠跡 ③平安時代の集落と溝 ④中世の屋敷跡・墓域 という変遷を辿る。

① Hr-FA(VI層)直下の水田跡は、A区西端のごく狭い範囲で確認した。畠跡の耕作範囲外であったために、Hr-FAが面的に層厚10～15cm程度残存しており、畦畔を1条(1号畦畔)検出した。VIIb層上面にはHr-FAが落ち込んだ小さな凹凸も多数認められたが、明瞭な人足跡は検出できなかった。

② VI層(Hr-FAの一次堆積)上面～VIII層上面において、畠跡の畝間(Hr-FAの黄褐色ブロックを含む褐色覆土)を45条確認した。断面観察ではVc層を掘り込む。Hr-FA降下後しばらく経過してから、耕作したようである。畝間の心々間隔は10～50cm程度で、畝替えを2回以上行っていると考えられる。畝間覆土からは古墳時代後期の高坏が出土しており、畠跡の時期は古墳時代後期以降と考えておきたい。

③ 古代の集落としては、10世紀代の竪穴住居跡8軒と竪穴状遺構2基を確認した。H-1・2号住居跡(以下、～号住と省略)では、カマドの袖石や天井石が崩されて、煙道部やカマド前面の床面・覆土下層から出土している。H-3～5号住は重複し、新旧関係はH-5→H-4→H-3の順である。H-3号住では主柱穴2基を確認した。貯蔵穴からは、いわゆる耳皿が出土している。H-6号住の貯蔵穴は、完形の土師器壺1点と拳大～人頭大の被熱円礫数点とが一括廃棄されている。竪穴覆土からは石帶(丸輪)や鉄製品(鏃)が出土した。H-7号住は西壁周辺の一部を、H-8号住はカマドのみを検出した。T-1・2号竪穴の時期判定は難しいが、古代の可能性が高い。T-2号竪穴は大量のHr-FAブロック・粘質土(IX・X層)ブロックで埋め戻されていた。

溝は計7条ある。W-8・13号溝は同一地点での作り替えで、覆土の類似性から、W-11号溝とはL字状に接続する可能性がある。出土遺物は10世紀代が主体で、竪穴住居跡とも主軸方位が近似するため、集落に伴う区画溝と推測する。W-1・2号溝は砂主体覆土で埋没している。集落が営まれる以前の溝と想定されるのは、自然流路状に蛇行するW-9号溝、北東～南西方向に走行するW-10号溝、痕跡的に残るW-12号溝である。

④ 中世屋敷跡はL字状に走行するW-5号溝によって台地部と低地部に分かれ、複郭状構造を呈する。台地部ではW-3・4・7号溝の埋没後に、B-1・2号建物跡が構築されるようである。特記事項として、W-3・4号溝の交点にあたる底面から、小土坑内に埋納された銭貨(一括出土銭・六縉=572枚)が発見された。埋納時期は、W-3号溝の開口時か埋没後か特定が難しい。埋没後の場合、B-1号建物跡等の関与が想定できる。

W-5号溝は、最大上端幅約3mの大溝で、南壁断面では最大深度約1mを測る。墓坑と考えられる土坑群は、全て低地部に位置し、大半が一括埋め戻し覆土である。D-9～13号土坑および1号地下式坑・I-2号井戸はW-5号溝よりも古い遺構群である。SX-1はごく浅い皿状の落ち込みで、溝に付随する遺構であろうか。低地部には約300基のピットが密集し、多数の掘立柱建物跡が重複するものと考えられる。土坑群は南北で様相が異なり、北側のD-2～8・14号土坑は比較的規模が大きく、深さも20～30cmがあり、覆土は全て一括埋め戻しである。南側のD-15～20号土坑は浅く、平面規模も小さい。また、D-2号土坑の北側・D-4号土坑の東側・D-14号土坑の西側には、墓坑を区画するような短い溝状の掘り込みがある。D-15号土坑からはヒトの歯(臼歯)3点と完形のかわらけが出土しており、確実に墓坑と判断できる。南北の土坑群の構造の違いには、時期差・機能差や、年齢および体格差・性差などの要因が推測できるものの、特定は難しい。

南端部には平面T字状の1号火葬跡が構築され、大量の炭化材と微量の骨片が検出された。火葬跡と関連するように、D-5号土坑を壊して完形の焼締陶器壺(常滑)が埋設されており、火葬蔵骨器(1号火葬墓)と判断した(ただし、骨片は未検出)。1号火葬跡の東側にはT-3号竪穴が存在し、中世の方形竪穴の可能性を考慮しておきたい。屋敷の年代は、14世紀末(あるいは15世紀初頭)～16世紀代と推測される。



Fig. 5 全体図

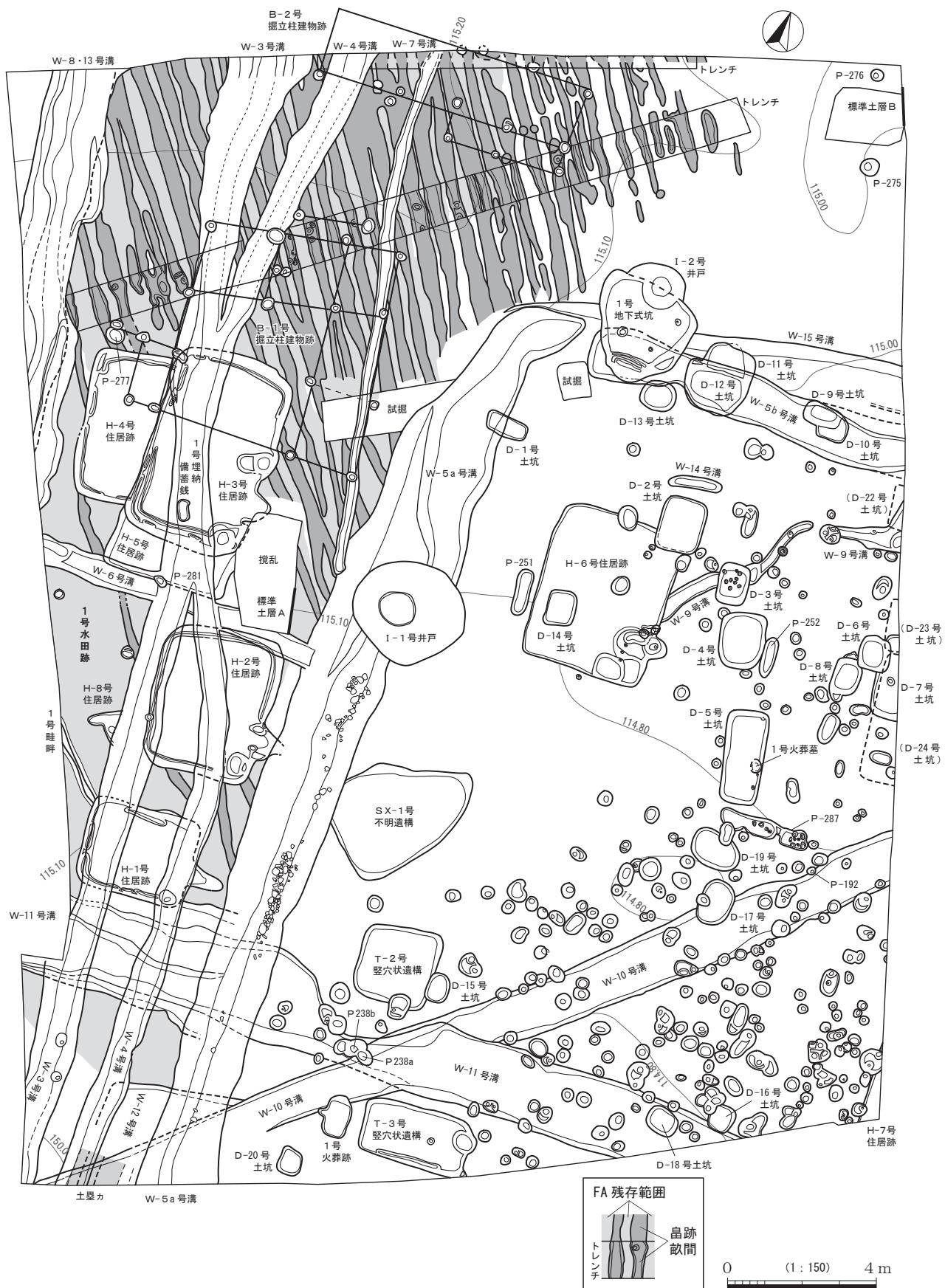


Fig. 6 A区全体図

## 2. 住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig. 7、PL. 2／遺物：Fig. 20、Tab. 6、PL. 9）

**位置：**A区南西部。X = 669 ~ 672、Y = -462 ~ -467 (X 333・334、Y 81・82)。**主軸方位：**N - 82° - E。**重複：**W - 3・4号溝に竪穴中央を破壊され、1号畦畔とW - 11号溝を切る。**平面形状：**縦長隅丸長方形を呈する。**規模：**東西 (3.00) m × 南北 2.50 m。**残存深度：**0.23 ~ 0.32 m。**床面の状態：**多少の凸凹がある。全体に強くしまる。周溝は断続的にめぐる。**カマド：**東壁中央やや南寄りに付設され、焚口部は滅失している。全長 [0.88] m、焚口部最大幅 0.62 m。煙道部からは、数個体の羽釜 (6 ~ 8) と完形の高台付塊 (4) が一括廃棄された状態で出土した。構築材には、Hr - FA が使用される。**貯蔵穴：**竪穴南東隅に位置するが、W - 4号溝によって周囲の床面は削平されている。規模は 43.8cm × 38.9cm の不整橿円形で、深さ 30cm を測る。**柱穴：**確認されていない。**貼床：**As - C や Hr - FA ブロック・粘質土ブロックを主体とする。南西部に床下土坑 (深さ 20cm) が掘り込まれている。**遺構埋没状態：**全体には自然堆積状を呈するが、1層中には多量の Hr - FA ブロックが混入し、埋め戻しの可能性がある。壁面直下と周溝覆土は、壁面に露出したVIII層 (As - C) 崩落土によって埋没する。**遺物出土状態：**カマド前面の床面直上から、被熱した扁平円礫 2点が出土した。H - 2号住の状況から類推すれば、袖石等のカマド構築材と想定される。**時期：**10世紀代と考えられる。

H-2号住居跡（遺構：Fig. 7・8、PL. 2／遺物：Fig. 20・21、Tab. 6・7、PL. 9）

**位置：**A区南西部。X = 673 ~ 677、Y = -462 ~ -466 (X 333・334、Y 80・81)。**主軸方位：**N - 86° - E (南壁はN - 82° - E)。**重複：**W - 3 ~ 6号溝に竪穴中央・西壁・北東壁・カマド煙道部を破壊され、1号畠跡を壊す。**形状：**隅丸長方形状だが、精確にはわずかに台形状を呈する。**規模：**東西 2.99 ~ 3.32 m × 南北 3.99 m。**残存深度：**0.32 ~ 0.47 m。**床面の状態：**やや凹凸があり、西側よりも東側の方が低い。全体に強くしまるが。周溝はほぼ全周する。**カマド：**東壁南寄りに付設される。全長 [0.87] m、焚口部最大幅 1.04 m。構築材・補強材と考えられる大・中型の被熱した扁平円礫各 1点と小円礫 2点および凝灰岩破片が、燃焼部～煙道部で出土した。カマド前面の覆土下層からは被熱した大型扁平円礫 2点が斜位状態で出土し、袖石と想定する。焚口部の両側縁には、袖石埋設穴と考えられる浅い窪みがある。これらの出土状況は自然崩落とは考え難く、意図的な廃棄行為を想定できる。焚口部や周辺一帯には灰層が広く分布していた。調査時にカマド石材を推定復元したので、写真図版を参照されたい。**貯蔵穴：**竪穴南東隅に位置する。規模は 63cm × 52cm の不整橿円形で、深さ 30cm を測る。**柱穴：**確認されていない。**貼床：**As - C や Hr - FA ブロック・IX～X層の粘質土ブロックを主体とする。**遺構埋没状態：**全体的には自然堆積状に見えるのだが、壁際堆積土以外は、褐色～黒褐色粘質土ブロック (IX・X層) を多量に混入しており、4層には多量の Hr - FA 黄褐色ブロックも含まれるため、埋め戻された可能性がある。**遺物出土状態：**貯蔵穴上面から、いわゆる耳皿 (1) が出土した。覆土中からは須恵器・土師器の破片が多数出土したものの、床面遺棄遺物は認められない。**時期：**10世紀代と考えられる。

H-3a・b号住居跡（遺構：Fig. 8・9、PL. 2・3／遺物：Fig. 21、Tab. 7、PL. 9）

**位置：**A区南西部。X = 679 ~ 684、Y = -465 ~ -469 (X 332・333、Y 78・79・80)。**主軸方位：**N - 86° - E。**重複：**H - 4・5号住の半分以上を破壊し、W - 3・4号溝が本竪穴中央を貫通する。また本住居跡は新旧 2回使用されており、カマドと周溝・竪穴が更新されている。古い住居跡を b、新しい住居跡を a と呼称する。**形状：**隅丸長方形を呈する。**規模：**H - 3 a 号住 = 東西 3.37 m × 南北 5.42 m。H - 3 b 号住 = 東西 (3.20) m × 南北 (5.10) m。**残存深度：**0.26 ~ 0.47 m。**床面の状態：**多少の凸凹が見られ、西側よりも東側の方が低い。周溝は断続的に内外 2条めぐり、西壁と南壁を、周溝部分のみ拡張したものと想定される。旧カマドから新カマドの前面は顕著に硬化する。硬化面は上下 2層構造となっており、貼り替えと判断できる。**カマド：**新旧 2箇所ある。旧カマド (H

－3 b号住)は東壁中央に付設され、煙道部のわずかな突出が認められる。火床面～掘り方と推測される落ち込みから、大量の焼土を検出した。旧カマドの規模は、全長(0.83)m、最大幅0.96mを測る。新カマド(H-3 a号住)は東壁南寄りにあり、褐色～黒色粘質土で構築した右袖と袖石が残存する。左袖石は崩落していた。焚口部～貯蔵穴まで灰層が広く分布する。規模は、全長0.50m、焚口部最大幅0.90mを測る。**貯蔵穴**：竪穴南東隅に位置する。規模は77cm×63cmの不整円形で、深さ26cmを測る。覆土上部は灰溜りとなっていた。**柱穴**：掘り方調査時に主柱穴2基を確認した。P1覆土上面からは灰釉陶器碗(4)が出土し、意図的廃棄と想定する。いずれも抜取後の埋め戻しと考えられるため、H-3 b号住に伴う可能性もある。規模はP1が30cm×35cm、深さ34cm(推定床面下深度45cm)、P2が30cm×33cm、深さ35cm(推定床面下深度46cm)を測る。P3(深さ11cm)・P4(深さ7cm)・P5(深さ9cm)も掘り方面で確認したが、性格不明な床下のピット・土坑であった。**貼床**：As-CやHr-FAブロック・IX～X層の粘質土ブロックを主体とする土で構築されている。**遺構埋没状態**：自然堆積状に見えるものの、IX～X層の粘質土ブロックやHr-FA黄褐色ブロック等を大量に混入するため、人為的埋め戻しの可能性が高い。砂質軟弱土の2層は自然堆積層と推定する。**遺物出土状態**：覆土中含め全体に少なく、床面遺棄遺物はほぼ皆無である。掘り方出土の羽釜(5)は、H-3 b号住に伴う遺物であろう。**時期**：10世紀代と考えられる。

#### H-4号住居跡（遺構：Fig. 8・9、PL. 2）

**位置**：A区南西部。X=679～683、Y=-469～-471(X 332、Y 79・80)。**主軸方位**：N-77°-E。**重複**：H-3号住とW-2・3号溝によって竪穴東半部を失う。現況では直接重複はないが、おそらく本住居跡はH-5号住を破壊している。**形状**：隅丸長方形状と推定する。**規模**：東西[2.27]m×南北4.11m。**残存深度**：0.35m。**床面の状態**：やや凸凹があり、西壁側から東方向へわずかに傾斜する。全体に強くしまるが、際だった硬化面は認められない。断続的に周溝がめぐる。**カマド・貯蔵穴**：H-3号住によって破壊され、不明。**柱穴**：確認されていない。**貼床**：As-CやHr-FAブロック・IX～X層の粘質土ブロックを主体とする土で構築されている。**遺構埋没状態**：1～3・5層には、IX～X層の粘質土ブロックやHr-FA黄褐色ブロック等を斑状に大量含むため、人為的埋め戻しの可能性が高い。**遺物出土状態**：覆土中から少量出土したが、いずれも小片であったため、掲載できなかった。**時期**：H-3号住より古い。10世紀代と想定する。

#### H-5号住居跡（遺構：Fig. 8・9、PL. 2・3）

**位置**：A区南西部。X=678～679、Y=-465～-468(X 332・333、Y 80)。**主軸方位**：N-88°-W。**重複**：H-7・16・22号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-7・16・22号住居跡より新しい。**形状**：隅丸長方形状と推測する。**規模**：東西3.51m×南北[1.65]m。**残存深度**：0.30m。**床面の状態**：わずかに凸凹を伴うものの、比較的平坦である。**カマド・貯蔵穴**：搅乱によって破壊され、不明。**柱穴**：確認されていない。**貼床**：As-CやHr-FAブロック・IX～X層の粘質土ブロックを主体とする土で構築されている。**遺構埋没状態**：IX～X層の粘質土ブロックやHr-FA黄褐色ブロック等を大量に混入するため、人為的埋め戻しの可能性が高い。**遺物出土状態**：覆土中よりわずかに出土したが、小片のみで、掲載できなかった。**時期**：10世紀代と推定する。

#### H-6号住居跡（遺構：Fig. 10、PL. 3／遺物：Fig. 21・22、Tab. 7、PL. 10）

**位置**：A区中央部。X=680～684、Y=-454～-457(X 335・336、Y 78・79)。**主軸方位**：N-87°-W。**重複**：W-9号溝の南西端を破壊する。また、D-2・14号土坑と、P-4・19～21・26～28によって、破壊を受ける。**形状**：不整隅丸長方形状を呈する。**規模**：東西3.55m×南北4.40m。**残存深度**：0.08～0.20m。**床面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。**カマド**：東壁南寄りに付設される。規模は、全長0.85m(左

袖端部を基点)、焚口部最大幅 0.90 m を測る。焚口部は半円形の土手状の高まりを伴い、左袖と接する。土手中央は窪みとなり、焼土の堆積が顕著である。燃焼部は竪穴東壁より外側に位置し、中央には支脚の抜取穴が残存している。右袖は失われているが、貯蔵穴に廃棄されていた数点の被熱礫は、本来カマドの構築材・補強材であろう。灰層は貯蔵穴の上面まで広く散布している。**貯蔵穴**：竪穴南東隅のやや西側に位置する。平面不整橢円形で、規模は 0.86 m × 0.68 m、深さ 0.17 ~ 0.20 m を測る。完形の壺(1)のほか、長径 15 ~ 30 cm の被熱礫 5 点と砥石(7)が一括出土し、カマド構築材の廃棄と推測する。**柱穴**：確認されていない。**貼床**：As-C や IX-X 層の粘質土ブロックを主体とする。**遺構埋没状態**：IX・X 層主体の均質覆土で、乱れもなく、自然堆積と判断する。**遺物出土状態**：カマドから貯蔵穴にかけての床面や覆土中から、壺・灰釉陶器・羽釜片等がやまとまつて出土した。また、南東隅床面から鉄鏃(5)、竪穴中央覆土下層からは石帶(6)が出土しており、注目される。**時期**：10 世紀代と考えられる。

#### H-7号住居跡（遺構：Fig. 10、PL. 10／遺物：Fig. 22、Tab. 7、PL. 10）

**位置**：A 区南東隅。X = 671 ~ 673、Y = -444 (X 338、Y 81・82)。**主軸方位**：N-85°-E。**重複**：中世ピット群に囲まれており、P-147・186 に切られる。**形状**：不明。**規模**：東西 [0.53] m × 南北 [2.24] m。**残存深度**：0.33 m。**床面の状態**：ほぼ平坦である。**カマド・貯蔵穴・柱穴**：確認されていない。**貼床**：X 層の褐色粘質土を主体とした均質な土で、強くしまる。**遺構埋没状態**：ほぼ均質な灰褐色～褐灰色土による自然堆積と判断する。**遺物出土状態**：覆土中から、完形の壺(1)が 1 点出土した。**時期**：10 世紀代と想定される。

#### H-8号住居跡（遺構：Fig. 10、PL. 3／遺物：Fig. 22、Tab. 7、PL. 10）

**位置**：A 区南東隅。X = 673 ~ 674、Y = -466 ~ -467 (X 333、Y 81)。**主軸方位**：不明。**重複**：W-3・4 号溝と H-2 号住によって、竪穴の全てを失ったものと想定している。また、本住居跡は 1 号水田・1 号畠跡を破壊する。**形状・規模・残存深度・面積・床面の状態**：全て不明。**カマド**：わずかながら灰層を検出しており、燃焼部～煙道部が残存した状態と考えられる。カマドの付設位置は、竪穴の南西隅であったと推測する。全長 [0.91] m・最大幅 0.96 m を測り、主軸は N-116°-W (64°-E) を指向する。覆土中からは灰釉陶器の瓶類胴部片が出土した。**貯蔵穴・柱穴・貼床**：確認されていない。**遺構埋没状態**：焼土を微量含む黒褐色～暗褐色土である。**遺物出土状態**：カマドから、灰釉陶器の瓶類の破片(1)が出土した。**時期**：10 世紀代と想定される。

### 3. 竪穴状遺構

#### T-1号竪穴状遺構（遺構：Fig. 13、PL. 4）

**位置**：B 区東壁中央。X = 718 ~ 720、Y = -440 (X 340、Y 69・70)。**主軸方位**：N-83°-E (7°-W)。**重複**：なし。**形状**：不整隅丸長方形状と推定する。**規模**：東西 [0.67] m × 南北 2.06 m。**残存深度**：0.10 ~ 0.28 m。**床面の状態**：P 1 を境にして、北側よりも南側の方がやや深い。全体に平坦で、強くしまった地床である。**柱穴**：P 1 は、土坑状の浅い窪みの可能性がある。**貼床**：なし。**遺構埋没状態**：As-C・Hr-FA・細砂粒を含む土で、自然堆積状に埋没する。**遺物出土状態**：土師器や須恵器の細片が少量出土したのみで、掲載には至らなかった。**時期**：覆土の状況からは古代以降、遺構分布状況からは 10 世紀代と推測するが、特定は難しい。

#### T-2号竪穴状遺構（遺構：Fig. 13、PL. 4／遺物：Fig. 22、Tab. 8、PL. 10）

**位置**：A 区南部。X = 718 ~ 720、Y = -456 ~ -458 (X 335、Y 81・82)。**主軸方位**：N-85°-E (7°-W)。**重複**：D-15 号土坑と P-92 に切られている。**形状**：隅丸正方形に近いが、わずかに不整隅丸台形を呈する。**規模**：東西 2.13 m × 南北 2.00 ~ 2.17 m。**残存深度**：0.22 ~ 0.30 m。**床面の状態**：平坦で、強くしまる地床である。

**柱穴**：なし。**貼床**：なし。**遺構埋没状態**：3層には大量の黄褐色Hr-FAブロックが斑状に混入し、4層もX層褐色粘質土を主体とすることから、一括埋め戻しであると判断する。H-4・5号住との類似性が注意される。1・2層は細砂を主体としており、人為か自然か即断できない。As-Bの混入についても肉眼で識別できなかった。現状では1・2層の埋没時期と原因を特定するのは難しい。**遺物出土状態**：覆土中から土師器・須恵器・灰釉陶器の小片が少量出土した。中世遺物は含まれていない。また、北東隅の床面からは扁平円礫が出土している。**時期**：遺物の時期は10世紀代を示しており、堅穴の主軸方位なども住居跡と近い。中世の堅穴建物である可能性も残るが、現時点では古代の遺構と判断する。

#### T-3号堅穴状遺構（遺構：Fig. 13、PL. 4／遺物：Fig. 22、Tab. 8、PL. 10）

**位置**：A区南端部。X=666～667、Y=-453～-456（X 335・336、Y 83）。**主軸方位**：N-83°-E。**重複**：W-11・12号溝の一部を破壊する。東壁はP-282・283と重複する。**形状**：基本的に不整隅丸長方形を呈する。**規模**：東西2.98m×南北1.40～1.64m。**残存深度**：0.08～0.19m。**床面の状態**：ほぼ平坦で、強くしまる地床である。南壁には浅い周溝が掘り込まれている。**柱穴**：中央東寄りに、P1（深さ13cm）がある。**貼床**：なし。**遺構埋没状態**：全体に均質な灰褐色粘質土が堆積していた。**遺物出土状態**：覆土中から土師器・須恵器の小片がわずかに出土した。中世遺物は含まれていない。**時期**：時期判定資料に欠けるが、1号火葬跡と主軸方向が一致し、なお且つ重複していないことを考慮すると、中世の堅穴建物の可能性が高いものと考える。

### 4 掘立柱建物跡

#### B-1号掘立柱建物跡（遺構：Fig. 11、PL. 4）

**位置**：X=682～688、Y=-463～-471（X 332～334、Y 77～79）。**主軸方位**：N-5°・11°-W。**重複**：H-3・4号住居跡、W-3・4・7号溝、畠跡を破壊する。**形状**：3間×3間の総柱構造で、中央と南列の各1本が抜ける。南西に張出しがある。台形と平行四辺形の中間的な平面形で、南北棟と想定する。**規模**：桁行5.14m・5.62m×桁行5.10m・6.05m。桁行平均柱間1.89m≈6.23尺。梁行平均柱間1.784m≈5.88尺。**覆土**：As-Bを含む砂質土主体である。**時期**：W-3号溝の内耳鍋から推察すれば、15世紀代と推測できる。

#### B-2号掘立柱建物跡〈P-253～260・P-264～268〉（遺構：Fig. 11、PL. 4）

**位置**：X=692～694、Y=-461～-468（X 332～334、Y 76）。**主軸方位**：N-85°-E。**重複**：H-3・4号住居跡、W-3・4・7号溝と重複する。**形状**：4間×1間+αの側柱構造で、南東に2間×1間の張出（庇）が付く。平面は長方形で、東西棟である。本来は総柱建物と推測する（VI章参照）。**規模**：桁行6.82m×梁行1.55m+α。桁行平均柱間1.626m≈5.36尺。**覆土**：As-Bを含む砂質土主体である。**時期**：北壁土層断面から、W-7号溝より新しいことは確実であり、B-1号建物跡とは同時存在の可能性が高い。よって15世紀代と推測する。

### 5 ピット（遺構：Fig. 11、Tab. 2～4、PL. 4／遺物：Fig. 22、Tab. 8、PL. 10）

B-1号掘立柱建物跡と欠番および土坑に変更したものを除いて、ピットは321基（P-1～287）確認し、重複するピットは枝番号（a・b・c）で対応した。Tab. 2～4に一覧を掲げた。覆土は特徴を類型化して記載した。B-2号掘立柱建物跡をはじめ、大半は中世の建物跡柱穴と想定し、VI章で概述する。P-8と1号地下式坑底面からは同一個体の鉄釉陶器胴部片（未掲載）が、P-238から鉄釉陶器（古瀬戸カ）の胴部片が、P-192から古銭（判読不能）がそれぞれ出土した。P-275は古墳時代後期の坏と土師器甕胴部大型片が出土し、P-276とともに1号水田跡や1号畠跡との関連が推測される。P-277・281は古代の可能性がある。

Tab. 2 ピット一覧表 (1)

[単位: cm]

P No.	グリッド	長径×短径	深さ	平面形態	覆土	遺物・備考	P No.	グリッド	長径×短径	深さ	平面形態	覆土	遺物・備考
P-1	X 336、Y 78	42×37	20	円形	C	→P2。 5建	P-68a	X 336、Y 81	41×(38)	14	略円形	C	3建
P-2	X 336、Y 78	56×53	13	略円形	B	P1→。	P-68b	X 336、Y 81	41×(38)	22	略円形	C	3建
P-3	X 337、Y 78	24×21	8	円形	B		P-69a	X 336、Y 81	28×24	38	円形	B	P69b→。 9建
P-4	X 336、Y 79	22×20	28	円形	A	H6→。	P-69b	X 336、Y 81	49×31	28	椭円形	B	→P 69a。 9建
P-5	X 335、Y 78	36×34	21	円形	B		P-70	X 336、Y 81	32×29	33	円形	上B / 下A'	
P-6	X 337、Y 78	34×24	30	椭円形	B / 炭	21建	P-71	X 336、Y 81	36×31	19	椭円形	B	
P-7	X 337、Y 78	22×19	11	円形	B		P-72	X 336、Y 81	36×32	43	円形	B	
P-8 a	X 337、Y 78	43×26	44	椭円形	B   8建	W9→。	P-73	X 336、Y 81	48×39	28	略椭円形	上B / 下A'	
P-8 b	X 337、Y 78	37×24	29	椭円形	B   7建	鉄釉陶器(地下下坑と同一個体)	P-74	X 336、Y 81	39×33	33	椭円形	B	
P-8 c	X 337、Y 78	23×14	24	略椭円形	B   8建		P-75a	X 336、Y 81	55×30	20	椭円形	B	P75b→。 4建
P-9	X 336、Y 78	38×38	45	円形	B / 炭	→P 10a。 7建	P-75b	X 336、Y 81	55×41	20	椭円形	B	→P 75a。 4建
P-10a	X 336、Y 78	29×[18]	23	円形	B	P9→。 8建	P-76	X 336、Y 81	37×32	26	円形	B	
P-10b	X 336、Y 78	(25)×22	28	椭円形	B	P9→。 8建	P-77	X 335・336、Y 81	35×35	37	円形	上B / 下A'	4建
P-10c	X 336、Y 78	88×38	10	長椭円形	B		P-78	X 335、Y 81	40×33	37	椭円形	上B / 下A'	
P-11a	X 337、Y 78	49×34	17	椭円形	B	P11b→。 16建	P-79	X 335、Y 81	47×40	15	円形	B	4建
P-11b	X 337、Y 78	67×44	8	椭円形	B	→P 11a。 16建	P-80a	X 337、Y 81	36×26	21	略椭円形	A	W11→。 11建
P-12	X 336・337、Y 78	26×25	14	円形	B	W9→。	P-80b	X 337、Y 81	48×39	18	椭円形	A	W11→。 6建
P-13	X 336、Y 78	30×29	23	円形	B		P-81	X 336、Y 81	34×30	19	円形	上A / 下B	10建
P-14	X 336・337、Y 78	33×31	22	円形	B		P-82	X 336、Y 81	51×37	52	椭円形	上B / 下A	11建
P-15	X 337、Y 78	26×25	26	円形	A	21建	P-83	X 336、Y 81・82	35×32	36	円形	A'	9建
P-16	X 337、Y 78	31×20	20	椭円形	B		P-84	X 336、Y 82	41×33	15	椭円形	A'	4建
P-17	X 336、Y 78・79	39×37	30	円形	A		P-85a	X 336、Y 81・82	30×27	33	略椭円形	A'	3建
P-18	X 336、Y 78	30×23	15	椭円形	B		P-85b	X 336、Y 82	33×33	37	円形	A'	3建
P-19	X 336、Y 78・79	16×15	22	円形	柱A / 根D	H6→。	P-85c	X 336、Y 81・82	69×52	20	略椭円形	A'	3建
P-20	X 335・336、Y 78	68×53	11	椭円形	C / D		P-86a	X 338、Y 80	24×19	(40)	円形	上B / 下B	15建
P-21	X 336、Y 78・79	48×35	7	椭円形	C / Hr - FA 黄褐色多量		P-86b	X 338、Y 80	49×38	34	椭円形	上B / 下B	14建
P-22	X 337、Y 79	30×30	30	円形	B	7建	P-87	X 337、Y 81	41×28	25	椭円形	B	10建
P-23	X 337、Y 79	33×29	27	椭円形	A	8建	P-88	X 337、Y 81	23×21	19	円形	A	
P-24	X 336、Y 79	32×31	19	円形	B		P-89a	X 337、Y 81	30×21	28	椭円形	上B / 下A'	22建
P-25	X 336、Y 79	36×32	24	椭円形	B		P-89b	X 337、Y 81	64×42	16	椭円形	上B / 下A'	9建
P-26	X 336、Y 79	53×46	11	円形	C・D	H6→。 5建	P-90	X 336、Y 82	37×35	13	円形	B	9建 / 17建
P-27	X 336、Y 79	26×20	11	椭円形	B	H6→。	P-91	D-15号土坑					
P-28	X 336、Y 79	26×24	12	椭円形	C	H6→。	P-92a	X 335、Y 82	32×18	35	椭円形	柱A / 根B	3建
P-29	X 337、Y 79	32×24	22	椭円形	B		P-92b	X 335、Y 82	72×56	22	略椭円形	柱A / 根B	4建
P-30	X 337、Y 79	34×[20]	4	不整形	B	→D 8→。	P-93	X 335、Y 82	37×28	44	略椭円形	上B / 下A'	
P-31	X 337、Y 79	25×21	8	椭円形	A		P-94	X 335、Y 82	57×53	39	円形	上B / 下B	
P-32	X 337、Y 79	46×34	25	略椭円形	A'		P-95	X 338、Y 80・81	35×24	24	椭円形	B	→P 96。 9建
P-33	X 337、Y 79	29×25	23	円形	A		P-96	X 338、Y 80・81	41×40	48	円形	柱A / 根B	P 95→。 18建
P-34	X 337、Y 79 (37)×29	8	椭円形	A		P-97	X 338、Y 81	34×24	13	椭円形	B		
P-35	X 337、Y 79 (30)×27	8	椭円形	A		P-98a	X 338、Y 81	36×23	10	円形	A'	19建	
P-36	X 337、Y 79	23×22	16	円形	A		P-98b	X 338、Y 81	72×46	20	椭円形	A'	12建
P-37	X 337、Y 79	33×28	21	円形	B		P-99	X 338、Y 81	27×25	20	円形	B	11建
P-38	X 337、Y 79	27×25	17	円形	A		P-100	X 338、Y 81	31×30	36	円形	A'	
P-39	X 336、Y 79	44×40	13	円形	B		P-101	X 337、Y 81	25×24	9	円形	A	6建
P-40	X 336、Y 79・80	14×12	12	円形	B	H6→。	P-102	X 337、Y 81	37×30	51	円形	上A / 下C	10建
P-41	X 337、Y 79	30×25	17	椭円形	A	H6→。 20建	P-103	X 337・338、Y 81	48×40	31	円形	B	17建
P-42a	X 338、Y 79 (47)×33	8	椭円形	B		P-104	X 337、Y 81	27×25	27	円形	B	15建	
P-42b	X 338、Y 79 (35)×33	7	円形	B		P-105	X 337、Y 81	30×28	22	円形	D		
P-43	X 337、Y 79	46×24	9	長椭円形	A		P-106a	X 337、Y 81	71×40	17	椭円形	B	→P 123。 3建
P-44	X 337、Y 80	28×25	18	円形	柱A / 根B	20建	P-106b	X 337、Y 81	37×[20]	6	略椭円形	B	15建
P-45	X 337、Y 80	34×33	8	円形	B	P 46→。 20建	P-107	X 337、Y 81	23×21	15	円形	B	
P-46	X 337、Y 80 (45)×34	11	椭円形	B		P-108	X 337、Y 81	33×32	39	円形	B	14建	
P-47	X 337、Y 80	30×27	19	円形	B		P-109	X 337、Y 81	34×22	43	椭円形	D   P 110a・b→。 10建	
P-48	X 336、Y 80	46×38	30	椭円形	B		P-110a	X 337、Y 81 (50)×41	32	椭円形	B	→P 109。	
P-49	X 336、Y 80	41×41	46	円形	B		P-110b	X 337、Y 81・82	26×22	29	円形	B	→P 109。 9建
P-50	X 337、Y 80	26×25	11	円形	B		P-110c	X 337、Y 81・82	41×41	19	円形	B	9建
P-51	X 337、Y 80	25×20	11	椭円形	A		P-111	X 337、Y 82	53×34	42	椭円形	柱A' / 根C・D	19建
P-52	X 337、Y 80	33×31	22	円形	柱A'	W11→。 9建	P-112	X 337、Y 82	29×28	8	円形	A'	15建
P-53a	X 337、Y 81	34×21	44	椭円形	B		P-113	X 336、Y 82	42×33	36	椭円形	上A / 下D	10建
P-53b	X 337、Y 81	43×35	24	円形	B		P-114	X 336、Y 82	38×37	41	円形	上B / 下A'	9建
P-54	X 336、Y 81	62×39	35	長椭円形	B		P-115	X 336、Y 82	54×43	15	円形	B	11建
P-55a	X 336、Y 81	35×26	18	椭円形	柱A	P 55b→。 9建	P-116	X 338、Y 81	27×24	20	円形	A	15建
P-55b	X 336、Y 81	47×32	8	椭円形	根C / B・炭	→P 55a。 9建	P-117	X 338、Y 81	24×21	24	略椭円形		11建
P-56	X 338、Y 80	27×22	19	椭円形	B	W11→。 14建	P-118	X 338、Y 81	27×25	27	円形	A	
P-57	X 338、Y 80	29×23	18	椭円形	上B / 下A'	W11→。 15建	P-119	X 338、Y 81	34×30	8	円形	B	
P-58	X 337・338、Y 80	31×31	22	円形	上B / 下D	W11→。 14建	P-120	X 338、Y 81	54×27	18	長椭円形	上面B / 下D	13建
P-59	X 337・338、Y 80	26×25	18	円形	B		P-121	X 338、Y 81	26×23	30	円形	D	
P-60	X 337、Y 80	39×39	13	円形	A'・炭		P-122	X 337・338、Y 81	31×25	27	椭円形	A'	14建
P-61	X 337、Y 81	28×22	19	椭円形	B		P-123	X 337、Y 81	49×47	48	略椭円形	B	P 106→。 19建
P-62	X 337、Y 81	25.1×23.7	10	椭円形	B		P-124	X 337、Y 81	42×37	47	円形	上B / 下D	11建
P-63	X 336、Y 81	42.0×38.2	35	円形	上A / 下B	10建							
P-64	X 336、Y 81	37.5×30.1	26	略椭円形	B	9建							
P-65	X 336、Y 81	35×33	30	円形	上B / 下A	18建							
P-66	X 336、Y 81	30×30	23	円形	B	11建							
P-67	X 336、Y 81	32×29	38	円形	B								

\*備考欄の矢印は新旧関係を示す。例えば、「W9→」は「W9号溝を切る場合は「W9→」、逆に切られる場合は「→W9」、不明な場合は「→W9→」あるいは未記入。覆土欄の略表記は、「柱」=柱痕、「根」=根固め、「閉」=閉塞土、「埋」=埋戻土、「炭」=炭化物含有、「上」=上層、「下」=下層、「微」=微量をそれぞれ表す。掘立柱建物の構成柱穴と想定したピットには、「9建」「B-2建物」等と表記した。

Tab. 3 ピット一覧表 (2)

P No.	グリッド	長径×短径	深さ	平面形態	覆土	遺物・備考	P No.	グリッド	長径×短径	深さ	平面形態	覆土	遺物・備考
P-125	X 337、Y 82	32 × 26	18	楕円形	B		P-185	X 338、Y 81	26 × 39	47	楕円形	A	H 7→。
P-126	X 336、Y 82	36 × 35	39	円形	上B / 下A'		P-186a	X 338、Y 81	24 × 26	30	円形	A'	H 7→。13建
P-127	X 338、Y 81	26 × 26	26	円形	A / 下A'		P-186b	X 338、Y 81	25 × 24	31	円形	A'	
P-128	X 338、Y 81	33 × 26	36	楕円形	上A' / 下D	P 188→。 →P 187。	P-186c	X 338、Y 81	72 × 67	21	円形	A'	H 7→。
P-129	X 338、Y 81	30 × 19	45	略楕円形	柱A' / 根B・D	P 187→。19建	P-187	X 338、Y 81	30 × 23	44	楕円形	B	P 128→。 →P 129。14建
P-130	X 337・338、 Y 81	34 × 45	51	楕円形	閉B / 柱A / 根B・D	P 190→。	P-188	X 338、Y 81	29 × 28	35	隅丸方形	B	P 189→。 →P 128。
P-131	X 337、Y 81	29 × 23	35	円形	B	P 132→。	P-189	X 338、Y 81	27 × (20)	19	楕円形	B	→P 137。10建 →P 188。
P-132	X 337、 Y 81・82	38 × 37	43	略円形	柱A' / 根B	→P 131。17建	P-190a	X 337・338、 Y 81	(66) × 39	38	長楕円形	閉B / 埋A'・B	→P 130。10建
P-133	X 337、 Y 81・82	44 × 42	22	円形	上B / 下D	12建	P-190b	X 337・338、 Y 81	(45) × 38	38	楕円形	閉B / 埋A'・B	9建
P-134	X 337、 Y 81・82	47 × 44	18	円形	柱A' / 根D	17建	P-191	X 337・338、 Y 80	44 × 34	16	楕円形	D	→P 192。21建
P-135	X 336、Y 78	20 × 14	16	楕円形		21建	P-192	X 337・338、 Y 80	24 × 20	16	楕円形	B	P 191→。 古錢。
P-136	X 338、Y 81	22 × 21	26	円形	A		P-193	X 338、Y 81	25 × 19	43	楕円形	B	
P-137	X 338、Y 81	47 × 31	31	楕円形	柱A' / 根B	P 189→。 P 198→。	P-194	X 337、Y 82	40 × 35	8	円形	上B	P 162→。 P 163→。
P-138	X 338、Y 81	29 × 28	31	円形	A	9建	P-195a	X 337、Y 80	38 × 33	39	円形	B	15建
P-139	X 338、Y 81	61 × 41	19	楕円形	B	→P 140。22建	P-195b	X 337、Y 80	63 × 37	28	楕円形	B	→P 196。
P-140a	X 338、Y 81	64 × 49	33	楕円形	上A' / 下D	P 139→。	P-196	X 337、Y 80	32 × 32	33	円形	A'	P 195b→。6建
P-140b	X 338、Y 81	28 × (26)	44	円形	上A' / 下D	P 139→。11建	P-197	X 338、Y 81	26 × 26	24	円形	B	
P-141	X 337、Y 82	34 × 26	37	楕円形	上B / 下D	18建	P-198a	X 338、Y 81	(25) × 20	49	楕円形	B	→P 137。
P-142	X 337、Y 82	41 × 37	42	円形	B	3建	P-198b	X 338、Y 81	57 × (25)	35	長楕円形	B	→P 137。15建
P-143a	X 337、Y 82	50 × 36	58	楕円形	上A' / 下D	10建	P-199	X 338、Y 81	30 × 27	42	円形	B	
P-143b	X 337、Y 82	64 × 49	36	楕円形	上B / 下D	(→P 144)22建	P-200	X 338、Y 82	20 × 19	13	円形	柱A / 根B	→P 201。
P-144	X 337、Y 82	39 × 31	58	円形	上B / 中D /下A'	9建	P-201	X 338、Y 82	32 × 23	24	楕円形	柱A / 根B	P 200→。13建
P-145	X 337、Y 82	33 × 33	11	円形	A'		P-202	X 337、Y 82	39 × 39	25	円形	B・D	15建
P-146	X 337、Y 82	33 × 25	21	楕円形	上A' / 下D	11建	P-203	X 337、Y 78	18 × 16	9	円形	A'	7建
P-147a	X 338、Y 81	21 × 16	53	楕円形	閉B / 柱A' /根D	12建	P-204	X 336、Y 78	29 × 25	11	楕円形	B	21建
P-147b	X 338、 Y 81・82	40 × 37	42	円形	閉B / 柱A' /根D	12建	P-205	X 337、Y 78	29 × 28	35	円形	B	6建 / 21建
P-148	X 338、Y 81	45 × 42	44	楕円形	根A' / 根D	22建	P-206	X 337、Y 78	21 × 20	10	円形	A'	7建
P-149	X 338、Y 81	25 × 21	22	楕円形	A'	14建	P-207	X 338、Y 79	34 × 29	15	円形	B	6建
P-150	X 338、 Y 81・82	33 × 32	28	円形	根A' / 根B・D	13建	P-208	X 337、Y 79	28 × 25	13	円形	B	21建
P-151	X 338、 Y 81・82	41 × 39	46	円形	B	12建	P-209	X 337、Y 80	22 × 22	4	円形	A'	21建
P-152	X 337・338、 Y 82	60 × 39	9	楕円形	A'		P-210	X 337、Y 80	26 × 21	22	楕円形	A'	15建
P-153a	X 337、Y 82	29 × 27	42	円形	上B / 下D	19建	P-211a	X 338、Y 80	38 × 35	39	楕円形	B	9建
P-153b	X 337、Y 82	24 × [15]	7	楕円形	上B / 下D	19建	P-211b	X 338、Y 80	55 × 46	10	楕円形	B	12建 / 19建
P-154	X 337、Y 82	26 × 25	29	円形	上B / 下D		P-212	X 337、Y 80	36 × 31	52	楕円形	A'	14建
P-155	X 337、Y 82	27 × 16	7	楕円形	A'		P-213	X 337、Y 80	26 × 26	24	円形	B	14建
P-156	X 338、Y 82	19 × 19	16	円形	B	18建	P-214a	X 337、Y 80	42 × 39	33	円形	柱A' / 根B	D 19→。21建
P-157	X 338、Y 82	(26) × 22	20	楕円形	B	→P 158。	P-214b	X 337、Y 80	(44) × 35	36	楕円形	柱A' / 根B	D 19→。9建
P-158	X 338、Y 82	(39) × 28	8	楕円形	B	P 157→。19建	P-215	X 337、Y 80	30 × 27	40	円形	B	12建
P-159	X 338、Y 82	50 × 36	13	楕円形	A'	9建	P-216	X 337、Y 81	37 × 31	22	略円形	柱A' / 根B	D 17→。9建
P-160a	X 338、Y 82	48 × 39	22	楕円形	B	11建	P-217	X 337、Y 80・81	50 × 48	54	円形	B	9建 / 18建
P-160b	X 338、Y 82	79 × (53)	10	不整形	B	22建	P-218	X 337、Y 81	23 × 20	8	円形	B・炭微	10建
P-161	D-16号土坑						P-219a	X 337、Y 81	30 × 24	22	楕円形	B・炭微	19建
P-162	X 337、Y 82	39 × 37	47	円形	D	→P 163。9建	P-219b	X 337、Y 81	29 × 20	12	楕円形	B・炭微	19建
P-163	X 337・338、 Y 82	47 × 31	33	楕円形	B・D	P 162→。 →P 194。10建	P-220	X 338、Y 81	24 × 22	18	円形	A'	P 221→。10建
P-164	X 337、Y 82	27 × 26	16	円形	柱A'・炭 / 根D	15建	P-221	X 338、Y 81	31 × 24	36	楕円形	B	→P 220。9建
P-165	X 337、Y 82	36 × 32	20	楕円形	柱A'・炭 / 根D・B	18建	P-222	X 338、Y 81	30 × 27	46	円形	B	18建
P-166	D-18号土坑						P-223	X 337、Y 81	34 × 31	25	円形	B	17建
P-167	X 337、Y 82	25 × 24	18	円形	B		P-224	X 336・337、 Y 83	33 × 32	19	円形	A'	6建
P-168	X 337、Y 82	48 × 40	41	楕円形	上A'・炭 / 下B		P-225	X 336・337、 Y 83	34 × 33	18	円形	B	19建
P-169	X 337、Y 82	35 × 27	36	楕円形	上B / 下D	9建	P-226	X 336、Y 83	35 × 23	12	楕円形	柱A' / 根B	
P-170	X 337、Y 82	47 × 39	34	楕円形	柱A' / 根B	10建	P-227	X 336、Y 83	28 × 26	11	円形	A'	
P-171	X 337、Y 82	42 × 41	12	円形	柱A / 根B・D	15建	P-228	X 336、 Y 81・82	35 × 33	44	円形	柱A	17建
P-172	X 336・337、 Y 82	35 × 32	21	円形	柱A / 根B・D	19建	P-229	X 336、Y 82	27 × 27	23	円形	B	4建
P-173a	X 336、Y 82	32 × 28	30	円形	柱A'・炭 / 根B・D	10建	P-230	X 337、Y 81	38 × 37	16	楕円形	B	→P 231。13建
P-173b	X 336、Y 82	46 × 36	17	楕円形	柱A'・炭 / 根B・D	9建	P-231	X 337、 Y 81・82	(37) × 29	14	楕円形	A	P 230→。14建
P-174	X 336、Y 82	34 × 31	16	円形	B	3建	P-232	X 337、Y 80	34 × 38	32	円形	B	6建
P-175a	X 336、Y 82	24 × 16	25	楕円形	B		P-233	X 337、 Y 80・81	53 × 42	28	楕円形	B	
P-175b	X 336、Y 82	(25) × 17	26	楕円形	B		P-234	X 336・337、 Y 80・81	65 × 60	46	円形	B	3建
P-176	X 336、Y 82	43 × 27	6	楕円形	B	18建	P-235	X 336、 Y 80・81	(40) × 34	23	楕円形	B	18建
P-177	X 338、Y 80	34 × 37	25	円形	A'・B	6建	P-236	X 336、Y 82	41 × 32	42	楕円形	B	
P-178	X 338、Y 80	30 × 27	26	円形	A'・B	15建	P-237	X 336、 Y 82・83	40 × 29	15	楕円形	柱A' / 根B	17建
P-179	X 337、Y 81	32 × 30	23	円形	A'・B	12建	P-238a	X 335、Y 82	66 × 43	47	楕円形	B	→P 239。鉄軸
P-180	X 337、Y 81	36 × 30	38	楕円形	下B・D	11建	P-238b	X 335、Y 82	53 × 38	29	楕円形	B	陶器(瓶ガラ)。
P-181	X 337、Y 81	30 × 30	25	円形	B	13建	P-239	X 335、Y 82	53 × 37	29	楕円形	A'	P 238→。
P-182	X 337、Y 82	31 × 30	36	円形	上A' / 下D	11建 / 17建	P-240	X 335、Y 82	34 × 32	8	円形	B	
P-183	X 337、Y 82	33 × 33	43	円形	柱A・炭 / 根A' / 下D	13建	P-241	X 334・335、 Y 82	43 × 42	28	円形	柱A' / 根B	
P-184	X 336、Y 82	44 × 43	55	円形	上B / 下D	18建	P-242	X 335、Y 82	39 × 34	26	楕円形	B	
P-185	X 336、Y 82	39 × 31	33	楕円形			P-243	X 336、Y 80	35 × 27	16	楕円形	柱A' / 根B	17建
P-186	X 336、Y 82	30 × 30	25	円形			P-244	X 336、Y 81	41 × 36	43	楕円形	柱A' / 根B	
P-187	X 336、Y 82	31 × 30	36	円形			P-245	X 336、Y 81	30 × 30	28	円形	B	10建

Tab. 4 ピット一覧表 (3)

[単位: cm]

P No.	グリッド	長径×短径	深さ	平面形態	覆土	遺物・備考	P No.	グリッド	長径×短径	深さ	平面形態	覆土	遺物・備考
P-246	X 335、Y 82・83	31×25	10	楕円形		3建	P-265	X 334、Y 76	30×[12]	16	円形	B	B-2建物。
P-247	X 336、Y 81、82	44×(31)	24	楕円形	B	9建	P-266	X 334、Y 76	27×26	14	円形	A	B-2建物。
P-248	X 337、Y 80	26×20	9	楕円形	柱A'/根B	15建	P-267	X 333、Y 76	16×[7]	40	円形	上A / 下A'	B-2建物。
P-249	X 337、Y 80	26×24	8	略円形	B		P-268	X 333、Y 76	18×[7]	40	円形	A	B-2建物。
P-250	X 337、Y 81	26×22	11	円形	A'		P-269	X 338、Y 80	31×(30)	35	円形	上B / 下A'	15建
P-251	X 335、Y 79	127×42	13	長楕円形		溝状。	P-270	X 338、Y 80	20×[7]	15	円形	上B / 下A'	
P-252	X 337、Y 79	111×37	15	長楕円形		溝状。北端21建	P-271	X 338、Y 80	23×18	5	略楕円形	A'	6建
P-253	X 334、Y 76	33×30	15	円形	A	B-2建物。	P-272	X 338、Y 80	19×17	4	楕円形	C	20建
P-254a	X 334、Y 76	27×26	21	円形	A	B-2建物。	P-273	X 337、Y 80	(35)×23	3	楕円形		
P-254b	X 334、Y 76	39×29	11	楕円形	A	B-2建物。	P-274	X 338、Y 79	34×29	29	円形	B	
P-255	X 333、Y 76	30×26	15	略円形	A	B-2建物。	P-275	X 336、Y 75	52×47	79	円形	黒褐色土	坏・壊(古墳)
P-256	X 333、Y 76	24×23	20	円形	A	B-2建物。	P-276	X 336、Y 75	35×32	39	円形	黒褐色土	(古墳)
P-257	X 333、Y 76	30×26	34	楕円形	A	B-2建物。	P-277	X 332、Y 79	52×45	14	円形	褐色土	→B 1。(古代)
P-258	X 332、Y 76	29×28	27	円形	A・B	B-2建物。	p-278	X 337、Y 79	85×45	25	長楕円形		16建
P-259	X 334、Y 76	27×25	8	円形	A	B-2建物。	P-279	X 332、Y 80	27×25	19	円形	A'	水田→。
P-260	X 333、Y 76・77	24×22	8	円形	A	B-2建物。	P-281	X 333、Y 80	39×28	13	略楕円形	褐色(古代)	→W 6。 H 5→。(古代)
P-261	X 335、Y 82	53×49	51	円形			P-282	X 336、Y 83	68×63	28	略円形	T 3類似	→T 3→。3建
P-262a	X 335、Y 82	28×(24)	41	円形			P-283	X 336、Y 83	31×(21)	4	楕円形	T 3類似	→T 3→。
P-262b	X 335、Y 82	56×41	22	楕円形			P-284	X 337、Y 79	(45)×[17]	4	不整形	D 8類似	→D 8→。16建
P-263	X 336、Y 83	34×33	18	円形			P-285	X 333、Y 80・81	35×23	26	楕円形	A'	水田→。
P-264	X 334、Y 76	22×20	6	円形	B	B-2建物。	P-286	X 336、Y 78	64×51	14	楕円形		D 3→。5建
							P-287	X 337、Y 80	251×51	6	不整形	A'・B	W 6溝残欠カ

※欠番・・・P 280

## 6 地下式坑

1号地下式坑 (遺構: Fig. 13、PL. 5)

**位置:** A区北部。X = 688 ~ 690、Y = -456 ~ -459 (X 335、Y 77)。主軸方位: N-0°。重複: I-2号井戸が再利用する形で重複し、その後W-5号溝に切られる。形状: 主室と豎坑との弁別は難しく、全体が丸みを帯びた逆三角形状、あるいは扇形を呈する。規模: 東西 1.35 ~ 2.74 m × 南北 (2.68) m。残存深度: 0.60 ~ 0.78 m。底面の状態: ほぼ平坦で、小ピット状の窪みが数箇所ある。豎坑部壁面直下の底面には、浅い溝が平行して2条掘り込まれおり、出入口施設の痕跡と推測される。溝に横木を設置して、その上に梯子を乗せたものであろうか。遺構埋没状態: 上部はW-5号溝・I-2号井戸によって滅失する。細砂主体の井戸覆土は、地下式坑壁面まで堆積している。豎坑部を埋め戻した後で、天井 (=均質なVb層) が崩落 (あるいは意図的に破壊) し、その後に井戸として再利用している。地下式坑底面~壁面には均質な黒褐色粘質土が堆積し、腐食土壤化した有機質層と想定する。遺物出土状態: 底面および最下層から、鉄釉陶器胴部片 (未掲載) が出土している。この陶器片の同一個体 (接合点なし) がP-8から出土しており、注意される。底面中央には自然円礫1点が置かれていた。ほかに覆土中から円礫数点が出土した。時期: 中世と考えられる。

## 7 土坑・火葬墓 (蔵骨器)

(遺構: Fig. 14・15、Tab. 5、PL. 5・6 / 遺物: Fig. 22、Tab. 8、PL. 10、巻頭図版2)

土坑は23基 (D-1 ~ 20・22 ~ 24号土坑) 確認した。全て中世の所産と判断する。D-1号土坑は最新時期の可能性がある。各土坑の属性・計測値等はTab. 5に示した。確実に墓坑と特定できるのはD-15号土坑で、小規模土坑ながら、人の臼歯3点と副葬品のかわらけ2点が出土した。D-5号土坑埋没後には完形焼締陶器壺が埋設され、火葬蔵骨器と判断した。以上の事例から、基本的にはW-5号溝に囲まれた低地部は、墓域として捉える事ができる。土坑群は大きく4群に分かれ、その特徴を以下に列記しておく。

- ①比較的小規模で浅く、楕円形を主体とし、南側の建物群集中部に散在する一群 (D-15 ~ 20号土坑)
- ②比較的規模が大きく、隅丸長方形を呈し、粘質土で埋戻され、北側に集中する一群 (D-2 ~ 8・14号土坑)
- ③W-5号溝より古く、不整形で、一部は袋状を呈し、北縁に列状分布する一群 (D-9 ~ 13号土坑)
- ④確認面ではすでに消滅し、東壁土層断面のみで検出した、比較的軟弱な砂主体覆土の一群 (D-22 ~ 24号土坑)

1号火葬墓 (蔵骨器) についても、計測値等はTab. 5に記載した。埋設土坑は、蔵骨器より一回り大きい程度で、土坑底面には蔵骨器底部が密着していた。蔵骨器は斜位埋設され、遺構確認時には空洞化した口縁内部が

明瞭に視認できた。蓋の存在は不明である。壺内部の土壤を水洗選別したが、人骨や動植物遺体、人工遺物は検出できなかった。壺の時期は中野編年（2005）の常滑10型式～12型式（15世紀後半～16世紀）の間と推測される。16世紀末まで下る可能性もある。

Tab. 5 土坑・火葬墓一覧表

遺構名	グリッド	主軸方位	長軸×短軸 (m)	深さ (m)	平面形態	断面形態	遺物	備考
D-1号土坑	X 685・Y-459・-460 (X 334・336、Y 78)	N-87°-W	1.14 × 0.54	0.19	隅丸 長方形	箱形～逆台形	—	砂質覆土。W-5号溝を切る。
D-2号土坑	X 684・685、Y-454・-455 (X 336、Y 78)	N-6°-W	1.50 × 1.20	0.12	隅丸 長方形	浅皿状	—	一括埋戻。H-6号住居跡を切る。 W-14号溝が北側に隣接する。
D-3号土坑	X 683・684、Y-452・-453 (X 336、Y 78・79)	N-12°-W	1.12 × 0.84	0.36	隅丸 長方形	逆台形	—	一括埋戻。底面に小ビット多数。 W-9号溝を切る。
D-4号土坑	X 682・683、Y-451・-452 (X 336・337、Y 79)	N-14°-W	1.56 × 1.26	0.26	不整隅丸 長方形	箱形～逆台形	青磁碗 1	一括埋戻。P-24・29・252と重複。
D-5号土坑	X 678～680、Y-450・-451 (X 337、Y 79・80)	N-15°-W	2.54 × 1.13	0.30	隅丸 長方形	逆台形	土師質土器	一括埋戻。本土坑埋没後に蔵骨器 (1号火葬墓)が埋納される。
D-6号土坑	X 683、Y-448・-449 (X 337、Y 79)	N-13°-W	0.96 × 0.85	0.19	不整隅丸 正方形	逆台形	—	一括埋戻。D-7・8号土坑を切る。
D-7号土坑	X 682・683、Y-449 (X 337・338、Y 78・79)	N-10°-W	2.29 × [0.96]	0.30	隅丸 長方形	箱形～逆台形	—	一括埋戻。D-23号土坑を切り、 D-6・24号土坑に壊される。
D-8号土坑	X 682～684、Y-447・-448 (X 337、Y 79)	N-3°-W	1.01 (1.43) × 0.74	0.29	不整隅丸 長方形	逆台形	—	一括埋戻。D-6号土坑に切られる。 南北両端に非常に浅い張出部がある。
D-9号土坑	X 688・689、Y-452 (X 336、Y 77)	N-87°-E	1.06 × 0.62	0.45	不整 長楕円形	U字状・ 北壁袋状	—	一括埋戻。D-10号土坑を切る。 W-5号溝に壊される。底面硬化。
D-10号土坑	X 688・689、Y-451・-452 (X 336・337、Y 77)	N-87°-E	0.85 × 0.70	0.03	不整方形	浅皿状	—	一括埋戻。砂質覆土。 D-9号土坑・W-5号溝に壊される。
D-11号土坑	X 688・689、Y-454・-455 (X 336・337、Y 77)	N-85°-E	1.44 × 0.94 (1.05)	0.45	不整隅丸 長方形か	逆台形・ 北壁袋状	—	一括埋戻。D-12号土坑を切る。 W-5号溝に壊される。底面硬化。
D-12号土坑	X 688・689、Y-454～-456 (X 335・336、Y 77)	N-80°-E	1.74 × 1.38	0.38	不整 長楕円形	逆台形	—	一括埋戻。底面硬化。 D-11号土坑・W-5号溝に壊される。
D-13号土坑	X 687・688、Y-456・-457 (X 335、Y 77・78)	N-80°-E	0.97 × 0.80	0.18	楕円形	深皿状	—	一括埋戻。W-5号溝に壊される。
D-14号土坑	X 681、Y-456・-457 (X 335、Y 79)	N-8°-W	1.01 × 0.81	0.39	不整隅丸 長方形	箱形	—	一括埋戻。H-6号住居跡を切る。 P-251が西側に隣接する。
D-15号土坑 (P-91)	X 670・671、Y-455・-456 (X 335・336、Y 82)	N-6°-W	1.41 × 0.85	0.10	不整 楕円形	浅皿状	かわらけ 2 人臼歯 3	T-2号竪穴状遺構を切る。
D-16号土坑 (P-161)	X 670・671、Y-455・-456 (X 335・336、Y 82)	N-0°	0.73 × 0.70	0.10	不整隅丸 正方形	浅皿状	—	W-11号溝を切る。 P-162・163と重複する。
D-17号土坑	X 675・676、Y-449・-450 (X 337、Y 80)	N-0°	1.25 × 1.06	0.07	楕円形	浅皿状	—	W-10号溝を切る P-216に壊される。
D-18号土坑 (P-166)	X 669・670、Y-448・-449 (X 337、Y 82)	N-79°-W	0.88 × 0.68	[0.11] (0.25)	不整隅丸 長方形	逆台形	—	一括埋戻。W-11号溝を切る。
D-19号土坑	X 676・677、Y-450・-451 (X 337、Y 80)	N-79°-W	1.40 × 0.95	0.12	不整 楕円形	浅皿状	—	P-214に壊される。
D-20号土坑	X 664・665、Y-457・-458 (X 335、Y 83)	N-5°-W	0.74 × 0.63	[0.08]	不整隅丸 方形	浅皿状	—	一括埋戻。 As-B混土により、上部削平。
D-21号土坑	欠番							
D-22号土坑	X 686～688、Y-448・-449 (X 337、Y 77・78)	N-10°-W 前後	1.29 × —	0.32	(長方形)	(逆台形)	—	砂質覆土。東壁断面確認のみ。 W-9号溝を切る。W-5号溝と接する。
D-23号土坑	X 684、Y-448 (X 337、Y 78)	N-10°-W 前後	[0.95] × —	0.24	(長方形)	(逆台形)	—	砂質覆土。東壁断面確認のみ。 D-7号土坑に壊され、D-24号土坑と重複する。
D-24号土坑	X 680～684、Y-447・-448 (X 337・338、Y 78・79)	N-10°-W 前後	3.37 × —	0.30	(長方形)	(逆台形) ～箱形	—	砂質覆土。東壁断面確認のみ。 D-7号土坑を壊し、D-23号土坑と重複する。
遺構名	グリッド	主軸方位	長軸×短軸 (m)	深さ (m)	平面形態	断面形態	遺物	備考
1号火葬墓 (蔵骨器)	X 679、Y-450 (X 337、Y 80)	—	0.36 × [0.25]	0.28	略円形	擂鉢状	蔵骨器 1	完形焼締陶器(常滑)を蔵骨器と推定。骨片ほか 動植物遺体未検出。肩部刻書。

## 8 火葬跡

### 1号火葬跡 (遺構: Fig. 15、PL. 6)

位置: A区南端。X=666・667、Y=-457 (X 335、Y 83)。主軸方位: N-5°-W。重複: W-10号溝を破壊する。

形状: 不整楕円形を呈し、西壁中央に張り出しを伴う。いわゆるT字状の火葬土坑である。規模: 東西0.69 m × 南北1.16 m。(張り出し部)東西0.19 m × 南北0.20 m。残存深度: 0.05～0.25 m。底面の状態: 凹凸が著しく、顕著な赤化・硬化は認められない。多数の小枝状炭化材が不規則に深く突き刺された状態で検出された。

遺構埋没状態: 炭化材・炭化物を主体とする単層で埋没している。遺物出土状態: 多量の炭化物・炭化材を検出したが、燃焼時の材の置き方を推測できるような状態ではなかった。ただし、底面に突き刺された材は棺を支える杭の可能性がある。ほかに、微細骨片を微量検出した。時期: その特徴的形状から、中世と考えられる。

## 9. 溝 跡

### W-1号溝（遺構：Fig. 5・6・18、PL. 7）

**位置：**B区北西。X = 715 ~ 721、Y = -447 ~ -448 (X 337・338、Y 69・70・71)。**主軸方位：**N - 4° - E。**重複：**なし。ただし、W-2号溝とは接続する可能性がある。**規模：**上端幅 0.89 ~ 1.05 m、下端幅 0.38 ~ 0.58 m。**残存深度：**0.16 m。**断面形態：**不整形な浅皿状を呈する。**底面の状態：**やや凹凸がある。全体には北から南へと緩やかに下り傾斜する。**遺構埋没状態：**黄褐色の粗砂～暗灰褐色の細砂が埋積しており、流水が埋没原因であろう。**遺物出土状態：**覆土中から磨耗した土師器小片がわずかに出土したのみである。**時期：**出土遺物による時期判定は難しい。覆土に Hr - FA あるいは Hr - FP と思われる軽石が含まれることから、構築はそれ以後と考えられる。A区の遺構分布状況から推測して、古代以降と捉えておきたい。

### W-2号溝（遺構：Fig. 5・6・18、PL. 7）

**位置：**B区南西隅。X = 709 ~ 711、Y = -439 ~ -445 (X 338・339・340、Y 72)。**主軸方位：**N - 100° - E。**重複：**なし。ただし、W-1号溝とは接続する可能性がある。**規模：**非常に不整形な平面形状である。上端幅 0.32 ~ 1.71 m、下端幅 0.14 ~ 1.59 m。**残存深度：**0.05 ~ 0.10 m。**断面形態：**浅皿状を呈する。**底面の状態：**やや凹凸がある。**遺構埋没状態：**W-1号溝の2層と同様で、流水を想定できる。位置や平面形から考えると、本溝はW-1号溝から分岐した自然流路の可能性も残る。**遺物出土状態：**土師器小片がわずかに出土したのみである。**時期：**覆土に Hr - FA あるいは Hr - FP と思われる軽石が含まれることから、構築はそれ以後と考えられる。A区の遺構分布状況から推測して、古代以降と捉えておきたい。

### W-3号溝（遺構：Fig. 16・17、PL. 7 / 遺物：Fig. 23、Tab. 8、PL. 10）

**位置：**A区西縁。X = 662 ~ 692、Y = -464 ~ -471 (X 332・333、Y 76 ~ 84)。調査期間等の制約から、完掘できなかった範囲がある。**主軸方位：**緩やかなクランク状に走行し、屈曲部はW-4号溝を踏襲する。北から南へ向けて N - 5° - W → N - 17° - W → N - 7° - W。**重複：**B-1号掘立柱建物跡とW-6号溝に切られる。W-4・10・11号溝、H-1～5号住、1号水田跡、1号畠跡を破壊する。**規模：**北端が最も幅広い。上端幅 0.80 ~ 2.25 m、下端幅 0.46 ~ 0.69 m。**残存深度：**0.28 ~ 0.54 mを測り、北端が最も深い。底面標高値は 114.718 ~ 114.817 m (ともに屈曲部) を測る。明瞭な落差は認められないが、全体として北から南へ流下する構造であったと推測する。**断面形態：**基本的に逆台形状を呈する。北端は逆凸形となるため、W-4号溝との重複部には西壁にテラス状平坦面が残存する。**底面の状態：**ほぼ平坦である。南端部には、P 1 (深さ 28cm)・P 2 (深さ 38cm) が穿たれている。**遺構埋没状態：**As - C・Hr - FA・As - B を含む、やや砂質の土で埋没しており、明確な流水痕跡は掴めなかった。北端部は埋め戻されていた。**遺物出土状態：**H-1～5号住を破壊するため、古代の遺物が多数出土した。内耳鍋 (2) は丸底であろう。特記事項として、W-4号溝との重複部分において埋納備蓄錢が出土した。小土坑に埋納されており、覆土はW-4号溝のような細砂ではなく、W-3号溝に伴う可能性がある。詳細は「貨幣埋納遺構」で記載する。**時期：**15世紀前半代の可能性がある。

### W-4号溝（遺構：Fig. 16・17、PL. 7）

**位置：**A区西侧。X = 662 ~ 693、Y = -463 ~ -468 (X 332 ~ 334、Y 76 ~ 84)。**主軸方位：**クランク状に走行し、屈曲部はW-3号溝と全く重複する。北から南へ向けて N - 7° - E → N - 8° - W → N - 28° - W → N - 3° - W。**重複：**B-1号掘立柱建物跡とW-3・6号溝に切られる。また、W-10・11号溝、H-1～5号住、1号水田跡、1号畠跡を破壊する。**規模：**上端幅 0.64 ~ 1.05 m、下端幅 0.27 ~ 0.52 m。**残存深度：**0.30 ~ 0.69 mを測る。北端が最も深く、底面標高値も 114.597 m と最も低い。全体的には 114.616 ~ 114.748 m という振幅

をもちながらも、北から南へ流下する構造と判断する。断面形態：本来は東壁が袋状に抉れ、西壁はU字状に開く。底面の状態：ほぼ平坦である。遺構埋没状態：基本的に細砂を主体とするAs-B混土が埋積しており、流水を想定する。北壁土層断面では、遺構確認面の下部は砂主体覆土、上部はIX・X層ブロック主体の一括埋め戻し土であることが判明している。現況遺構確認面では本溝の上部は削平されており、本来はW-4号溝全体を埋め戻していた可能性もある。遺物出土状態：古代の遺構に伴う遺物が多数混入している。(X=673、Y=-464～-465) 地点の覆土上～中層からは動物骨(PL. 7)が、覆土下層からは炭化した加工木材の小片が検出された。

時期：W-4溝→W-3溝→W-6溝(W-5溝と同時か)の新旧関係から、15世紀後半以前と推定する。

#### W-5a・b号溝(遺構：Fig. 16・17、PL. 7／遺物：Fig. 23・24、Tab. 8・9、PL. 11)

位置：A区西縁。X=662～692、Y=-464～-471(X 332・333、Y 76～84)。主軸方位：L字状に走行する。(5a溝) N-2°-W → (5b溝) N-88°-E。重複：D-1号土坑・W-14号溝に切られる。また、1号地下式坑・I-2号井戸・D-9～13号土坑・H-2号住・W-10～12号溝・水田跡・畠跡を破壊する。I-1号井戸は、本溝よりも新しい可能性が高い。調査区南壁土層断面で、W-3・4号溝よりも本溝の方が新しいことを確認した。SX-1とは同時存在の可能性がある。規模：W-5a号溝北端はわずかに東へ屈曲し、W-5b号溝との間はわずかに土橋状となる。また、W-5a号溝南端の土層断面では、溝西縁に盛土状の高まり(10層・層厚20cm)を確認している。W-5a号=上端幅1.46～3.09m、下端幅0.46～0.69m。W-5b号=上端幅0.81～1.28m、下端幅0.65～1.11m。残存深度：W-5a号=0.18～0.50m(南壁で0.83m)。W-5b号=0.06～0.19m(東壁で0.36m)。断面形態：W-5a号=逆台形～箱薬研状を呈する。W-5b号=逆台形～皿状を呈する。底面の状態：W-5a号=ほぼ平坦である。W-5b号=やや凹凸がある。遺構埋没状態：いわゆる砂質As-B混土による自然堆積状を呈する。遺物出土状態：W-5a号溝南部に、遺物集中がSX-1を境にして南北に各1箇所ある。溝底面と壁面からわずかに浮いて出土しているが、一括廃棄と考えられる。擦痕等がある円礫や被熱円礫を主体として、古代と中世の遺物が出土した。在地産の鉢(6)は摺り目があり、15世紀後半の所産であろう。内耳土器(7)は最古段階の器形である。石臼(11)は上縁に意図的な打ち欠きを想定する。(3)は土師質の香炉と考えられ、蕨手状の特徴的文様が描出される。在地産かどうか不明である。時期：在地産の鉢・内耳鍋は14世紀末～15世後半の時間幅を示しており、溝の廃絶時期は15世紀後半以降と考えておく。

#### W-6号溝(遺構：Fig. 16・17、PL. 7)

位置：A区中央西側。X=680～693、Y=-462～-465(X 333・334、Y 76～79)。主軸方位：N-90°-E・W。重複：H-2・5号住、W-3・4号溝、畠跡、水田跡を切る。W-5号溝とは同時存在の可能性がある。規模：上端幅0.62～0.81m、下端幅0.37～0.49m、西端0.20m。残存深度：0.17～0.20m、西端0.63m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：ほぼ平坦で、西端はピット状に深く落ち込む。P-287は延長部の残存と推測する。遺構埋没状態：As-Bを含む砂質土で、自然堆積状に埋没する。西端下層には細砂が埋積していた。遺物出土状態：土師器細片のみ出土した。時期：遺構配置から、W-5号溝と同時期かそれ以前の可能性が高い。

#### W-7号溝(遺構：Fig. 16・17、PL. 7)

位置：A区中央。X=677～678、Y=-462～-470(X 332～334、Y 80)。主軸方位：北から南へ、N-4°-W → N-14°-W。重複：W-5号溝に切られ、B-1号建物跡の東列は本溝を全く踏襲する。規模：上端幅0.29～0.51m、下端幅0.13～0.27m。残存深度：0.09～0.14m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：なだらかで凹凸も少ない。北端と南端の底面比高差は約16cmであった。遺構埋没状態：畠跡と同様な覆土だが、僅かにAs-Bを含む。遺物出土状態：なし。時期：遺構の新旧関係から、15世紀後半以前と推測する。

#### W-8・13号溝（遺構：Fig. 16・17・18、PL. 7／遺物：Fig. 24、Tab. 9、PL. 10）

位置：A区北西縁。X = 678～690、Y = -471～-475 (X 331・332、Y 77～80)。W-8号溝とW-13号溝は同一溝の造り替えと判断し、まとめて記載する。主軸方位：N-10°-W。重複：1号畠跡を破壊する。W-13号溝 → W-8号溝。規模：上端幅1.60～2.10 m、下端幅0.15～0.56 m。残存深度：0.47～0.55 mを測り、北壁土層断面では0.67 mを測る。断面形態：逆台形あるいは幅広のU字状を呈する。底面の状態：凹凸が著しい。遺構埋没状態：全体にAs-C・Hr-FAを多量含有した褐色～暗褐色土による自然堆積状を呈している。ただし、4・5層はIX・X層ブロックを斑状に多量含むことから、埋め戻された可能性がある。遺物出土状態：覆土中から古代の遺物が少量出土した。灰釉陶器（2）は（W-8号溝）3層から、須恵器坏（1）は（W-13号溝）3層から出土した。時期：出土遺物や覆土の状況から、10世紀代に埋没したものと判断する。

#### W-9号溝（遺構：Fig. 16・17、PL. 1）

位置：A区東部。X = 682～687、Y = -449～-454 (X 336・337、Y 78・79)。主軸方位：自然流路状に蛇行する。東壁から南西へN-9°-E → N-76°-E → N-15°-E → N-58°-E → N-39°-E。重複：H-6号住とD-2・22号土坑およびP-8・12に切られる。規模：上端幅0.26～0.63 m、下端幅0.12～0.47 m。残存深度：0.04～0.14 mを測る。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：やや凹凸がある。遺構埋没状態：黄褐色Hr-FAブロックを斑状に含む土で埋没しており、一部は埋め戻された可能性がある。遺物出土状態：なし。時期：覆土の状況や重複関係から、10世紀代以前の古代と判断する。

#### W-10号溝（遺構：Fig. 16・17、PL. 7）

位置：A区南部。X = 662～679、Y = -446～-464 (X 333～338、Y 80～84)。主軸方位：北東～南西方向(N-45°-E)に直線的に走行する。重複：W-3～5・11号溝、1号火葬跡、D-17号土坑、中世ピット群に切られる。W-12号溝を破壊する。規模：上端幅1.00～1.59 m、下端幅0.90 m～1.30 m。残存深度：0.06～0.18 m。底面は東端から西端へとわずかに（比高差5～7 cm）下り傾斜している。断面形態：逆台形状～箱形を呈する。底面の状態：やや凹凸がある。遺構埋没状態：上層は砂質で自然堆積状を示すが、下層は黄褐色Hr-FAブロックやIX・X層粘質土ブロックを斑状に含むため、埋め戻された可能性もある。遺物出土状態：古代の土師器・須恵器・灰釉陶器が少量出土したが、小片のため図示しえなかった。時期：住居跡やW-8・11・13号溝とは主軸方位が全く異なり、本溝を壞すW-11号溝がH-1号住に切られること（W-10号溝 → W-11号溝 → H-1号住）を考慮すれば、少なくとも10世紀前半以前であろう。掲載できなかつたが、遺物の所産時期は9世紀代～10世紀前半であった。

#### W-11号溝（遺構：Fig. 16・17・18、PL. 7）

位置：A区南縁。X = 667～669、Y = -447～-466 (X 333～339、Y 82～83)。主軸方位：N-87°-E。重複：W-10号溝を破壊する。また、W-3～5号溝、D-16・18号土坑、中世ピット群に切られる。東側はAs-B混土によって溝上部を削平されており、極端に細い部分がある。規模：上端幅0.78～3.44 m（東側は1.9 m前後）、下端幅0.37 m～1.67 m。残存深度：0.06～0.18 m。底面は西端から東端へとわずかに（比高差5 cm前後）下り傾斜している。断面形態：西側の台地部はテラスを伴う逆凸形、東側の低地部は逆台形～箱形を呈する。底面の状態：やや凹凸がある。遺構埋没状態：台地部の壁際には黄褐色Hr-FAブロックやAs-Cが多量混入しており、壁面の崩落と推測する。全体には自然堆積状と判断する。遺物出土状態：古代の遺物が少量出土したが、小片のため図示できなかつた。時期：未掲載ながら、遺物の所産時期は9世紀代～10世紀前半代であった。H-1号住に切られていることから、10世紀前半代以前の構築と推定できる。

#### W-12号溝（遺構：Fig. 16・17、PL. 7／遺物：Fig. 24、Tab. 9、PL. 10）

位置：A区南西端。X = 662～665、Y = -459～-462（X 334～335、Y 83・84）。主軸方位：N-76°-E。重複：W-10号溝を破壊する。また、W-3～5号溝に切られる。As-B混土によって大半を削平される。規模：上端幅[2.96]m、下端幅[2.54]m。本溝の西端はW-4号溝によって破壊されていることになる。残存深度：0.33～0.55m。断面形態：箱形状と推測する。底面の状態：ほぼ平坦で、強くしまる。遺構埋没状態：全体に非常に強くしまり、シルト質の2層以外はIX層黒色粘質土ブロックを多量に含むことから、人為的な埋め戻しも想定可能である。遺物出土状態：須恵器・土師器・灰釉陶器が少量出土した。覆土下層から、須恵器高台付皿（1）が出土した。時期：出土遺物や重複関係から、廃絶時期は9世紀後半と判断する。

#### W-14号溝（遺構：Fig. 16・17、PL. 1）

位置：A区中央。X = 685、Y = -454・-455（X 336、Y 78）。主軸方位：N-76°-E。重複：なし。D-2号土坑の北側に隣接する、短い溝である。P-251・252も同様の溝の可能性が高い。規模：1.44m×0.31m。残存深度：0.11m。断面形態：U字状を呈する。底面の状態：平坦である。遺構埋没状態：As-Bを少量含む褐色土による単層で、強くしまる。遺物出土状態：なし。時期：覆土の状況から、中世と考えられる。

#### W-15号溝（遺構：Fig. 16・17、PL. 1）

位置：A区東部。X = 682～687、Y = -450～-460（X 334～337、Y 77）。主軸方位：N-77°-E。重複：W-5号溝を踏襲して破壊する。平面的には段切り状を呈するが、東壁土層断面では溝状形態であった。規模：（東壁）上端幅1.51m、下端幅0.93m。残存深度：0.17～0.33mを測る。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：As-C混土層（VII層）を底面とするため、やや凹凸がある。遺構埋没状態：1層の軟弱砂質土は調査区に広く堆積し、2層もAs-B混入砂質土である。遺物出土状態：なし。時期：覆土の状況から、中世以降は確実だが、近世まで下る可能性もある。

## 10. 貨幣埋納遺構（埋納備蓄錢）

#### 1号埋納備蓄錢（遺構：Fig. 18、PL. 8／

遺物：Fig. 27～32、Tab. 10～13、PL. 13、写真図版扉、巻頭図版2）

位置：A区南端。X = 679・680、Y = -467（X 333、Y 79・80）。主軸方位：N-30°-W。重複：H-3号住床面を破壊する。W-3・4号溝重複箇所に埋納されており、両溝底面で検出した。埋納土坑覆土の状況はW-4号溝（=砂主体）とは全く異なる。よって、錢貨が埋納された時期はW-3号溝の①使用中、②廃絶時、③埋没途中、④埋没後のいずれかとなり、同時存在の可能性も残される。W-3号溝埋没後の場合には、B-1号掘立柱建物跡等が埋納に関与していた可能性が高い。形状：埋納土坑は不整形な橢円形を呈する。規模：東西0.31m×南北0.58m。残存深度：0.13m。断面形態：南北は浅皿状、東西はU字状を呈する。底面の状態：やや凹凸がある。遺構埋没状態：細砂を少量含む褐色土の単層である。備蓄錢出土状態：備蓄錢は、植物の撚紐が通された「縞」の状態で、六縞出土した。総枚数は572枚（1982.78g）である。五縞はほぼ同一方向で折り重なるようにして密着しており、一縞は二つ折りにされて、南側に近接して出土した。全体は土坑底面よりも5cm程浮いており、土坑西壁にはほぼ接している。木箱等の容器に収納されていた場合には、土坑壁面に容器があたっているはずだが、そうした痕跡はない。おそらく、有機質や植物質の袋に収納されていたものと推測する。縞紐：錢に通された紐はかなり劣化しており、紐の状態で残すことはできなかった。径2mm前後の植物纖維を2～3本撚り合わせて、縞紐としている。錢種構成：縞ごとに西→東→南と順に番号（縞1～縞6）を付け、各縞は北（6

は東) から順に銭貨一枚ごとに番号(例: 緒1-1、2、3...)を与えた。全銭貨の属性詳細はTab. 6~9に掲載した。緒1は97枚(338.1g)、緒2は97枚(337.76g)、緒3は97枚(340.44g)、緒4は88枚(301.02g)、緒5は96枚(331.43g)、緒6は97枚(334.03g)であった。96・97枚を基準とするが、緒4は明らかに少ない。銭名が判明および推定できた銭貨は550枚で、うち北宋錢が415枚(72%)を占め、次いで洪武通寶・永樂通寶の明錢が87枚(15.2%)を数える。銭種別では皇宋通寶(初鑄1038)の57枚(9.9%)が最も多く、永樂通寶(初鑄1408)の55枚、元豐通寶(初鑄1078)の54枚と続く。極端に偏る銭種構成にはなっていない。最古銭は「開元通寶」(唐・初鑄845年)で、南唐の開元通寶(初鑄960年)が3点ある。最新銭は緒3-16「朝鮮通寶」(初鑄1423年)で、1枚のみである。**時期**: わずか572枚ではあるが、銭種構成と最新銭の朝鮮通寶から、埋納時期は永井編年(永井 1994)の第5期=15世紀第2四半期頃、あるいは15世紀第2四半期以降と推測する。W-3号溝→W-5号溝(15世紀後半)という新旧関係で捉えており、W-4号溝が15世紀後半以前と仮定すると、銭貨の埋納時期とも整合性がある。

## 11. 井戸跡

**I-1号井戸** (遺構: Fig. 18、PL. 8 / 遺物: Fig. 24・25、Tab. 9、PL. 11・12)

**位置**: A区中央。X=678~681、Y=-459~-462(X 334・335、Y 79・80)。**重複**: W-5号溝と重複する。新旧関係は難しいが、本井戸の方が新しい可能性が高い。**形状**: 不整円形を呈する。**規模**: 3.10 m × 2.75 m。**残存深度**: 1.80 mまで調査した。ピンポール探査では2.8 m以上ある。**断面形態**: 漏斗状を呈する。壁面には総社砂層中の大型礫が露出する。**底面の状態**: 不明。**遺構埋没状態**: 壁面~下層はシルト質土と細砂の互層や黒色粘質土が自然堆積する。中層~上層は、大小の礫が多く、黄褐色Hr-FAブロックやIX・X層粘質土ブロックが斑状に多量含まれ、人為的な埋め戻しを想定できる。**遺物出土状態**: 上~中層に集中して出土した。在地産の内耳土器破片は多数出土したが、口縁部以外は割愛した。五輪塔火輪破片(6)や打ち欠きのある石臼(7)、用途不明の凹み石(5)等を掲載した。**時期**: 摺り目のある鉢(1)は15世紀中葉~後半、内耳土器(2)は15世紀後半の年代を示している。井戸の廃絶時期は15世紀後半頃と判断する。

**I-2号井戸** (遺構: Fig. 13、PL. 5)

**位置**: A区北部。X=688~690、Y=-456~-459(X 335、Y 77)。**重複**: 1号地下式坑を再利用する形で破壊・重複し、その後W-5号溝に切られる。**形状**: 井筒部は平面不整円形・円筒形を呈する。**規模**: 井筒部の東西上端最大径1.68 m。(推定上端)東西2.61 m × 南北2.38 m。(井筒部中位)1.02 m × 1.08 m。**残存深度**: 1.76 mまで調査した。ピンポール探査では2.7 m以上。**断面形態**: 漏斗状を呈する。**底面の状態**: 不明。**遺構埋没状態**: 全体的には砂や粘土を主体とする自然堆積である。3層はX層褐色粘質土ブロックを斑状に含み、強くしまるために、人為的埋め戻しと判断する。**遺物出土状態**: 土師器・須恵器の小片や円礫がわずかに出土したのみで、図示しなかった。**時期**: W-5号溝(15世紀後半)よりも古い。

## 12. 岌跡

**1号畠跡** (遺構: Fig. 19、PL. 1・8 / 遺物: Fig. 26、Tab. 9、PL. 12)

**位置**: A区北西の台地部。X=671~696、Y=-457~-472(X 331~335、Y 75~82)。**重複**: 畠跡は、VI層(Hr-FA)上面~VII層(As-C多量)上面において、畠間(サク)の痕跡という形で検出した。諸般の事情からトレンド調査に留まらざるを得なかったが、各畠間の平面形から、全体的傾向は掴むことができた。H 2~5・8号住、W-3~8・13・14号溝、B-1・2号建物跡に切られる。1号水田跡を破壊している可能性がある。**地形**: 北西隅が最も高く、東と南へ非常に緩やかに傾斜する。調査区西壁には畠間が全く検出できなかったため、1号畠跡

の西限は確定できた。古墳時代の土器が出土したP-275・276が東限を示唆する。ただし北北西方向へは確實に広がり、南南東側にも本来は展開していたと推測する。規模と走向：確認された畝間は計45条で、トレンチ部分で36条を数える。畝間は幅16～45cm、深さは6～20cmで、北壁で最深29cmを測る。走行方向はN-50°～56°-Wの間に収まる。畝間の心々間隔は16～76cmで、40～50cm台が多い。2条の畝間が近接して1条に見える部分や、枝分かれ状の重複箇所もある。非常に幅の狭い畝間があることや断面観察状況から、確認面ではすでに消滅している畝間が多数あると推測され、畝間間隔を1m前後と仮定すると、少なくとも2回以上の畝替え（3回以上の耕作）を想定できる。耕作土・埋没状態：畝間覆土は、Hr-FA 黄褐色ブロックと粒子およびAs-Cの多寡を基準にして4層に分けた。明瞭に覆土の切り合いが認められた箇所もある。畝間断面形は、コの字状～逆台形状～U字状と一定しない。遺物出土状態：畝間覆土上面から須恵器甕破片（2）と高坏脚部（1）のみ出土した。高坏は胎土・整形ともにやや粗雑で、古墳時代後期の所産と考えられる。時期：Hr-FA 降下後、一定期間（≒Vc層の堆積に要した時間）が経過した後に耕作をしている。畠として機能した期間を明確には特定できないため、6世紀初頭よりも新しい時期に耕作が始まり、10世紀以前に終了していたものと想定する。

### 13. 水田跡

#### 1号水田跡・1号畦畔（遺構：Fig. 19、PL. 8）

位置：A区南西縁。X=665～677、Y=-462～-470（X 332～334、Y 80～83）。重複：水田跡はHr-FA直下で検出した。H-1・2・4・8号住居跡、W-3・4・8・13号溝、T-4号建物跡に切られる。1号畠跡にも破壊されている可能性がある。残存状態：検出範囲は狭く、重複も著しいため、区画は見いだせなかつた。畦畔：縦アゼ1条のみ検出した。長さ226cm、上端幅5～16cm、下端幅27～31cm、高さ3～7cmを測る。走行方向はN-48°-Wで、北西-南東方向である。水田が1号畠跡に破壊されている可能性を考慮し、畠跡で精査を試みたが、畦畔の検出には至らなかつた。水田面の状態：Hr-FAが最大厚13cmまで堆積していたため、田面は良好に遺存していた。多数の凹凸が認められたが、明確な人足跡などは判別できなかつた。北西から南東へと非常に緩やかに下り傾斜している。耕作土：Hr-FA直下のVIIb層が耕作土に該当する。As-Cを多量に含み、粘性はほとんど認められず、典型的な「水田耕作土」の様相ではなかつた。調査時においても、湧水を伴うような明瞭な低湿地とは認識できなかつた。遺物出土状態：遺物は出土しなかつた。時期：Hr-FA（6世紀初頭）の降下時、もしくは直前と考えられる。

### 14. 不明遺構

#### 1号不明遺構（遺構：Fig. 18、PL. 1）

位置：A区中央。X=672～676、Y=-457～-460（X 334・335、Y 80・81）。主軸方位：N-41°-E。重複：W-5号溝とは同時存在の可能性が高い。形状：不整楕円形を呈する。規模：長径3.92m×短径2.76m。残存深度：2～5cm。底面の状態：平坦である。遺構埋没状態：均質な褐色土が堆積する。遺物：かわらけが1点（1）出土した。秋本編年（2008）のA類4群（16世紀前半）と推定する。時期：16世紀前半頃と推測する。

### 15. 遺構外出土遺物

#### （Fig. 26、Tab. 9、PL. 12）

1はA区基本層序のAトレンチ壁面から出土した、本遺跡唯一の縄文土器である。IX層から出土したことから、IX層は縄文時代中期後半頃あるいは以前の堆積土層と推測する。2はB区表採の須恵器坏である。3はA区低地部・S X-1周辺のIX層中から出土した完形のチャート製石鏃である。周囲を精査したが、縄文時代の遺構は確認できなかつた。4の永楽通寶は表採資料ながら、状態は良好である。

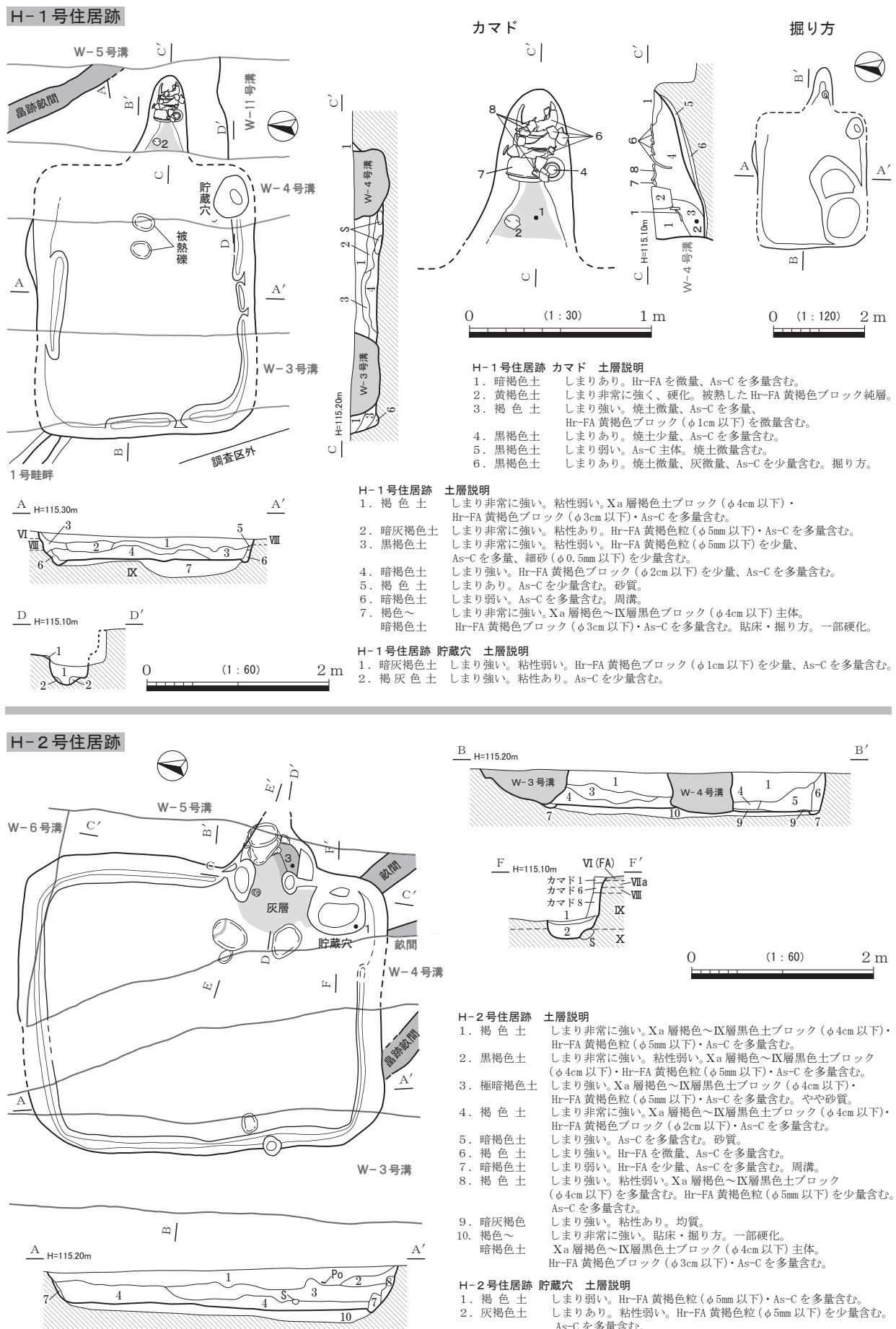


Fig. 7 遺構図 (1) H-1号住居跡 / H-2号住居跡①

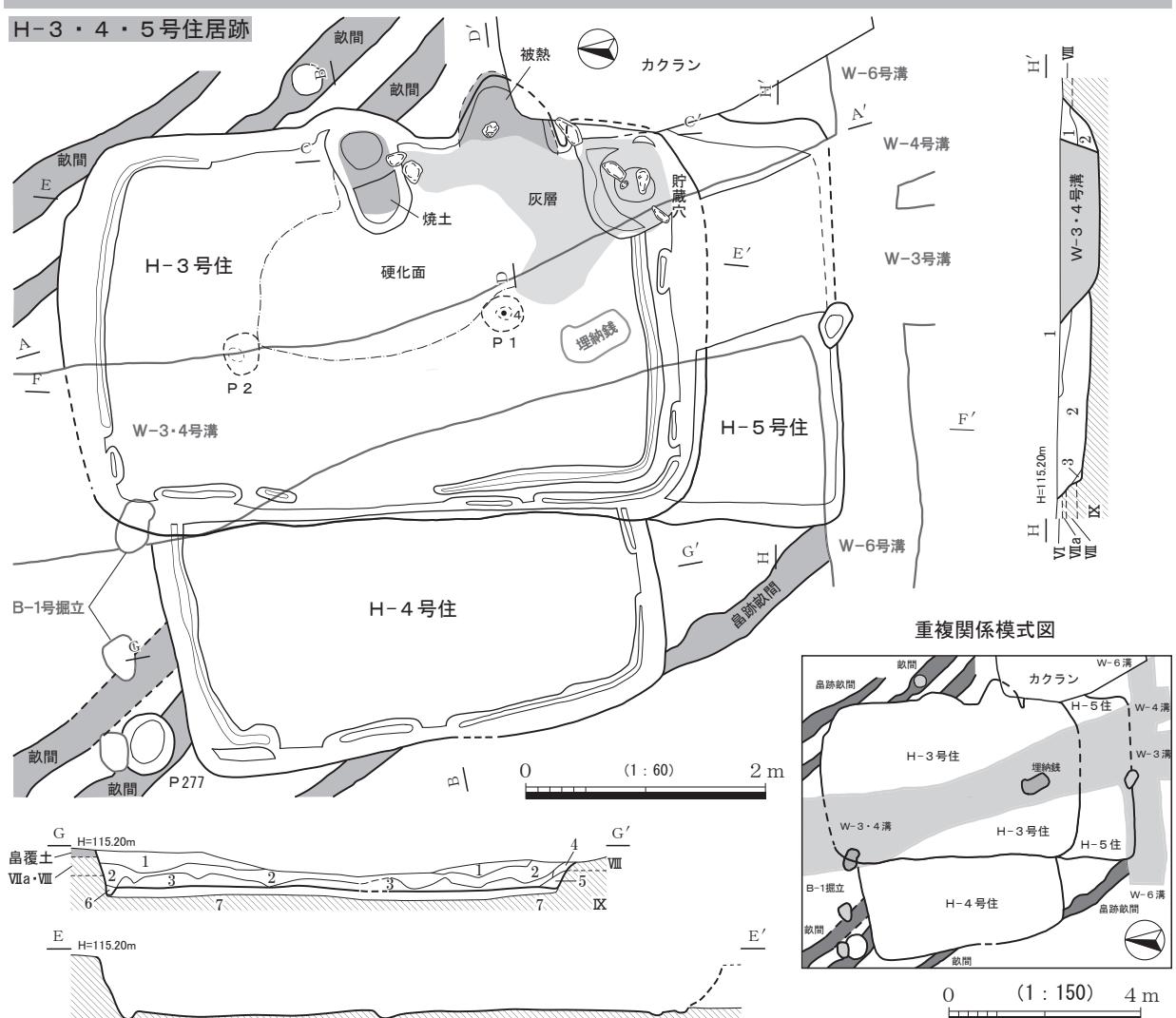
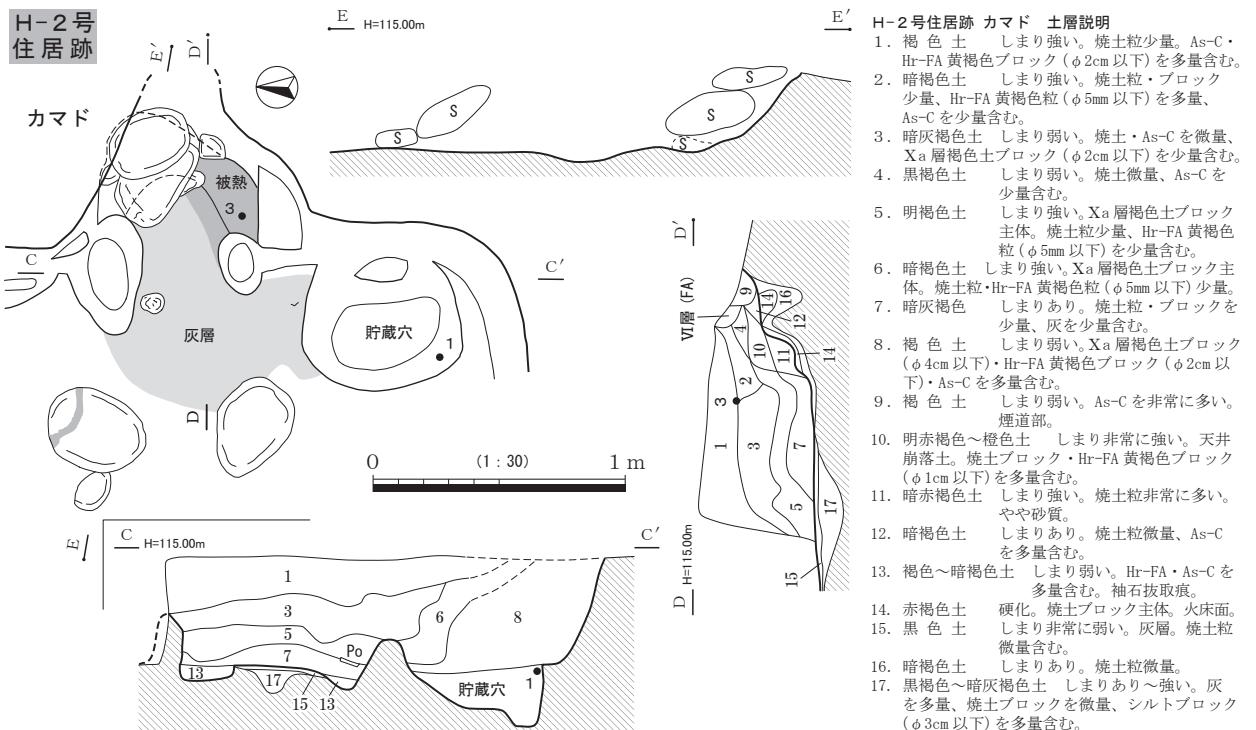
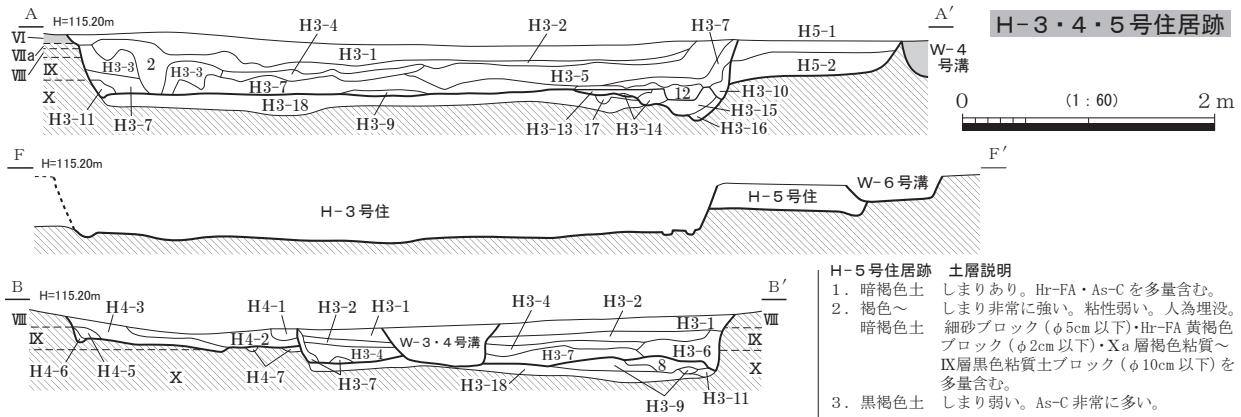


Fig. 8 遺構図 (2) H-2号住居跡② / H-3~5号住居跡①



#### H-4号住居跡 土層説明

1. 暗褐色土 しまり非常に強い。Xa層褐色～IX層黒色土ブロック(φ5cm以下)・Hr-FA黄褐色ブロック(φ1cm以下)を斑状に多量含む。As-Cを多量含む。一括埋戻。
2. 褐色～暗褐色土 しまり強い。Xa層褐色土～IX層黒色土ブロック(φ3cm以下)・Hr-FA黄褐色ブロック(φ3cm以下)・砂ブロック(φ2cm以下)を斑状に多量含む。As-Cを多量、砂粒(φ5mm以下)を微量含む。一括埋戻。
7. 灰褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。貼床。

3. 暗褐色～黒褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。一括埋戻。Xa層褐色～IX層黒色土ブロック(φ5cm以下)を非常に多く、Hr-FA黄褐色ブロック(φ3cm以下)を少量含む。
4. 黒褐色土 しまり強い。粘性あり。Hr-FAあるいはHr-FP軽石(φ1～3cm)を少量、細砂(φ5mm以下)を微量含む。
5. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。Hr-FA黄褐色ブロック(φ1cm以下)を多量、As-Cを多量含む。
6. 黑褐色土 しまり弱い。As-C非常に多い。

#### H-3号住居跡 土層説明

1. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。IX層黒色土ブロック(φ2cm以下)を斑状に多量、Hr-FA黄褐色ブロック(φ1cm以下)を少量、As-Cを多量含む。
2. 暗褐色土 しまり弱い。粘性弱い。IX層黒色土ブロック(φ2cm以下)を斑状に多量、As-Cを多量含む。
3. 明黄褐色土 しまり強い。粘性弱い。Hr-FA黄褐色ブロック主体。
4. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。IX層黒色土ブロック(φ2cm以下)を斑状に多量含む。Hr-FA黄褐色ブロック(φ1cm以下)を多量、As-Cを多量含む。一括埋め戻し。
5. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。IX層黒色土ブロック(φ2cm以下)を斑状に多量、シルトブロック(φ2cm以下)を少量含む。Hr-FA黄褐色ブロック(φ1cm以下)を多量、As-Cを多量含む。一括埋め戻し。
6. 極暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。Xa層褐色～IX層黒色土ブロック主体(φ4cm以下)。Hr-FA黄褐色ブロック(φ2cm以下)を少量、As-Cを少量、細砂(φ0.5mm以下)を少量含む。

7. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。Xa層褐色粘質土ブロック主体。Hr-FA黄褐色ブロック(φ2cm以下)を少量、As-Cを少量含む。
8. 暗赤褐色土 硬化。焼土ブロック主体。旧カマド火床面。
9. 暗灰褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。均質。旧カマド火床面。
10. 暗褐色～黒褐色土 しまり非常に弱い。As-C非常に多い。細砂(φ0.5mm以下)を少量含む。周溝。
11. 黑褐色土 しまり弱い。As-C主体。周溝および旧カマド掘り方。
12. 黑色土 しまり非常に弱い。粘性あり。炭化層と灰層。焼土粒微量含む。
13. 暗灰褐色～極暗褐色土 焼土粒(φ2mm以下)を多量含む。貯蔵穴。
14. 褐色～灰褐色土 しまり強い。粘性弱い。焼土粒・灰・シルトブロック(φ2cm以下)を少量含む。貯蔵穴。
15. 暗褐色土 しまり非常に弱い。粘性弱い。炭化物少量、Xa層褐色粘質土ブロック(φ2cm以下)を少量含む。
16. 暗褐色土 しまり強い。粘性あり。焼土粒(φ1mm以下)少量含む。貯蔵穴。
17. 明褐色土 しまり非常に強い。貼床。シルトブロック(φ2cm以下)多量。
18. 暗褐色土 しまり非常に強い。貼床・掘り方。Xa層褐色～IX層黒色土ブロック・シルトブロック(φ4cm以下)主体。Hr-FA黄褐色ブロック(φ3cm以下)・As-Cを多量含む。一部硬化。

#### H-3号住居跡

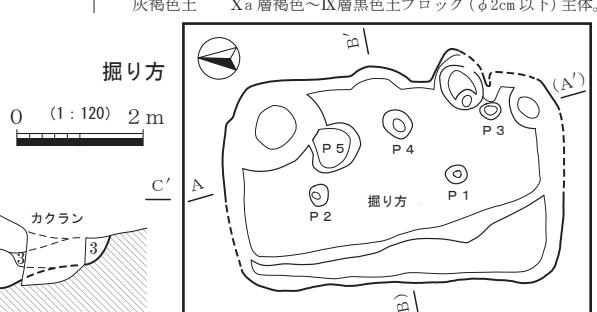
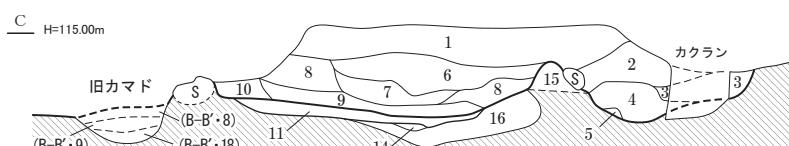
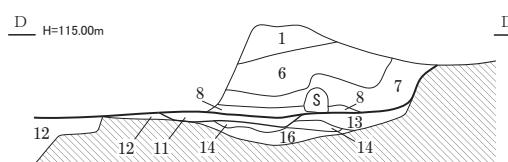
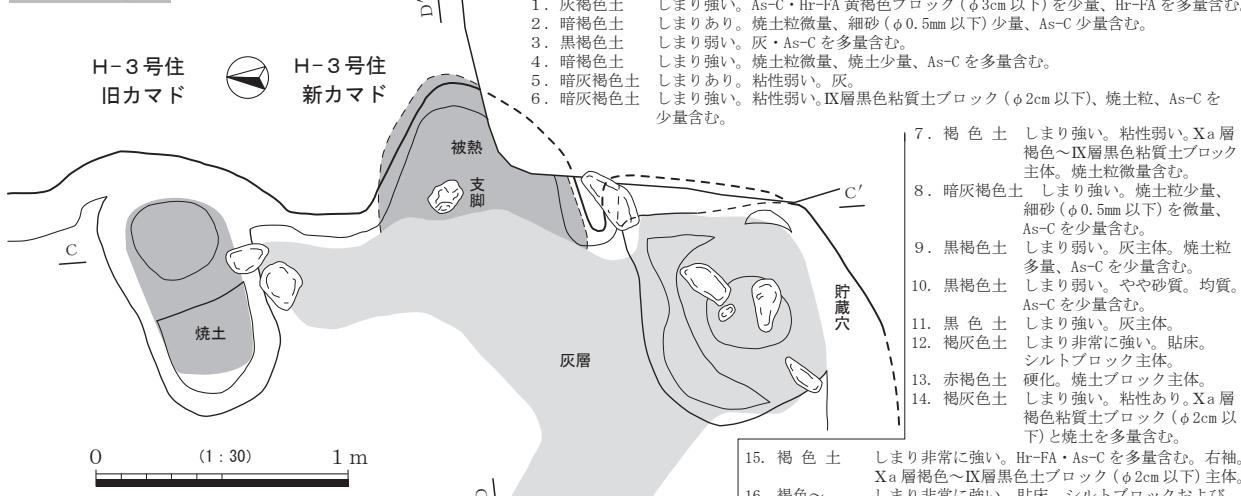


Fig. 9 遺構図 (3) H-3～5号住居跡②

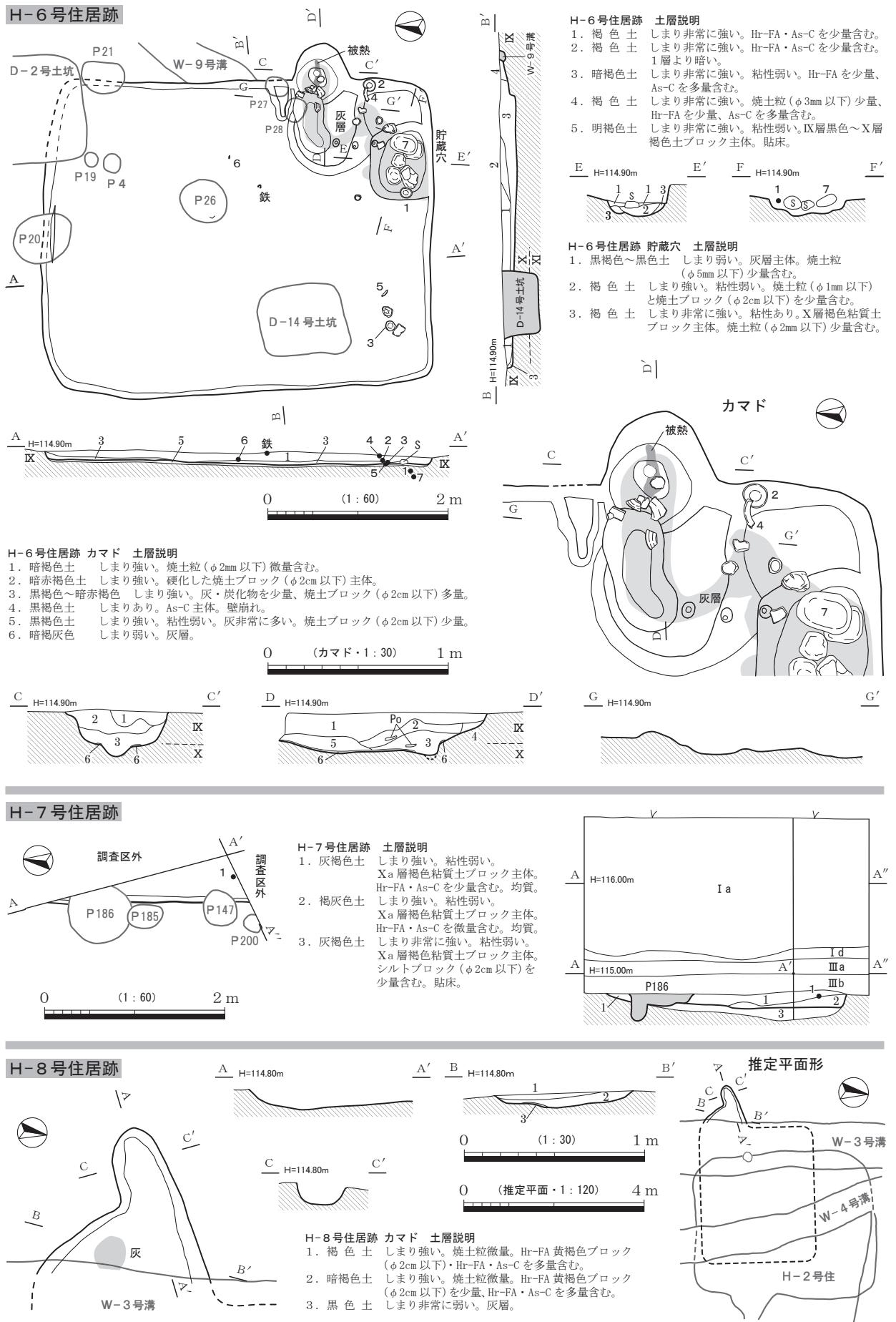
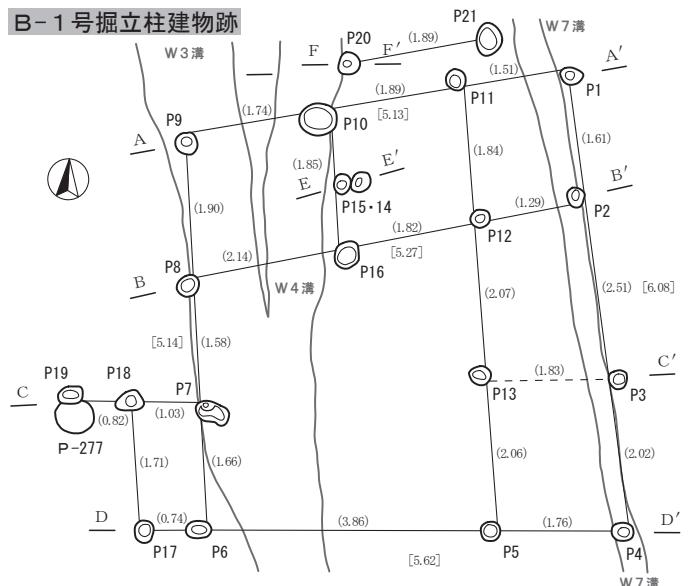


Fig. 10 遺構図 (4) H-6・7・8号住居跡



**B-1号掘立柱建物跡 土層説明**

- 暗褐色土 しまり強い。As-Bを多量、Hr-FA 黄褐色ブロック ( $\phi 1\text{cm}$  以下) を少量含む。
- 黒褐色土 しまりあり。As-Bを非常に多く含む。砂質土。
- 褐色土 しまり強い。As-Bを少量含む。
- 灰褐色土 しまり強い。As-Bを少量含む。砂質。
- 灰褐色土 しまりあり。As-Bを少量含む。砂質。

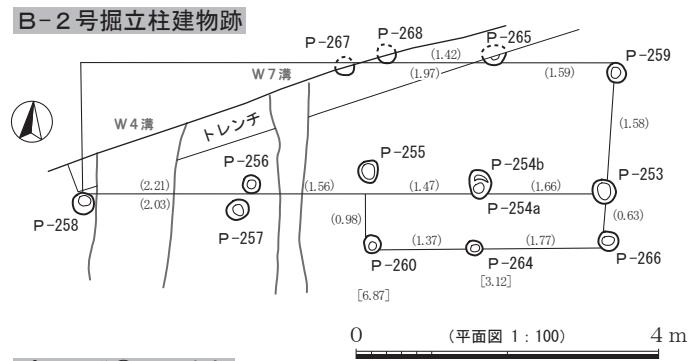
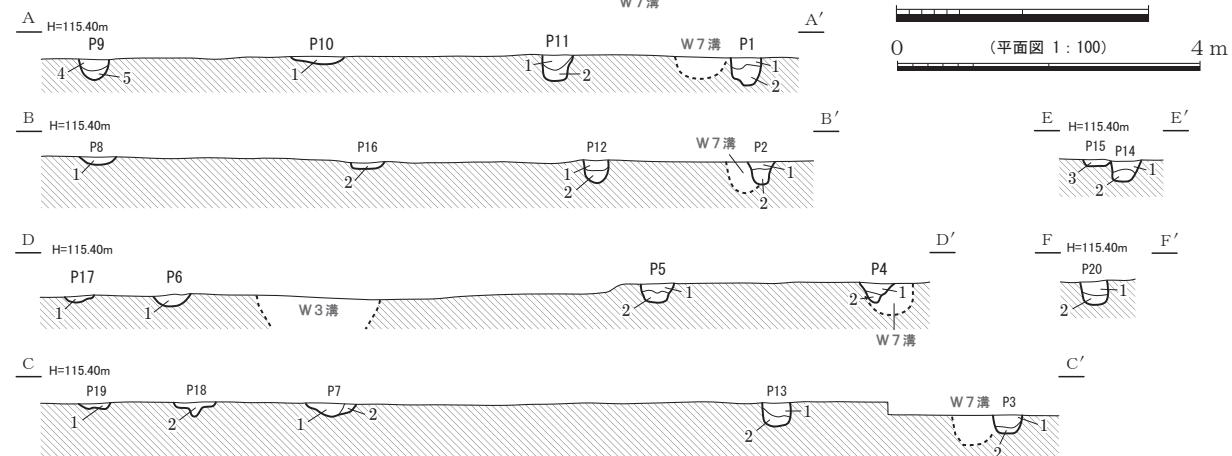
**B-2号掘立柱建物跡 土層説明**

- 覆土A …… P-253・254・255・256・257・259・260・266・268  
 覆土A・B …… P-258  
 覆土A・A' …… P-267  
 覆土B …… P-264・265

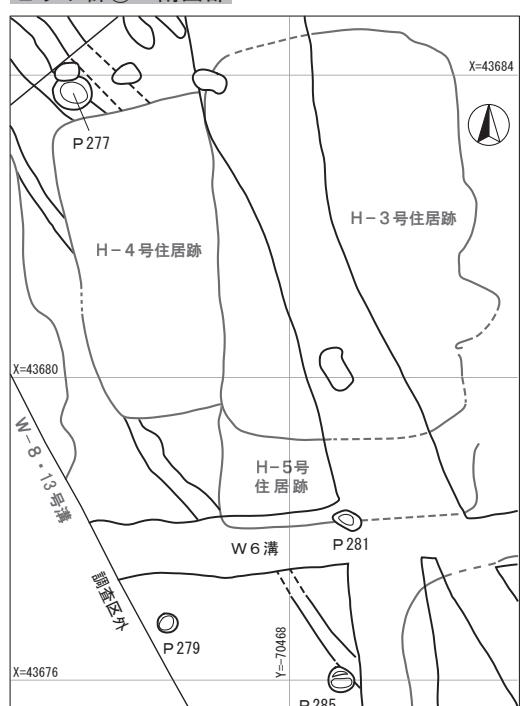
覆土A…褐色～暗褐色土。しまり弱い～あり。As-Bを非常に多く含む砂質土の柱痕または抜取痕。根固めに褐色粘質土を伴うことが多い。

覆土A'…褐色～暗褐色土。しまり強い。相対的にAよりもAs-Bが少ない砂質土の柱痕または抜取痕。As-C多量、Hr-FA軽石少量含む。根固めに褐色粘質土を伴うことが多い。

覆土B…褐色土。しまりあり～強い。As-Bを少量含む砂質土。As-C・Hr-FA軽石を少量～多量含む抜取痕または埋戻土。根固めにIX層黒色粘質土ブロックやHr-FA黄褐色ブロックを多量伴う場合あり。



**ピット群② 南西部**



**ピット群① 北東部**

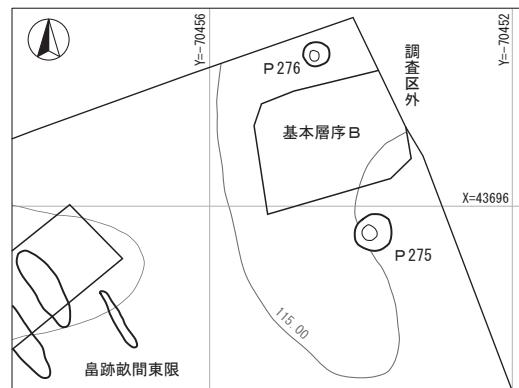


Fig. 11 遺構図 (5) B-1・2号掘立柱建物跡 / ピット群①・②

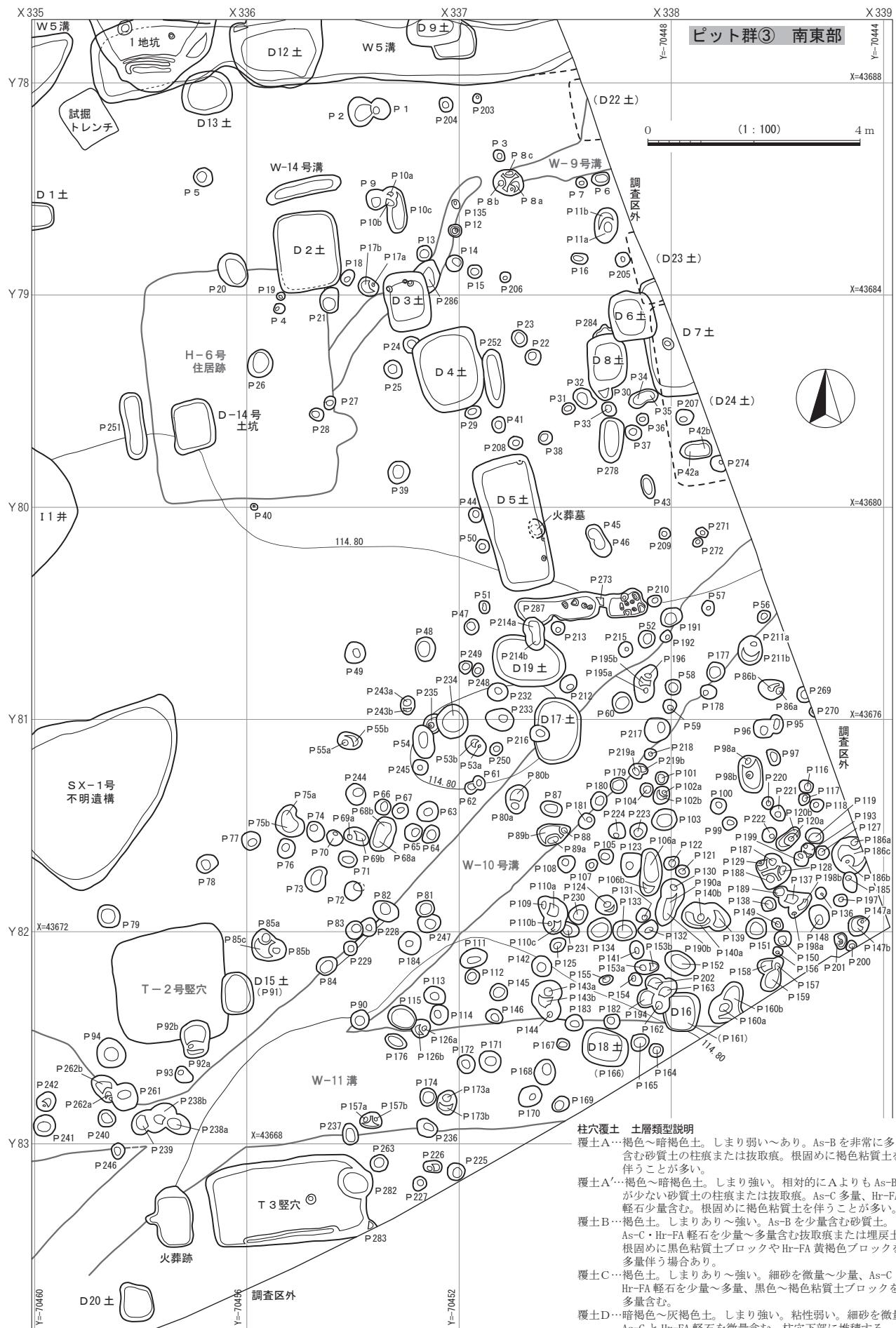


Fig. 12 遺構図 (6) ピット群③

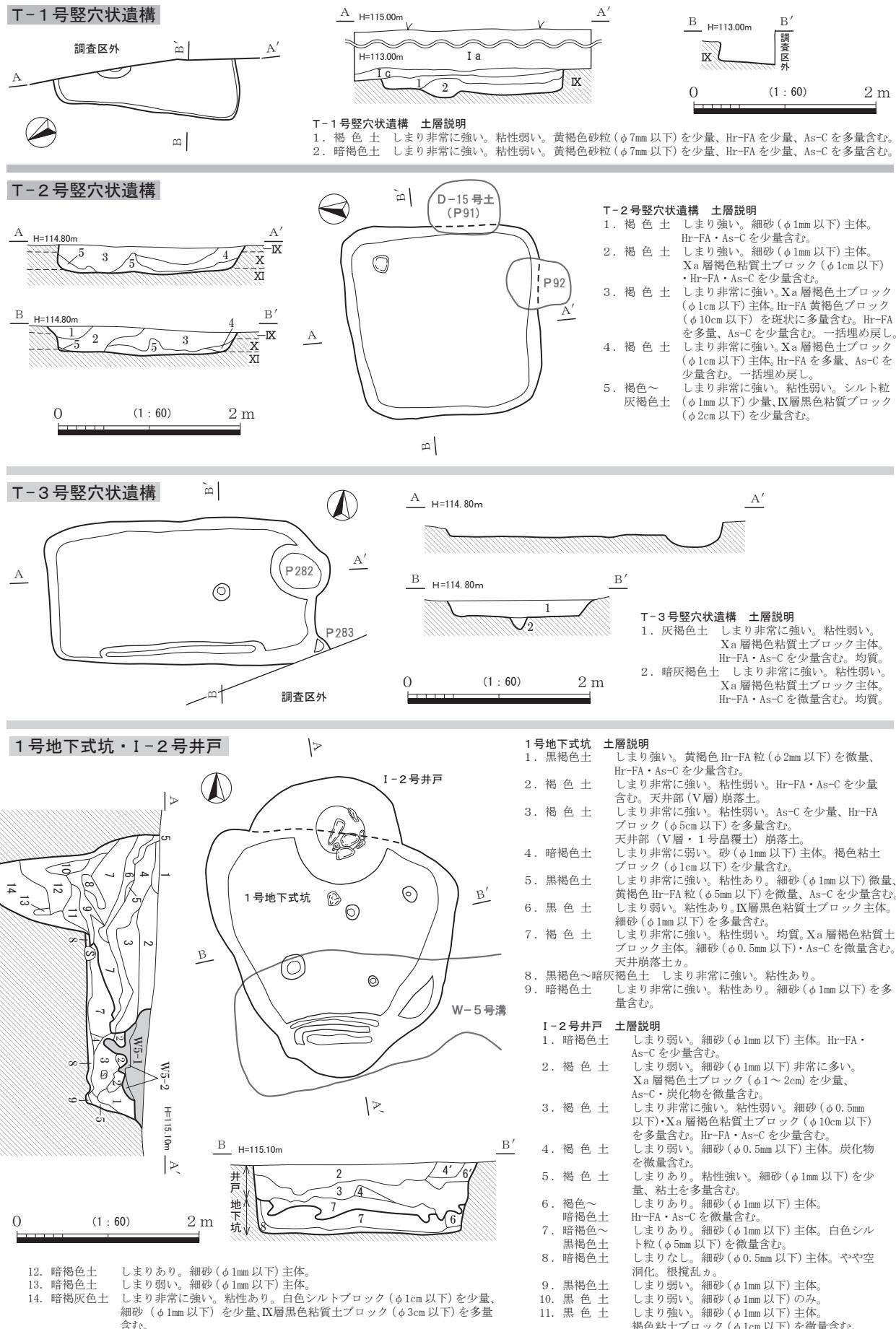


Fig. 13 遺構図 (7) T-1～3号堅穴状遺構 / 1号地下式坑 / I-2号井戸

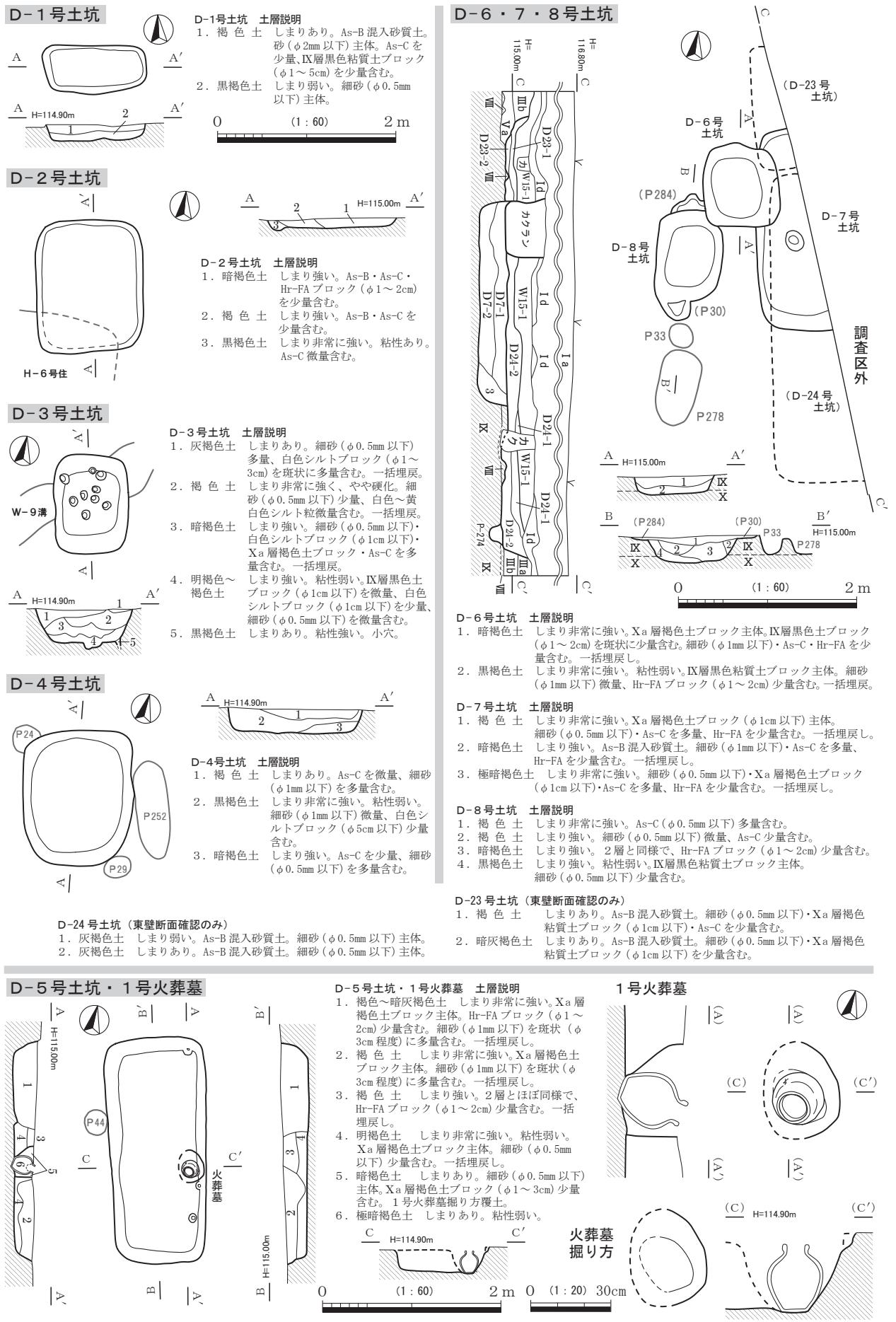


Fig. 14 遺構図 (8) D-1~8・23・24号土坑 / 1号火葬墓

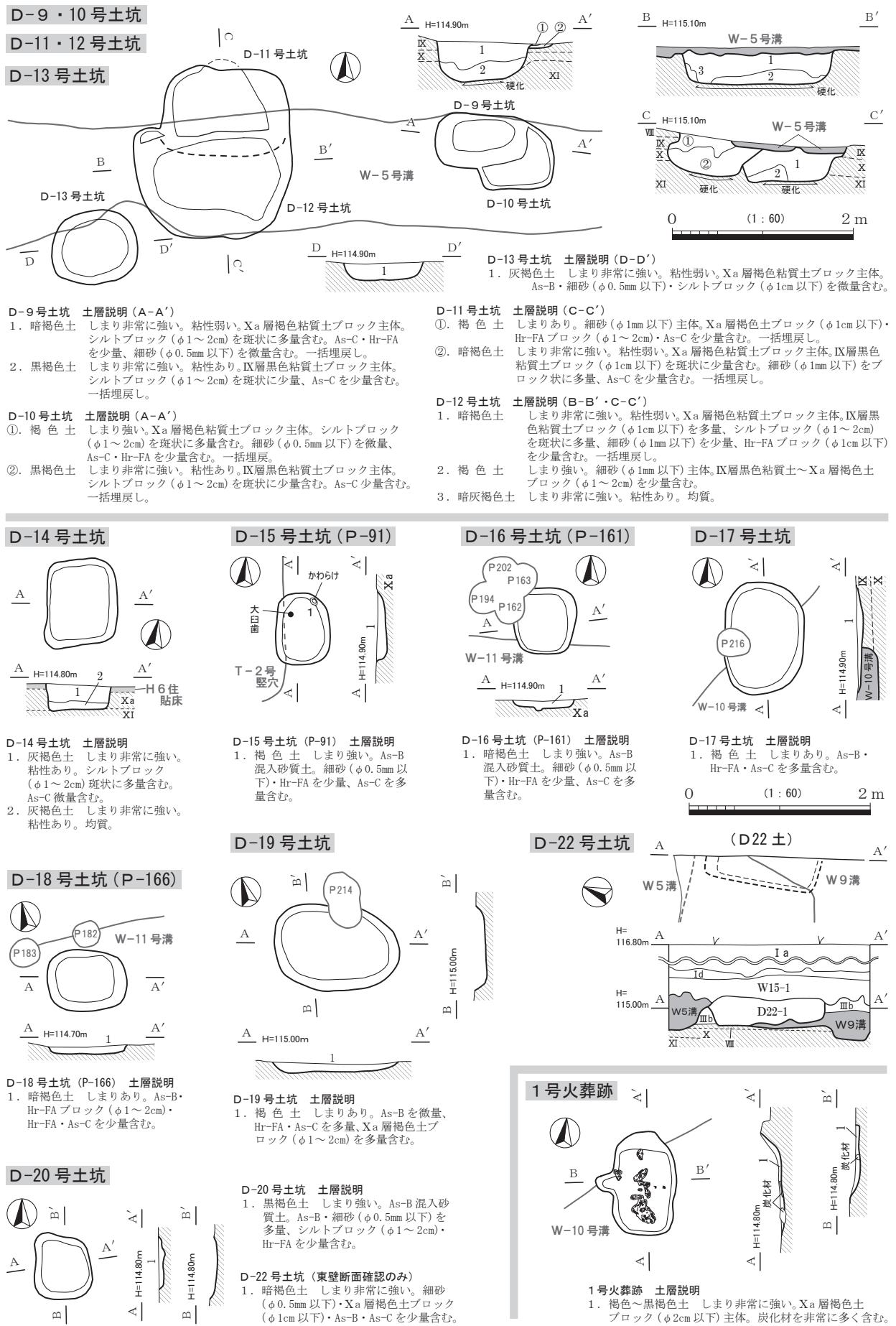


Fig. 15 遺構図 (9) D-9~20・22号土坑 / 1号火葬跡

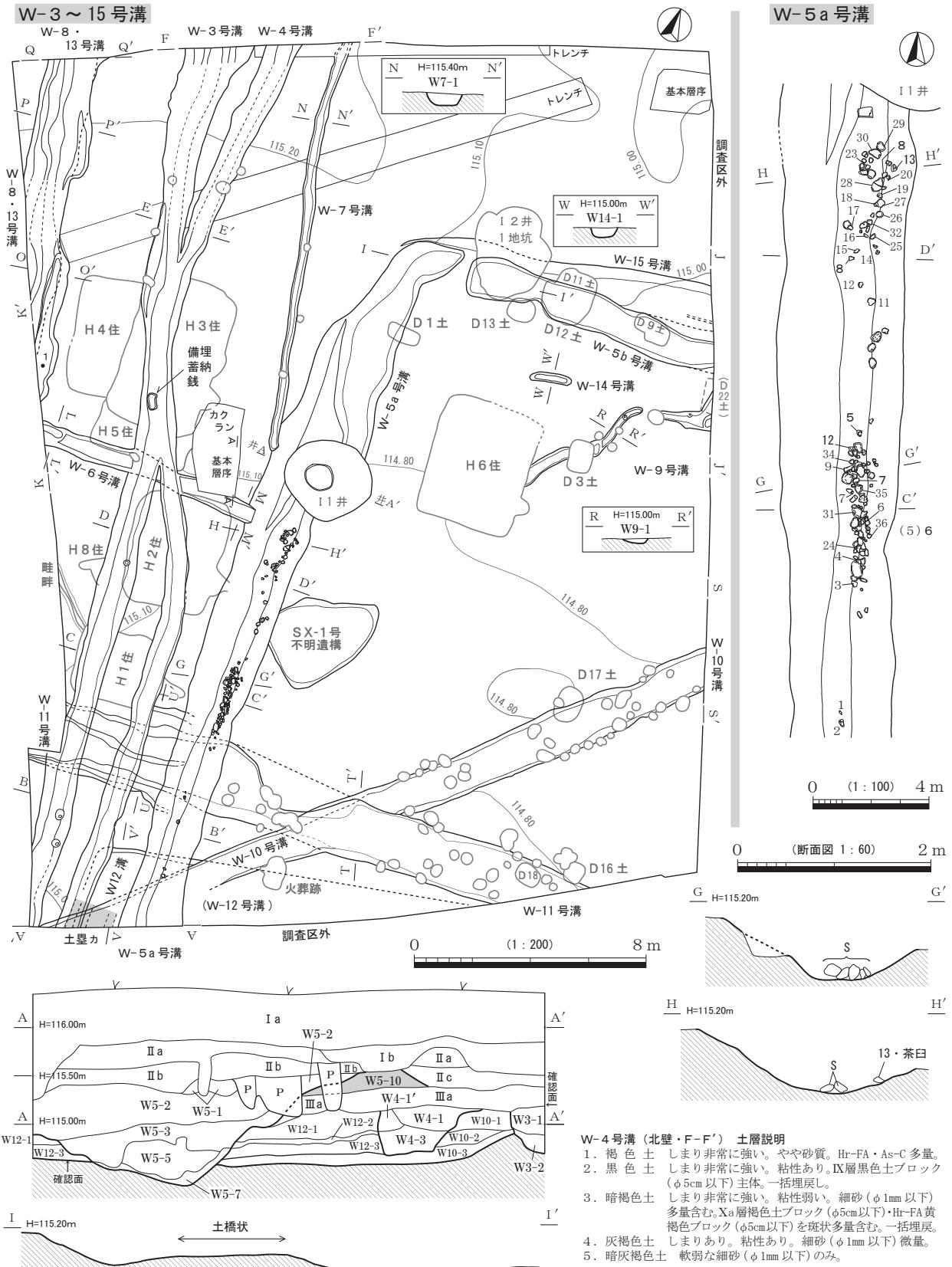


Fig. 16 遺構図 (10) W-3 ~ 15号溝①

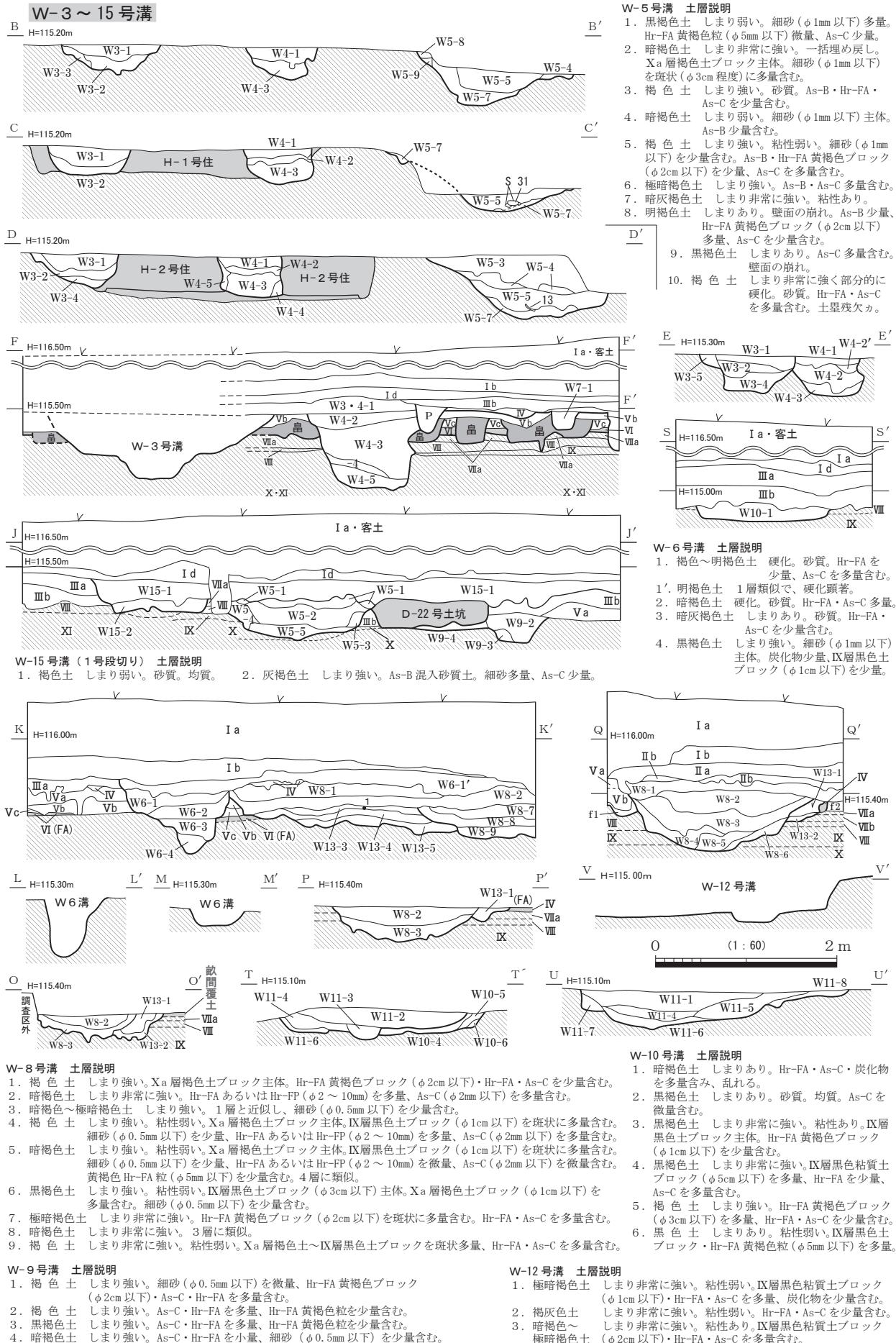
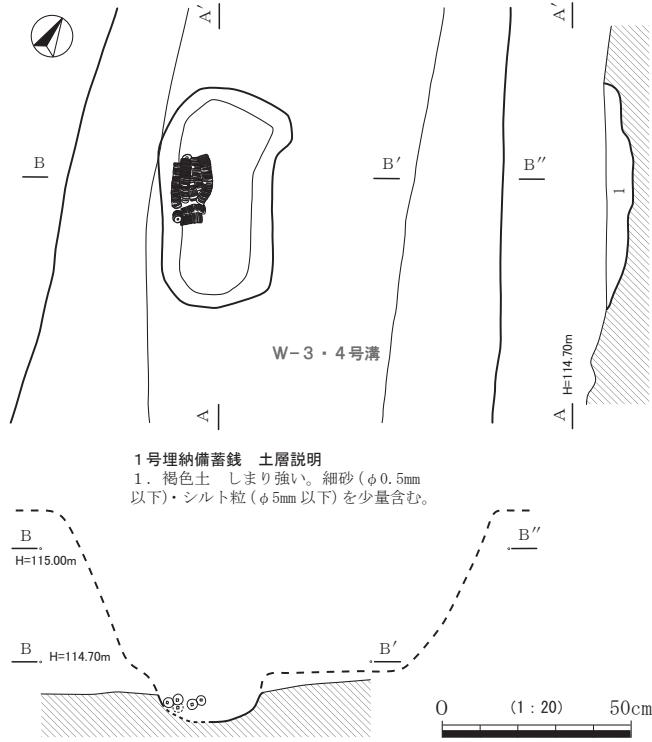


Fig. 17 遺構図 (11) W-3 ~ 15号溝(2)

#### W-11号溝 土層説明

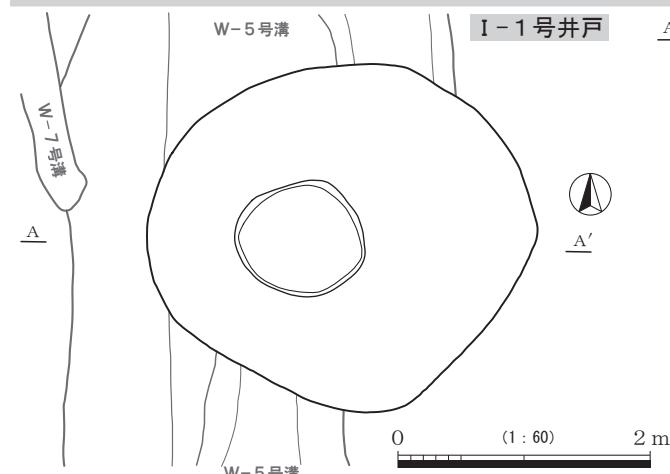
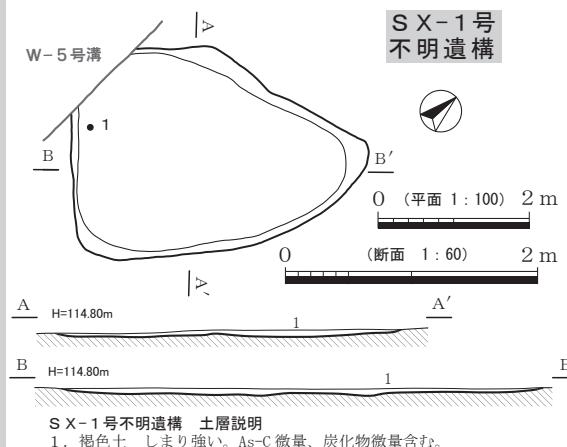
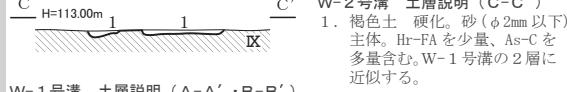
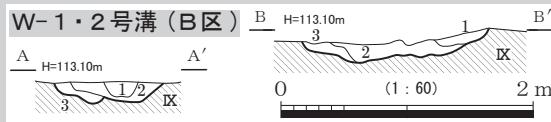
1. 暗褐色土 しまり非常に強い。やや砂質。Hr-FA 黄褐色粒(Φ5mm以下)を多量、Hr-FA・As-C を非常に多く含む。Xa層褐色土ブロック(Φ1cm以下)を少量含む。
2. 褐色土 しまり強い。やや砂質。Hr-FA 黄褐色粒(Φ5mm以下)を多量、Hr-FA を非常に多く、As-C を多量含む。Xa層褐色土ブロック(Φ1cm以下)を少量含む。
3. 褐色土 しまり非常に強い。Xa層褐色土ブロック主体。Hr-FA 黄褐色粒(Φ5mm以下)を少量、Hr-FA を多量、As-C を多量含む。
4. 暗褐色土 しまり非常に強い。IX層黒色粘質土(Φ3cm以下)・Hr-FA・As-C を多量。やや砂質。
5. 褐色土 しまり非常に強い。Xa層褐色土ブロック主体。Hr-FA 黄褐色粒(Φ3cm以下)を少量、Hr-FA・As-C を多量含む。
6. 極暗褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。IX層黒色粘質土ブロック主体。As-C を少量含む。
7. 黒褐色土 しまり強い。Hr-FA 黄褐色粒(Φ5cm以下)・Hr-FA・As-C を非常に多く含む。
8. 暗褐色土 しまりあり。Hr-FA 黄褐色粒(Φ2cm以下)を多量、Hr-FA・As-C を非常に多量。

#### 貨幣埋納遺構 (1号埋納備蓄銭)



#### W-13号溝 土層説明

1. 褐色土 しまり強い。Xa層褐色土ブロック主体。Hr-FA 黄褐色粒(Φ2cm以下)少量、Hr-FA を微量、As-C を少量含む。
2. 暗褐色土 しまりあり。Hr-FA 黄褐色粒(Φ2cm以下)を少量含む。
3. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。Hr-FA 黄褐色粒(Φ2cm以下)非常に多い。
4. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。Hr-FA 黄褐色粒(Φ2cm以下)少量含む。
5. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。Hr-FA 黄褐色粒(Φ2cm以下)少量含む。IX層黒色粘質土ブロック(Φ3cm以下)を斑状に多量含む。



#### I-1号井戸 土層説明

1. 褐色土 しまり強い。砂質。Hr-FA・As-C 少量含む。
2. 褐色土 しまり強い。やや砂質。As-B 少量、Hr-FA 少量、As-C 多量含む。
3. 褐色～ しまり強い。やや砂質。
4. 灰褐色土 As-C 少量、Hr-FA 少量、Hr-FA ブロック(Φ1~3cm) 少量含む。
5. 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。IX層黒色土ブロック(Φ1~3cm)を斑状に多量、Hr-FA・As-C を少量含む。
6. 極暗褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。IX層黒色土ブロック(Φ1~3cm)を斑状に多量含む。Hr-FA・As-C を少量含む。
7. 褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。IX層黒色土ブロック(Φ1~3cm)を斑状に多量、Hr-FA ブロック(Φ1~3cm)・Hr-FA を少量、As-C を多量含む。
8. 灰褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。IX層黒色土ブロック(Φ1~2cm)を斑状に多量、砂(Φ0.5~2mm)を少量、Hr-FA ブロック(Φ1~2cm)を多量、As-C を少量含む。

9. 明褐色土 しまり弱い。砂(Φ0.5~2mm)多量、Hr-FA ブロック(Φ1~2cm)・As-C を少量含む。
10. 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。細砂(Φ1mm以下)・As-C を少量含む。均質。
11. 黒色土 しまり非常に強い。粘性強い。均質。乾燥後にクラック多数貫入。
12. 褐色～ 黒褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。白色～黃白色シルト粒(Φ5mm以下)を互層状に少量含む。緻密、均質。
13. 灰白色土 しまりあり。粘性弱い。シルト・細砂(Φ0.5mm以下)主体。
- 14a. 黑褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。シルト粒(Φ5mm以下)少量。均質。
- 14b. 明褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。シルト粒(Φ5mm以下)少量。均質。
15. 明褐色土 しまり強い。粘性弱い。シルト・細砂(Φ0.5mm以下)主体。互層状。
16. 褐色～ 暗褐色土 しまり非常に強い。シルト粒(Φ5mm以下)多量含む。均質。
17. 暗褐色土 しまり強い。粘性あり。砂(Φ1.5mm以下)を互層状に多量含む。

Fig. 18 遺構図 (12) W-1・2・11・13号溝 / 1号埋納備蓄銭 / I-1号井戸 / S X-1号不明遺構

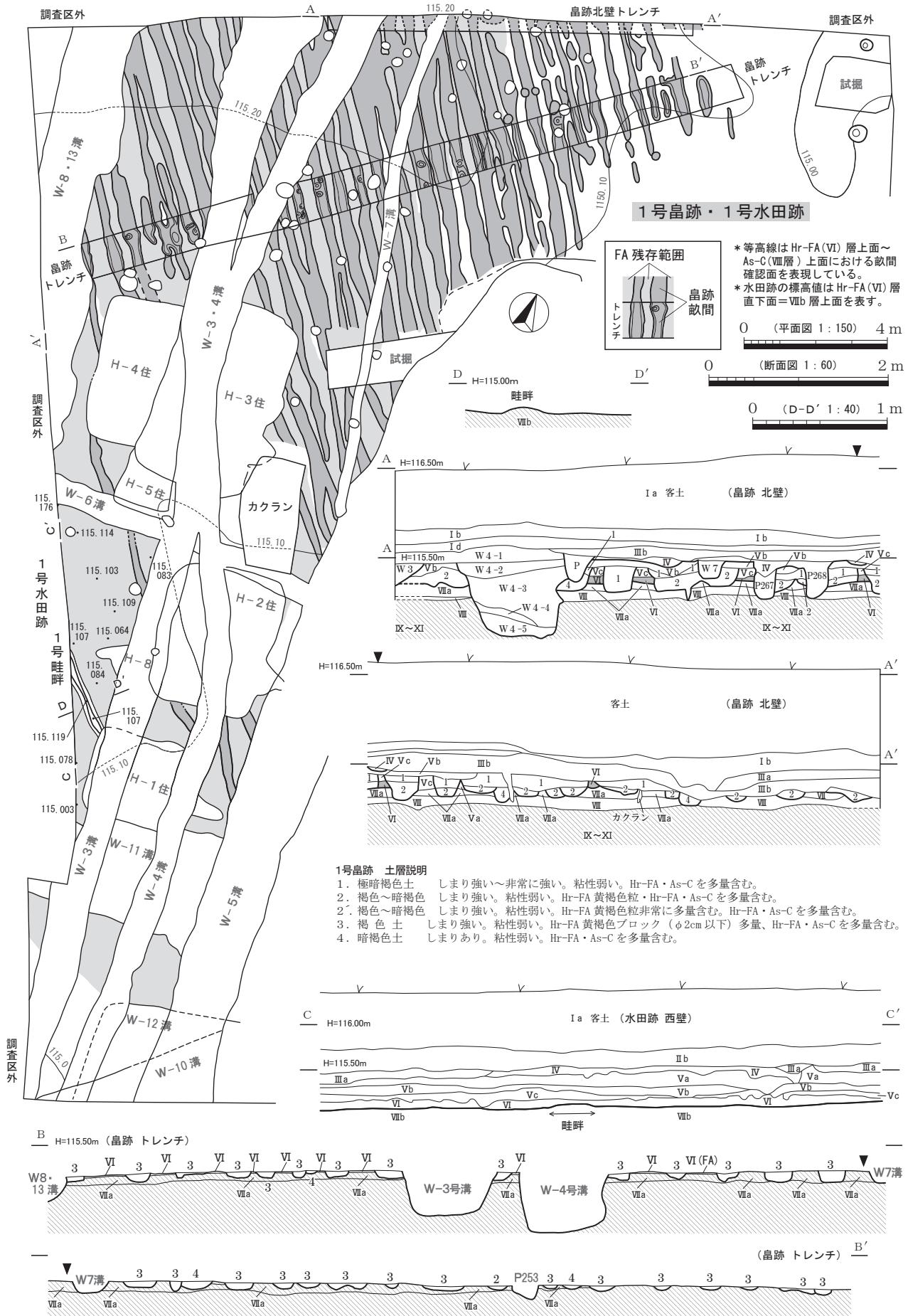
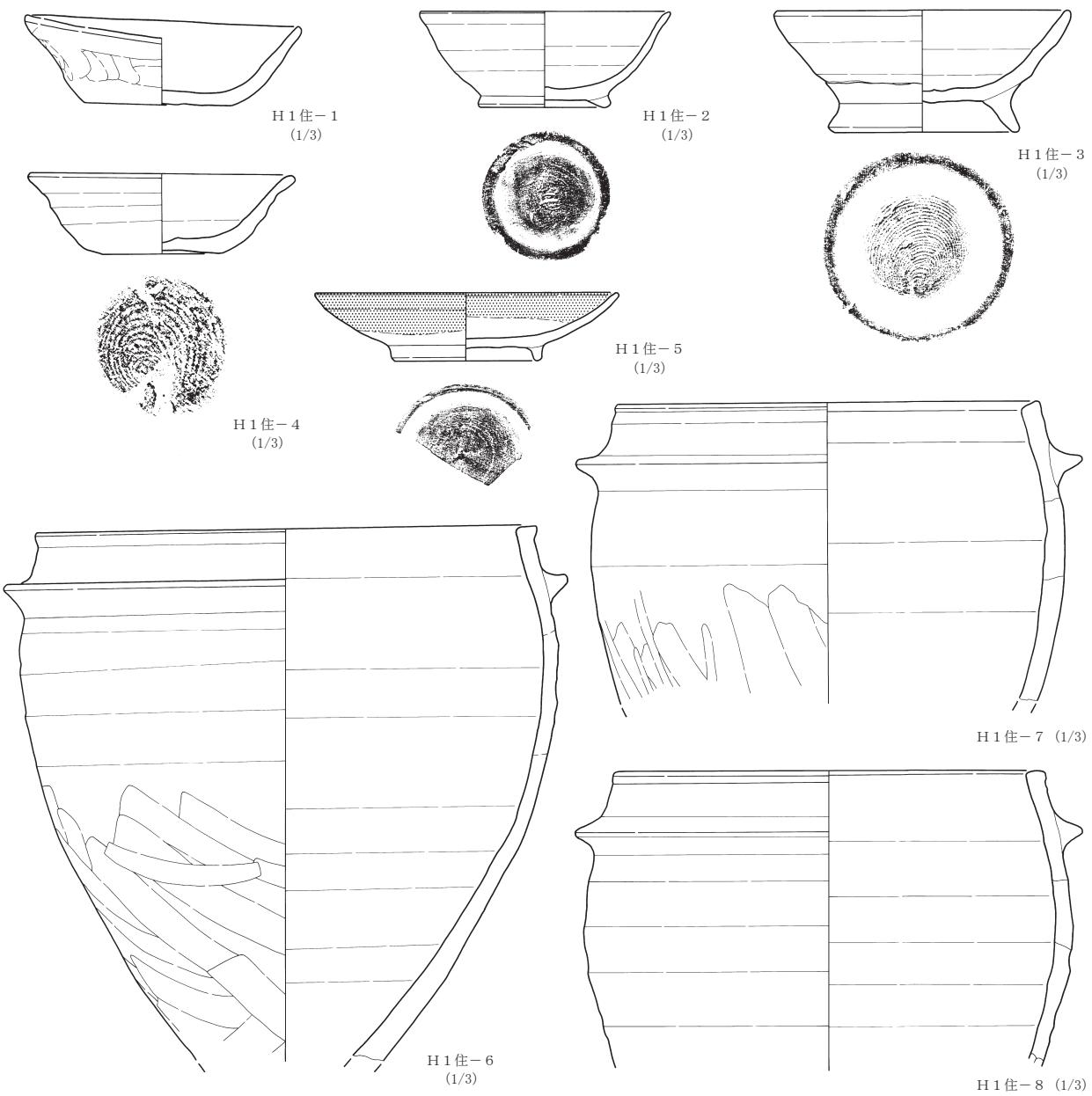


Fig. 19 遺構図 (13) 1号畠跡 / 1号水田跡

H - 1号住居跡



H - 2号住居跡①

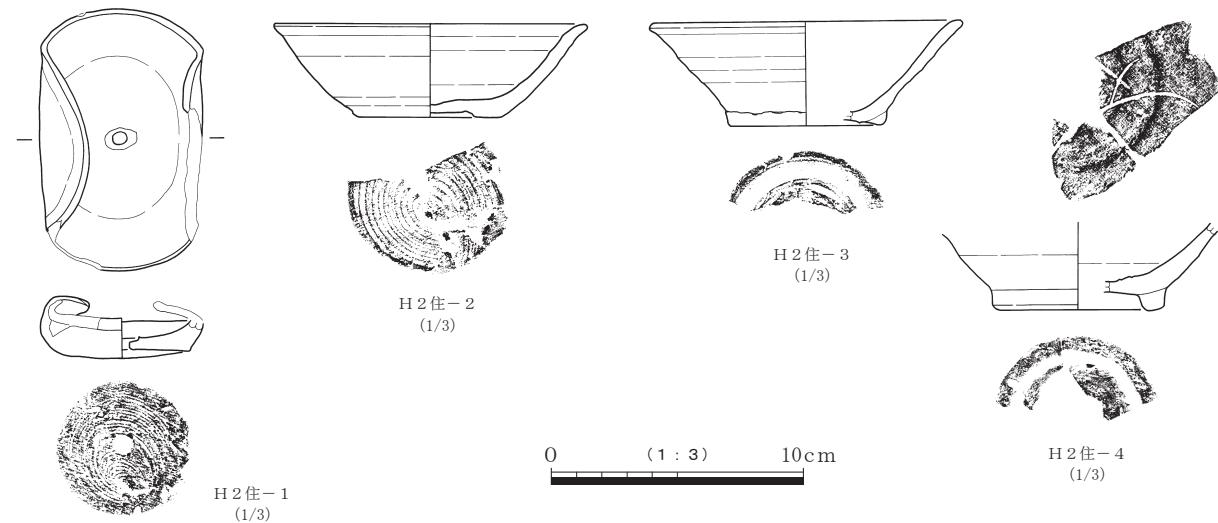
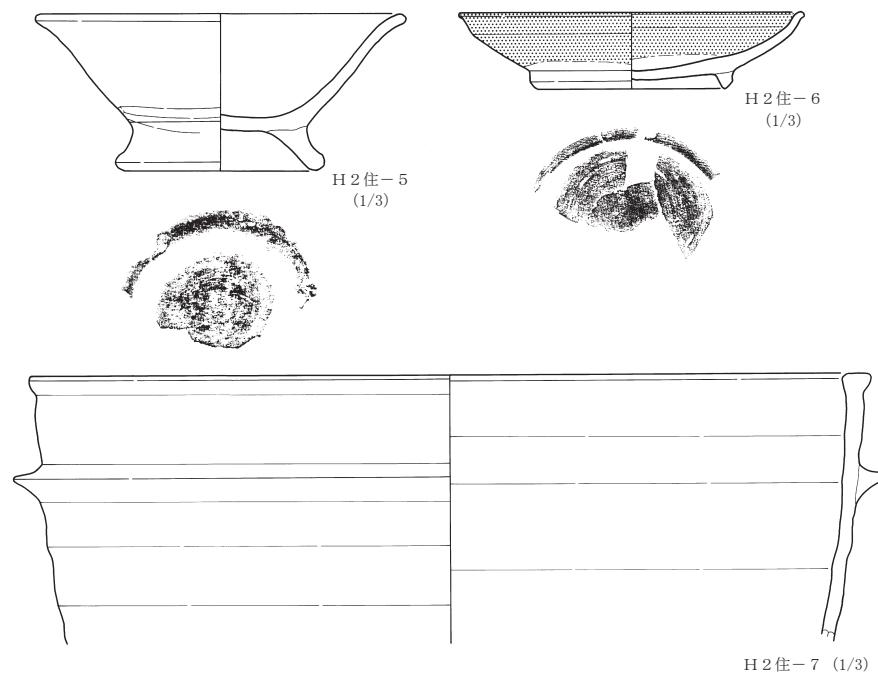
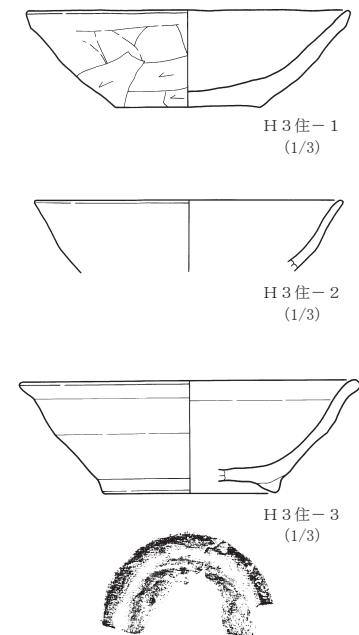


Fig. 20 遺物図 (1) H - 1号住居跡 / H - 2号住居跡①

H-2号住居跡②



H-3号住居跡



H-6号住居跡①

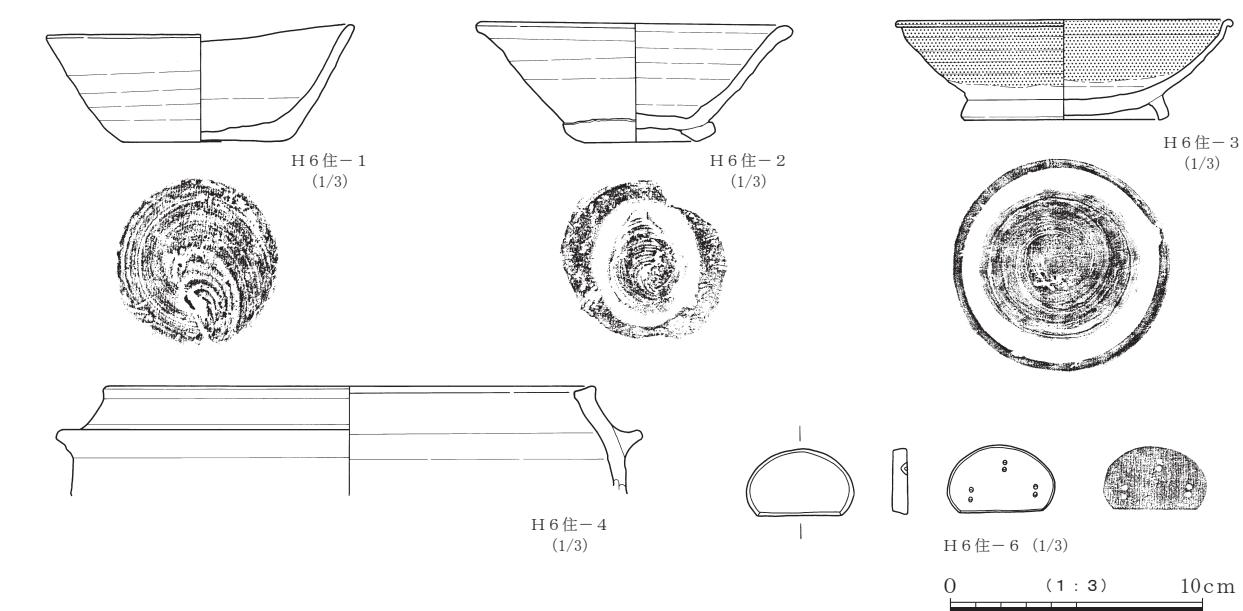
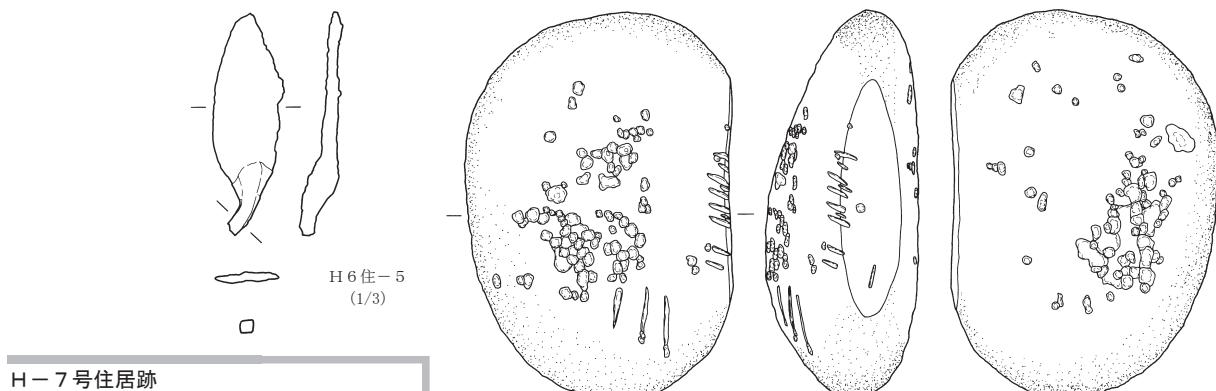
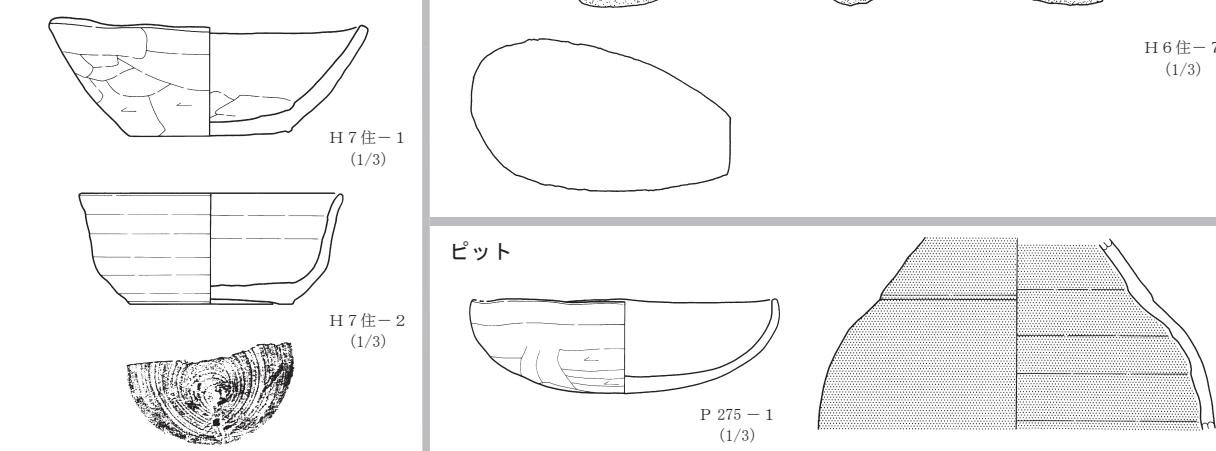


Fig. 21 遺物図 (2) H-2号住居跡② / H-3号住居跡 / H-6号住居跡①

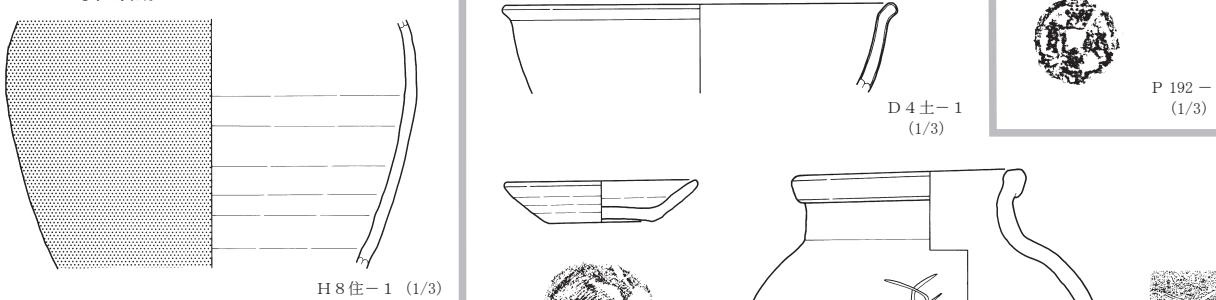
H-6号住居跡②



H-7号住居跡



H-8号住居跡



堅穴状遺構

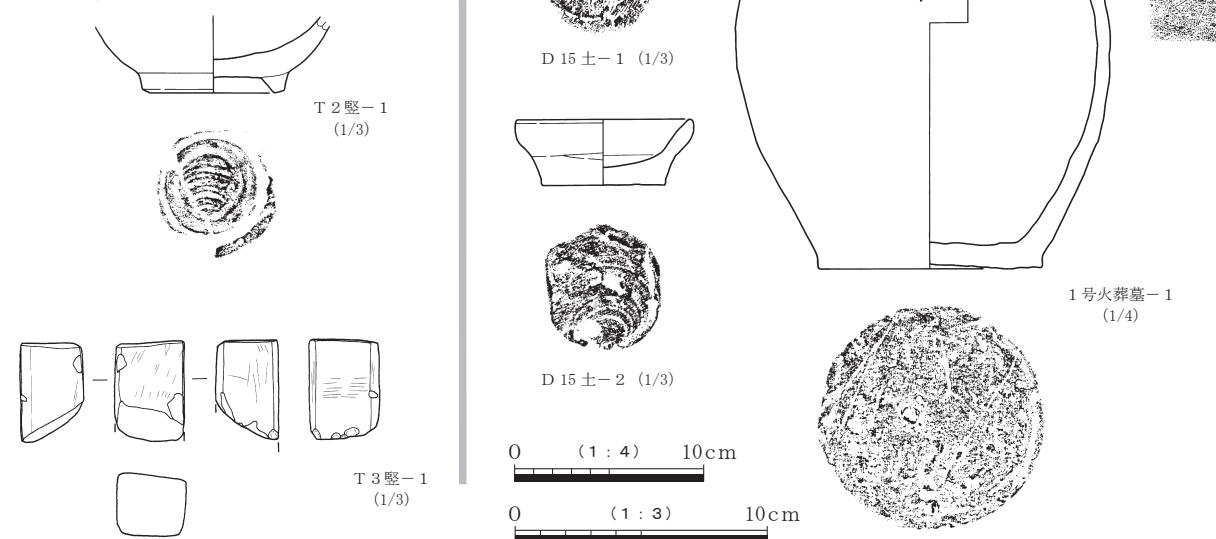
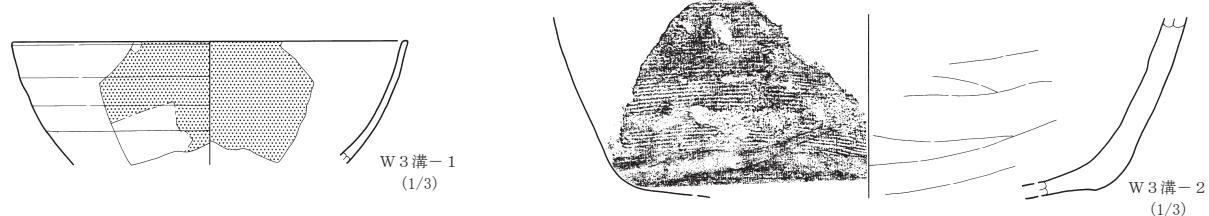


Fig. 22 遺物図 (3) H-6号住居跡② / H-7・8号住居跡 / T-2・3号堅穴状遺構 / P-192・238・275 / D-4・15号土坑 / 1号火葬墓

W-3号溝



W-5号溝①

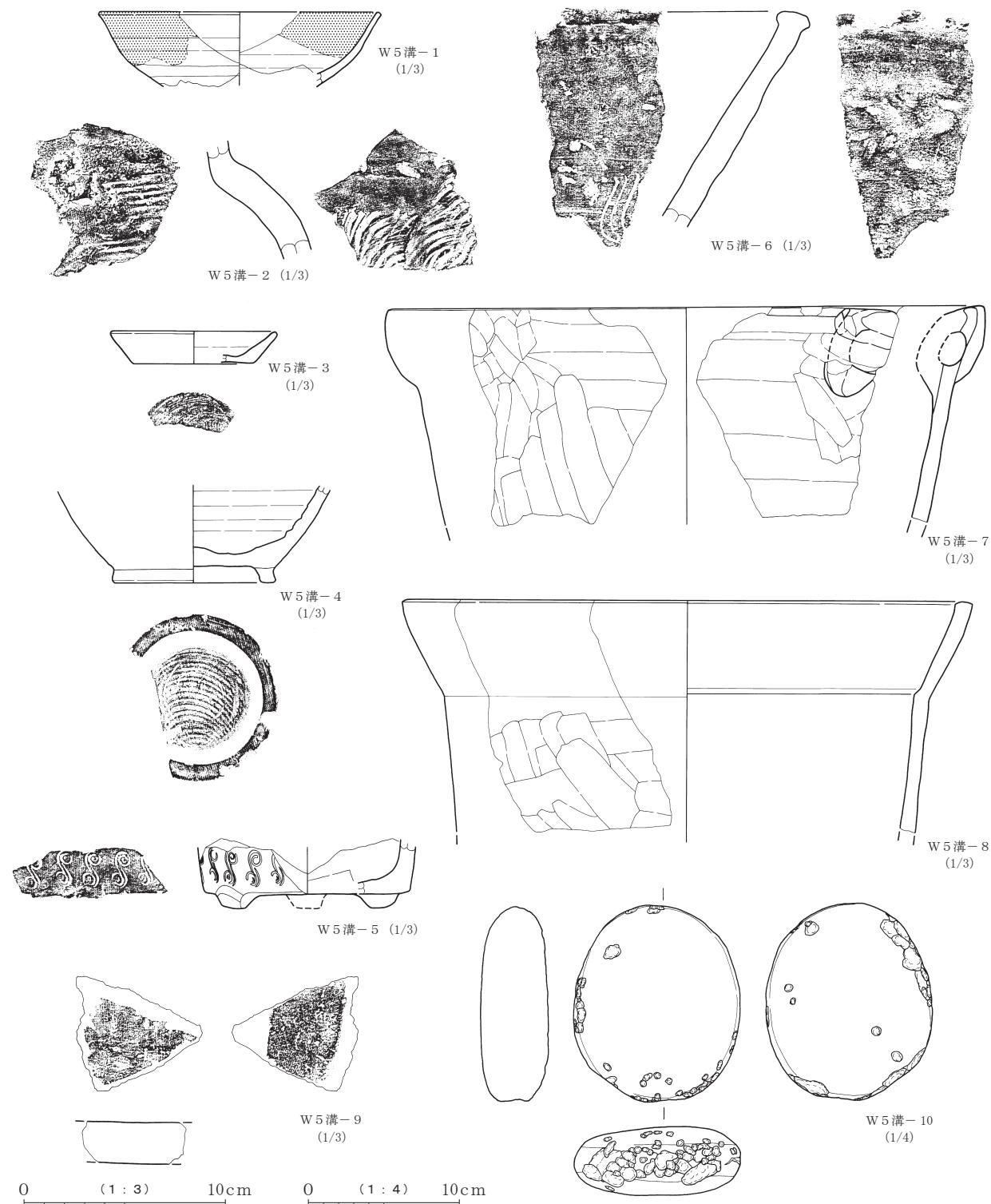
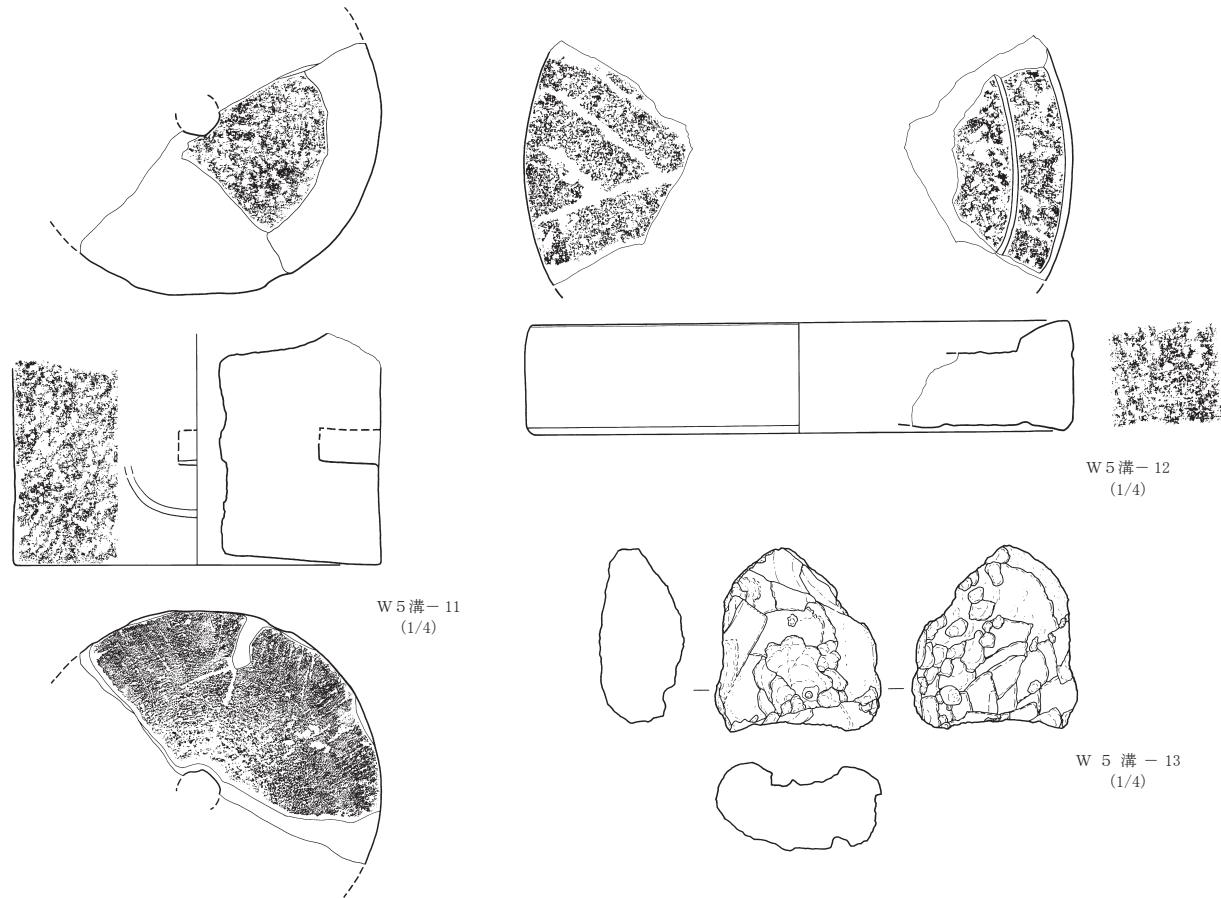
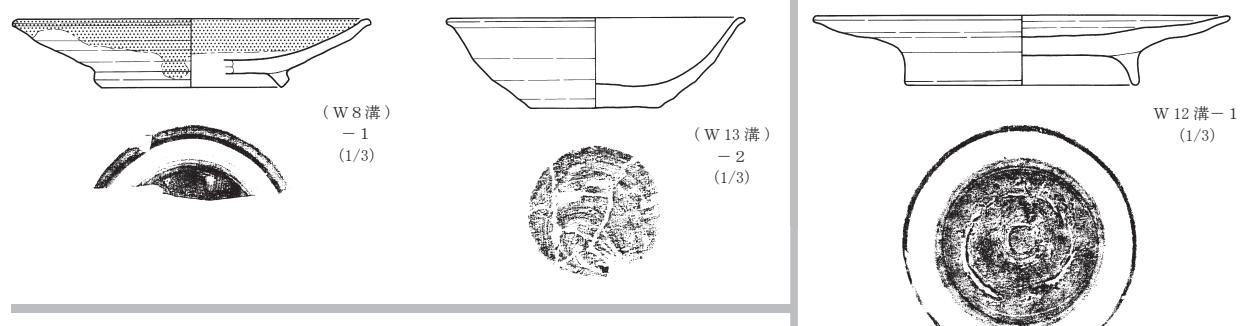


Fig. 23 遺物図 (4) W-3号溝 / W-5号溝①

W-5号溝②



W-8・13号溝



I-1号井戸①

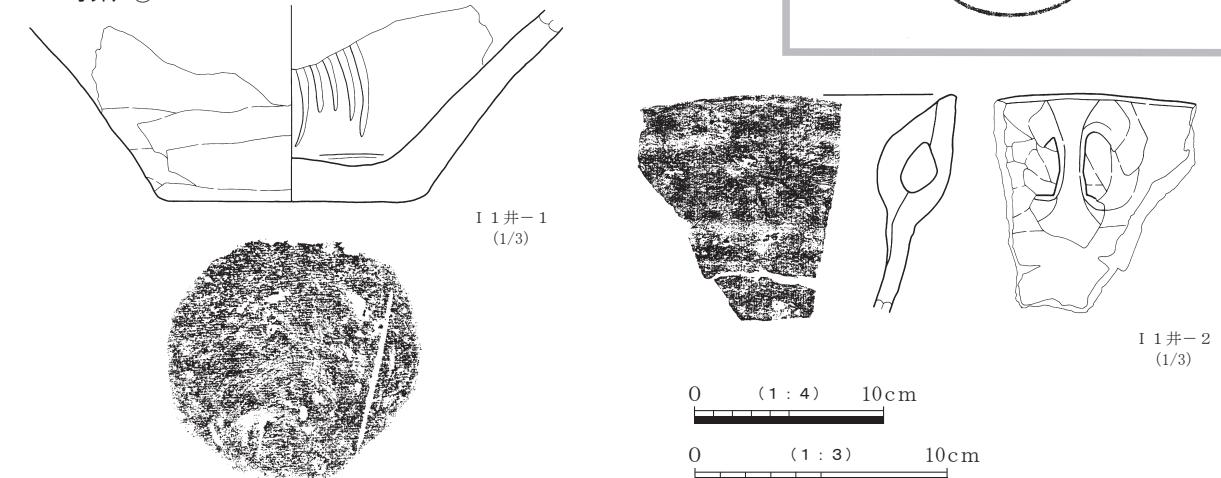


Fig. 24 遺物図 (5) W-5号溝② / W-8・13号溝 / W-12号溝 / I-1号井戸①

I - 1号井戸②

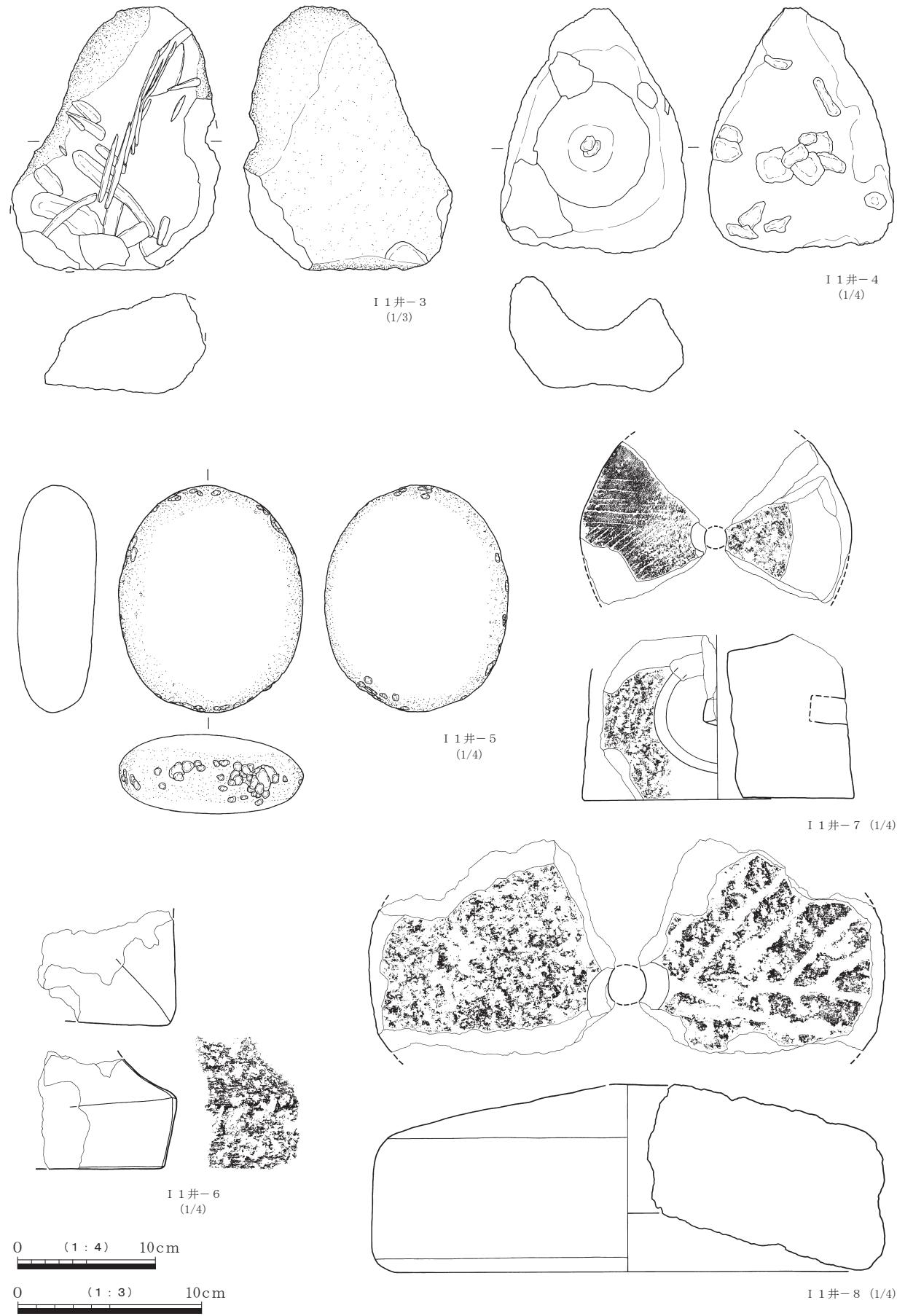
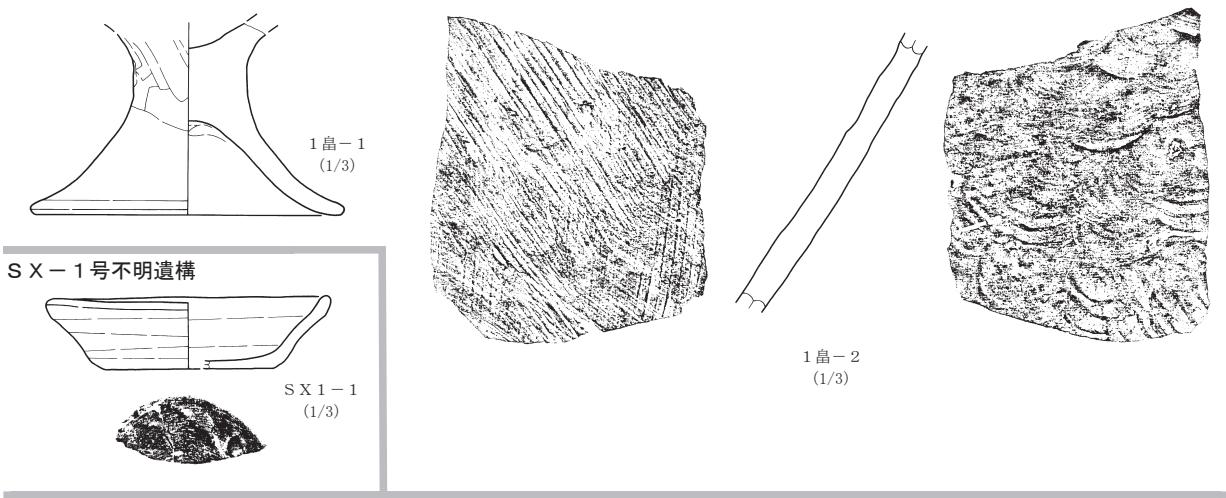


Fig. 25 遺物図 (6) I - 1号井戸②

### 1号畠跡



### 遺構外出土遺物

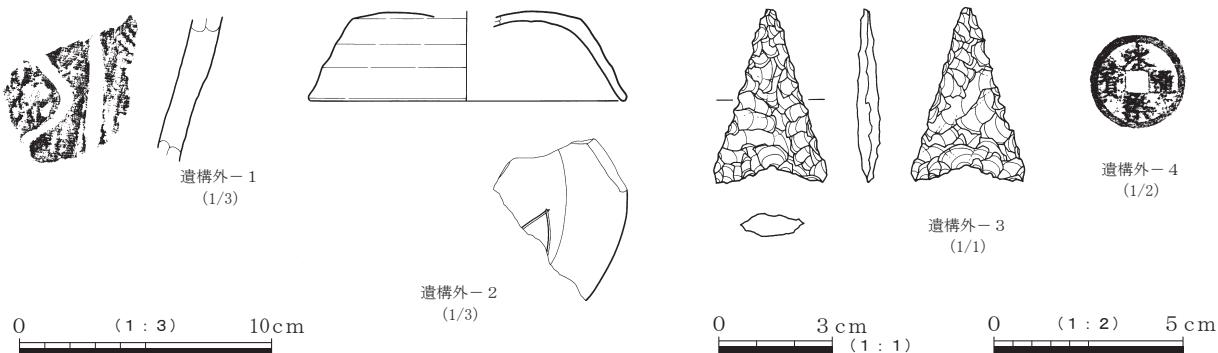


Fig. 26 遺物図 (7) 1号畠跡 / SX-1号不明遺構 / 遺構外出土遺物

Tab. 6 出土遺物観察表 (1)

### H-1号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径(12.2) 底径 6.6 器高 4.0	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・角閃石・赤色粒 ④口縁～底部 3/5	外面：口縁部横ナデ。体部上半指頭圧痕・ 指ナデ。体部下半～底部箇ケズリ。 内面：口縁～底部箇ナデ。	覆土一括、 カマド一括	
2	須恵器 壺	口径 11.7 底径 5.9 器高 3.7	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部 4/5	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	No. 1 カマド、 カマド一括	
3	須恵器 高台付壺	口径(11.2) 底径 5.6 器高 4.3	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒 ④口縁～底部 1/6	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付。 内面：轆轤整形。	カマド一括	
4	須恵器 高台付壺	口径 13.0 底径 8.0 器高 5.4	①酸化焰 ②灰黄 ③細砂粒・チャート ④完形	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り後ナデ。 高台貼付。 内面：轆轤整形。	No. 2 カマド	
5	灰釉陶器 皿	口径(13.4) 底径(6.3) 器高 3.0	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～底部 1/6	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土上層	釉刷毛塗り。
6	羽釜	口径 22.4	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・チャート ④口縁～胴部 5/6	外面：轆轤整形。轆轤整形後胴部斜位ナデ。 内面：轆轤整形。	No. 4・5・6 カマド、 覆土一括	
7	羽釜	口径(18.7)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③雲母・細砂粒 ④口縁～胴部上位 1/4	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	No. 3 カマド	
8	羽釜	口径(19.0)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③角閃石・粗砂粒・片岩 ④口縁～胴部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	No. 3・7 カマド、 覆土一括	

### H-2号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 耳皿	口径 10.3 底径 5.2 器高 2.5	①酸化焰気味 ②橙 ③粗砂粒・黒色鉱物・石英 ④口縁～底部 4/5	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No. 7 貯蔵穴	

Tab. 7 出土遺物観察表（2）

## H-2号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
2	須恵器 壺	口径(12.2) 底径 5.6 器高 3.7	①酸化焰 ②橙～にぶい橙 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/2	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土下層	
3	須恵器 高台付碗	口径 12.2 底径 6.2 器高 4.1	①還元焰 ②黄灰 ③白色粒・チャート ④口縁～底部2/5	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 高台貼付後外縁ナデ。 内面：轆轤整形。	No.5 カマド	
4	須恵器 高台付壺	底径 (6.6)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・細砂粒・チャート ④体部下半～底部1/4	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 高台貼付後ナデ。 内面：轆轤整形。	覆土下層	
5	須恵器 高台付壺	口径 (14.2) 底径 (7.6) 器高 6.1	①還元焰 ②灰黄 ③粗砂粒・チャート・黒色鉱物 ④口縁～底部2/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 高台貼付後ナデ。 内面：轆轤整形。	覆土下層	
6	灰釉陶器 折縁皿	口径 (13.4) 底径 (6.3) 器高 3.0	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～底部1/4	外面：轆轤整形。高台貼付。 内面：轆轤整形。	覆土上層、 覆土下層	釉刷毛塗り。
7	羽釜	口径 (33.0)	①還元焰 ②灰白 ③細砂粒・黒色鉱物・白色粒 ④口縁～胴部上位片	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	No.4 カマド カマド一括	

## H-3号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径 (12.6) 底径 (5.6) 器高 3.8	①酸化焰 ②黄灰 ③細・粗砂粒・雲母 ④口縁～底部1/6	外面：口縁部横ナデ、体部上位指頭圧痕およびナデ後体部中位～底部窓ケズリ。 内面：口縁～底部窓ナデ。	掘り方	
2	須恵器 壺	口径 (12.0) 底径 6.7	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・チャート・黒色鉱物 ④口縁～体部1/2	外面：轆轤整形。器面荒れる。 内面：轆轤整形。	覆土下層、 掘り方、カマド掘り方	
3	須恵器 高台付壺	口径 (13.0) 底径 5.6 器高 4.3	①酸化焰 ②明赤褐～にぶい黄橙 ③黒色鉱物・白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 高台貼付後ナデ。 内面：轆轤整形。	覆土下層	
4	灰釉陶器 高台付碗	口径 (15.9) 底径 8.5 器高 5.3	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～底部1/3	外面：轆轤整形。高台貼付。 内面：轆轤整形。口唇部に油煙付着。	P1 上層	釉刷毛塗り。
5	羽釜	口径 (18.1)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③黒色鉱物・赤褐色粒・細砂粒 ④口縁～胴部上位1/4	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	カマド、 掘り方	

## H-6号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 壺	口径 12.0 底径 6.4 器高 4.6	①酸化焰 ②にぶい橙 ③角閃石・赤褐色粒・細砂粒 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部回転右糸切り。 内面：轆轤整形。	No.19 貯蔵穴	
2	須恵器 高台付壺	口径 12.1 底径 4.4 器高 4.9	①酸化気味 ②黒褐 ③黒色鉱物・赤褐色粒・片岩 ④ほぼ完形	外面：轆轤成形。底部右回転糸切り後に高台貼付し、周縁ナデ。 内面：轆轤整形。	No.6 下層	
3	灰釉陶器 高台付碗	口径 (12.9) 底径 7.5 器高 3.9	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：轆轤整形。高台貼付。 内面：轆轤整形。	No.1 下層	釉刷毛塗り。
4	羽釜	口径 (19.2)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・赤褐色粒・黒色鉱物 ④口縁～胴部上位片	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	No.7 上層	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
5	鉄製品 鐵鏃カ	長さ：全長 [8.7] 錐身部 7.3 茎部 [1.4] 幅：錐身部 [2.3] 茎部 (0.5) 厚さ：錐身部 0.25 茎部 (0.5) 重さ 1673。	長頸柳葉式の鉄鏃とも推測されるが、不詳である。	No.17 床直		
6	石製品 丸鉋	長さ：2.6 幅：4.2 厚さ：0.6 重さ：13.46 石材：蛇紋岩。 丁寧に研磨される。無孔。潜り穴式。		No.15 下層		
7	石製品 砥石	長さ：30.7 幅：21.1 厚さ：12.1 重さ 9000。石材：安山岩。砥石→カマド構築材→貯蔵穴 廃棄と推測。大型自然礫の表・裏面に敲打痕と線刻状砥面。右側縁は著しく平滑に磨耗。		貯蔵穴	全体被熱。	

## H-7号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径 (12.2) 底径 6.2 器高 4.6	①酸化焰 ②にぶい赤褐 ③赤褐色粒・黒色鉱物 ④完形	外面：口縁部横ナデ。体部窓ケズリ後に上半ナデ。底面ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部窓ナデ。	No.1、 覆土一括	
2	須恵器 壺	口径 (10.3) 底径 6.5 器高 4.3	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部2/5	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

## H-8号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	灰釉陶器 長頸壺	-	①還元焰 ②灰白 ③黒色粒 ④胴部片	外面：轆轤整形。下半部回転窓ケズリ。 内面：轆轤整形。	カマド一括	

Tab. 8 出土遺物観察表（3）

## T-2号竪穴状遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 高台付塊	底径(5.4)	①酸化気味 ②にぶい黄橙 ③チャート・白色粒・赤色粒 ④口縁～体部1/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 高台貼付後、ナデ。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

## T-3号竪穴状遺構

番号	器種	法量(cm・g)、成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	石製品 砥石	長さ：[3.95] 幅2.8 厚さ：2.5 重さ：44.92。石材：流紋岩。 5面使用。砥面は平滑に磨耗。部分的に擦痕。一部、被熱により黒変。	覆土一括	

## P-192

番号	器種	法量(cm・g)、成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	古銭	錢径：縦2.32 橫：2.32 内径：縦1.81 橫1.81 厚さ：0.15 重さ：2.23。判読不能。	覆土一括	

## P-238

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 器種不明	-	①堅緻 ②素：灰 ③黒色粒・白色粒 ④胴部片	外面：轆轤整形。鉄釉。 内面：轆轤整形。鉄釉。	覆土上層	古瀬戸カ

## P-275

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径12.0 器高 3.7	①酸化焰 ②橙 ③白色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体～底部箇ナデ。	底面付近	土師器甕胴部破片共伴

## D-4号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	青磁 碗	口径(15.2)	①堅緻 ②素：灰 種類：灰オリーブ ③白色粒 ④口縁～体部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	No.1 覆土上層	

## D-15号土坑(P-91)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径(6.8) 底径 4.8 器高 2.5	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒・細砂粒 ④口縁～底部1/3	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No.1 底面	
2	土師質土器 皿	口径 7.4 底径 4.0 器高 1.6	①酸化焰 ②橙 ③黒色鉱物・細砂粒 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

## 1号火葬墓

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	焼締陶器 壺	口径 11.5 底径 11.7 器高 23.3	①堅緻 ②素：灰色、暗赤褐 ③白色粒、白色石 ④完形	外面：轆轤整形。肩部に刻文。「女」カ。 内面：轆轤整形。		常滑 藏骨器

## W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	灰釉陶器 碗	口径(15.4)	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁～体部片	外面：轆轤整形。体部下半回転箇ケズリ。 内面：轆轤整形。	覆土一括	釉刷毛塗り。
2	軟質陶器 内耳鍋	底径(18.0)	①中性焰 ②灰黄褐 ③細砂粒・白色粒・赤色粒 ④胴部下半～底部	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土一括	外面二次焼成。

## W-5号溝①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	灰釉陶器 碗	口径(13.8)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～体部片	外面：轆轤整形。体部下半回転箇ケズリ。 内面：轆轤整形。	覆土一括	釉刷毛塗り。 鉄分噴出。
2	須恵器 甕	-	①還元焰 ②灰白 ③黒色粒・白色粒 ④頸～胴部片	外面：頸部ナデ。胴部平行叩き。 内面：頸部横ナデ。胴部當て具痕。	覆土一括	外面自然釉被る。
3	土師質土器 皿	口径(8.0) 底径(5.9) 器高 1.6	①酸化焰 ②橙 ③黒色粒・白色粒・細砂粒 ④口縁～底部1/6	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
4	土師質土器 香炉	底径(10.0)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・細砂粒・チャート ④体部下半～底部1/4	外面：ナデ後、蕨状(縦位S字状)文を施文。 内面：横ナデ。	W-5b号溝 覆土一括	
5	須恵器 壺カ	底径 8.0	①堅緻 ②にぶい赤褐 ③細砂粒・白色粒 ④胴～底部片	外面：胴部(右)回転箇ケズリ。底部右回転糸切り後、高台貼付し、周縁ナデ。 内面：胴～底部轆轤整形。	No.10 下層	内面底部 灰被り。
6	軟質陶器 擂鉢	-	①中性焰 ②灰 ③チャート・白色粒・細砂粒 ④口縁～体部片	外面：口縁～体部ナデ。 内面：口縁～体部ナデ。摺り目1単位4本以上	No.5 下層	

Tab. 9 出土遺物観察表 (4)

## W-5号溝②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
7	軟質陶器 内耳鍋	口径(29.0)	①中性焰 ②灰黄 ③白色粒・赤色粒・細砂粒 ④口縁～胴部片	外面：口縁～胴部ナデ。 内面：口縁～胴部ナデ。耳部貼付。	No. 8 下層	
8	軟質陶器 内耳鍋	口径(27.7)	①中性焰 ②灰黄褐 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～胴部片	外面：口縁～胴部ナデ。 内面：口縁～胴部ナデ。	No. 13 下層、 No. 21 底面	
9	瓦 平瓦	—	①還元焰 ②黄灰 ③細砂粒・白色粒・黒色粒 ④破片	凹面：布目压痕。側端部箇ナデ。 凸面：箇ナデ。	覆土一括	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
10	石器 磨石・敲石	長さ：12.65 幅：11.0 厚さ：4.55 重さ：1018.95。石材：閃緑岩。 表・裏面に顕著な磨耗痕。側縁に多数の敲打痕。一部に被熱による黒変。			No. 26 底面	
11	石臼 (上臼・茶臼)	最大径：(19.0) 重さ：2061.58。石材：安山岩。 ミガキ整形。側面に方形の挽木穴を有し、円形の額(座)を持つ。挽き面は摩耗。			No. 33 下層	
12	石臼 (上臼・穀臼)	最大径：(29.0) 高さ：5.8 重さ：479.39。石材：安山岩。 ミガキ整形。挽き面は1.8～2.5cm間隔の目が残る。			No. 22 底面	
13	石製品 凹み石	長さ：[9.7] 幅：[8.8] 厚さ：[4.65] 重さ：197.72。石材：角閃石安山岩。 不定形な礫の表面に敲打痕・削痕・磨耗痕が認められ、中央は敲打によって凹み穴となる。			No. 32 下層	

## W-8・13号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	灰釉陶器 高台付皿	口径(13.7) 底径(7.1) 器高 2.7	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～底部1/5	外面：轆轤整形。高台貼付。 内面：轆轤整形。	W-8号溝 No. 1 上層	釉刷毛塗り。
2	須恵器 坏	口径 11.5 底径 5.2 器高 3.5	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③角閃石・赤色粒・白色石 ④口縁～底部4/5	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	W-13号溝 覆土下層	

## W-12号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 高台付皿	口径(16.2) 底径 9.0 器高 2.7	①還元焰 ②灰 ③細砂粒 ④口縁～底部1/2	外面：轆轤整形。高台貼付。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

## I-1号井戸

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	軟質陶器 鉢	底径 9.8	①中性焰 ②にぶい黄褐 ③粗砂粒・赤褐色粒 ④胴部下半～底部片	外面：轆轤整形。胴部下位横位の箇ナデ。 内面：轆轤整形。5本一単位の御目。	中層	
2	軟質陶器 内耳鍋	—	①中性焰 ②灰黄 ③白色粒・赤褐色粒・黒色鉱物 ④口縁部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。耳部貼付。	下層～底面、 中層	外面煤付着。
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
3	石器 砥石	長さ：[14.3] 幅：[11.3] 厚さ：5.45 重さ：821.6。石材：安山岩。線刻～溝状の砥面あり。			覆土一括	
4	石製品 凹み石	長さ：17.8 幅：13.4 厚さ：8.4 重さ：1669.35。石材：安山岩。 中央に擂鉢状の凹み。周縁は人為的整形痕か自然剥落か不明瞭。			覆土一括	
5	石器 磨石・敲石	長さ：16.5 幅：13.35 厚さ：5.75 重さ：1934.25。石材：閃緑岩。 表・裏面に顕著な磨耗痕。側面に敲打痕と被熱痕跡。			覆土一括	側面煤付着。
6	五輪塔	長さ：[8.3] 幅：[10.0] 高さ：[8.5] 重さ：469.8。石材：角閃石安山岩。五輪塔火輪。			覆土上層	
7	石臼 (上臼・茶臼)	最大径：(19.7) 重さ：1098.98。石材：粗粒輝石安山岩。ミガキ整形。 側面に方形の挽木穴を有し、円形の額(座)を持つ。挽き面は0.3～0.4cm間隔の目が残る。			覆土一括	
8	石臼 (上臼・穀臼)	最大径：(37.2) 高さ：(13.5) 重さ：3304.15 石材：安山岩。ミガキ整形。 挽き面は2.0～2.4cm間隔の目が残る。			覆土一括	

## 1号畠跡

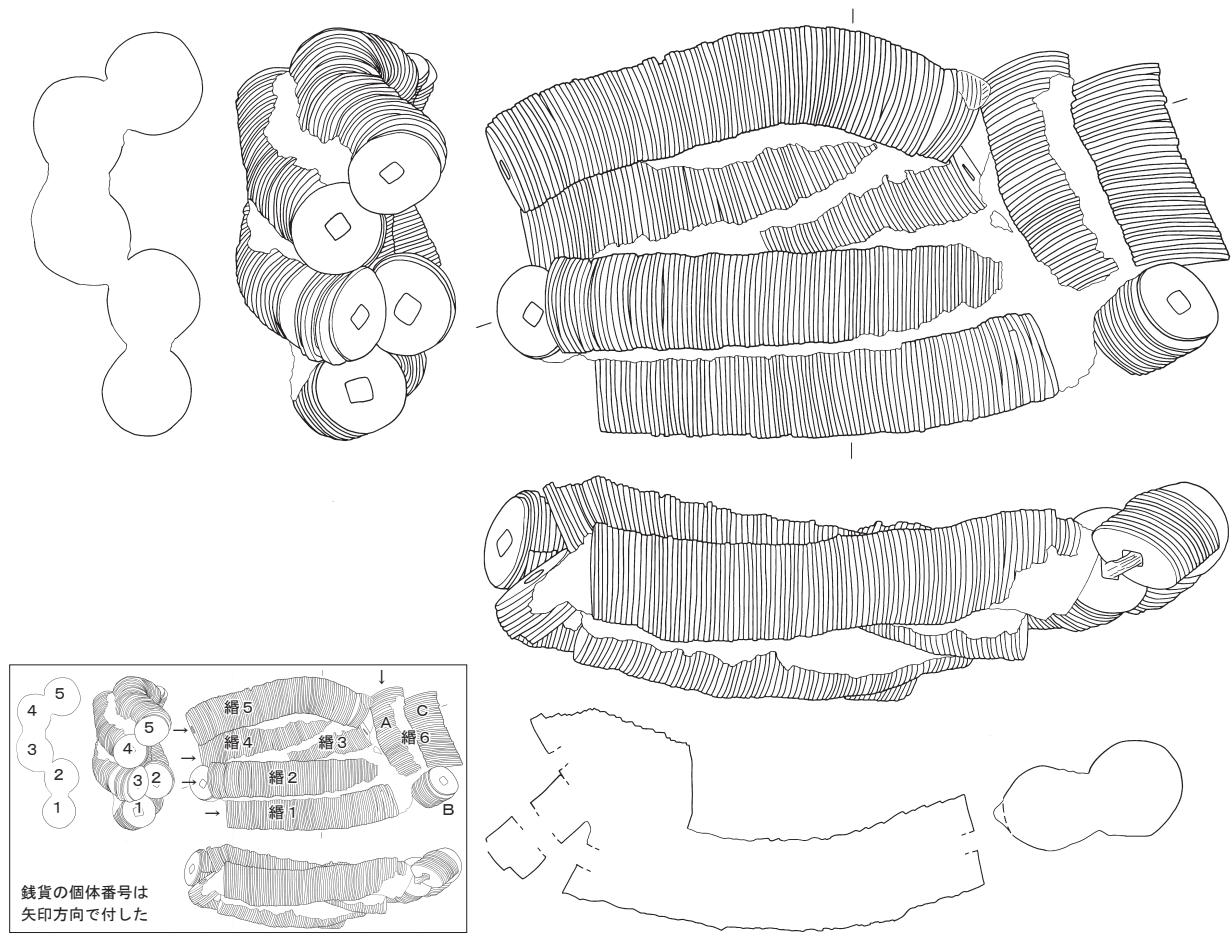
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 高坏	底径(12.0)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③粗砂粒・透明粒・黒色粒 ④脚部片	外面：脚部ナデ。裾部横ナデ。 内面：脚部ナデ。裾部横ナデ。	畠間覆土 一括	
2	須恵器 甕	—	①還元焰 ②灰 ③白色石・透明粒 ④胴部片	外面：平行叩き。 内面：当て具痕。	畠間覆土 一括	

## S X-1号不明遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径(11.4) 底径(7.1) 器高 2.9	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・白色砂粒・角閃石 ④口縁～底部1/4	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	底面	

## 遺構外出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	繩文土器 深鉢	—	①良好 ②浅黄橙 ③角閃石・石英・白色粒 ④胴部片	単節斜繩文RLを施し、縦位沈線で区画し、区画内を磨消後、沈線による蛇行懸垂文。	Aトレンチ IX層	加曾利E式
2	須恵器 蓋	口径(12.4)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④体部片	外面：轆轤整形。天井部回転ナデ。 内面：轆轤整形。天井部に「V」状刻書。	B区表土	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
3	石器 石鏃	長さ：2.3 幅：1.5 厚さ：0.32 重さ：0.72。石材：チャート。凹基無茎鏃。完形。			A区IX層	
4	古銭	錢径：縦 2.51 横 2.32 内径：縦 2.04 横 2.04 厚さ：0.14 重さ：2.93。「永楽通寶」。			A区表土	



縒 1

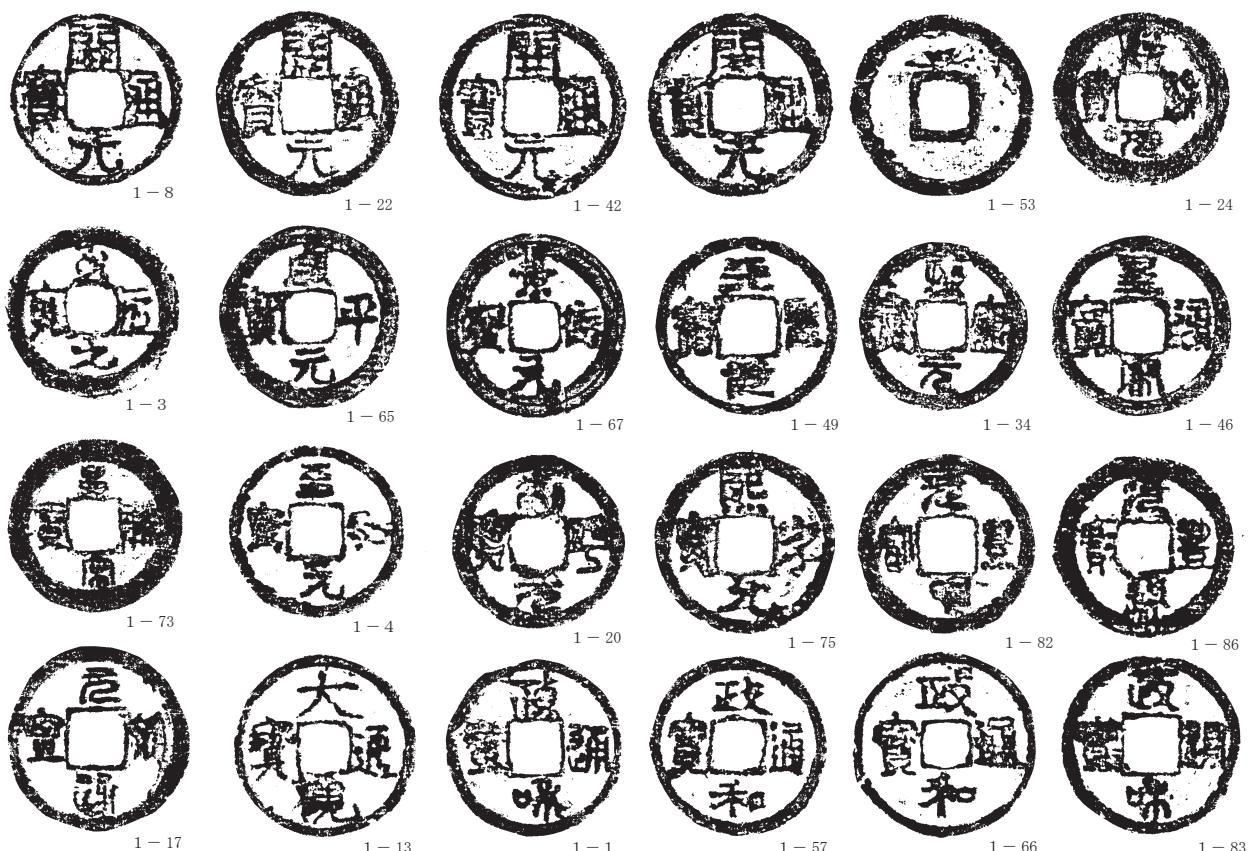
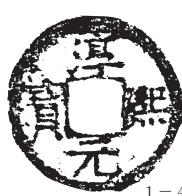


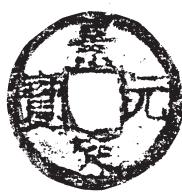
Fig. 27 遺物図 (8) 1号埋納備蓄銭①



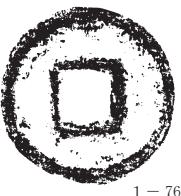
1 - 90



1 - 41



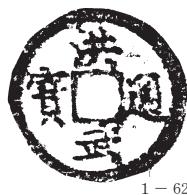
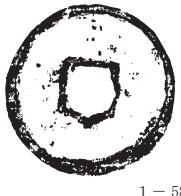
1 - 26



1 - 76



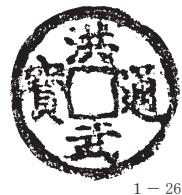
1 - 58



1 - 62



1 - 25



1 - 26

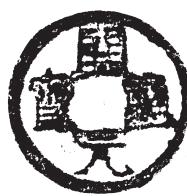


1 - 27

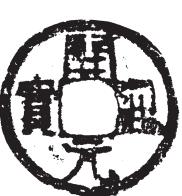


1 - 36

## 緒2



2 - 53



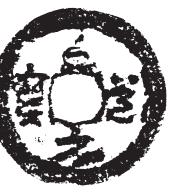
2 - 62



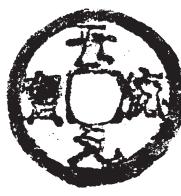
2 - 24



2 - 78



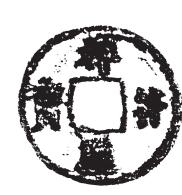
2 - 90



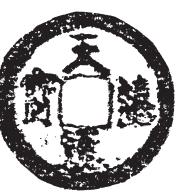
2 - 45



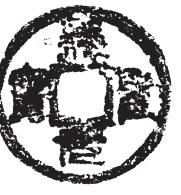
2 - 42



2 - 79



2 - 86



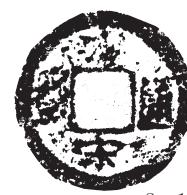
2 - 8



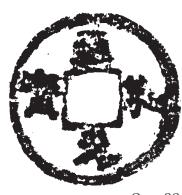
2 - 14



2 - 92



2 - 1



2 - 32



2 - 85



2 - 66



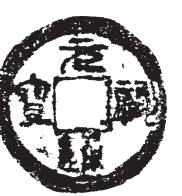
2 - 51



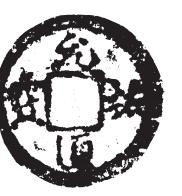
2 - 59



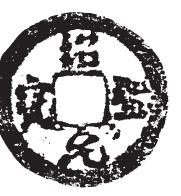
2 - 60



2 - 44



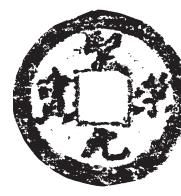
2 - 61



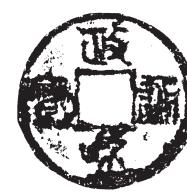
2 - 49



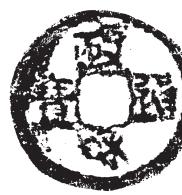
2 - 69



2 - 41



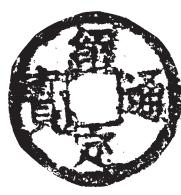
2 - 57



2 - 67

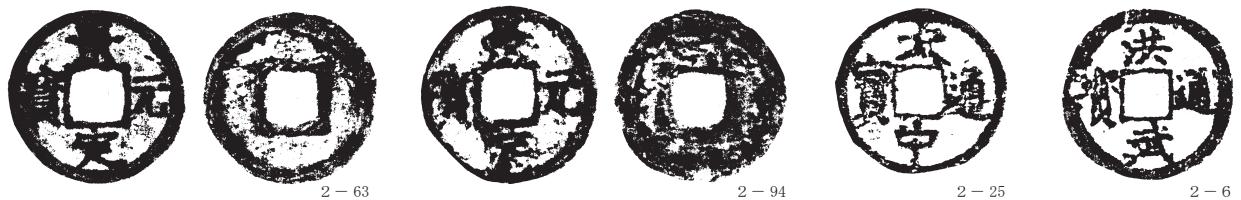


2 - 83



2 - 18

Fig. 28 遺物図 (9) 1号埋納備蓄銭②



### 緒3

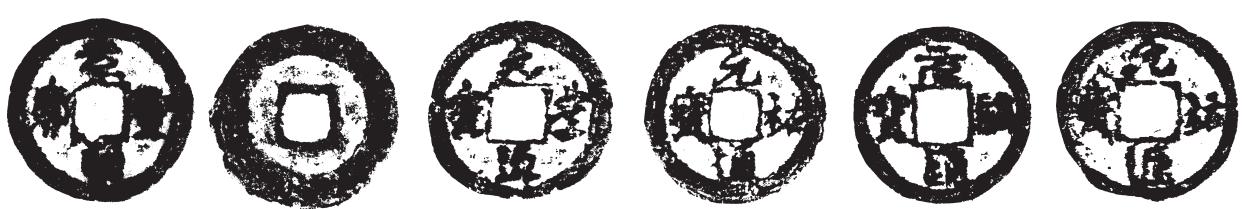
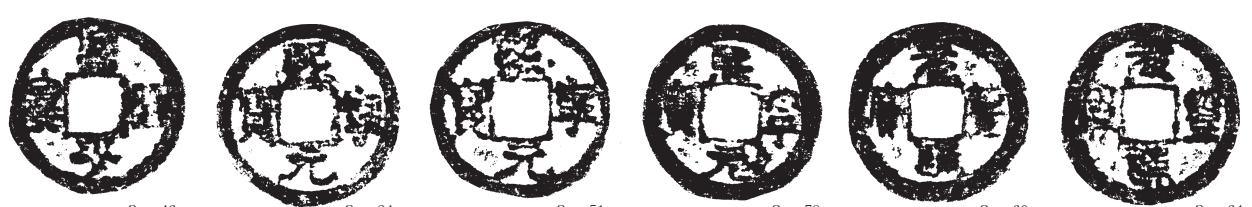
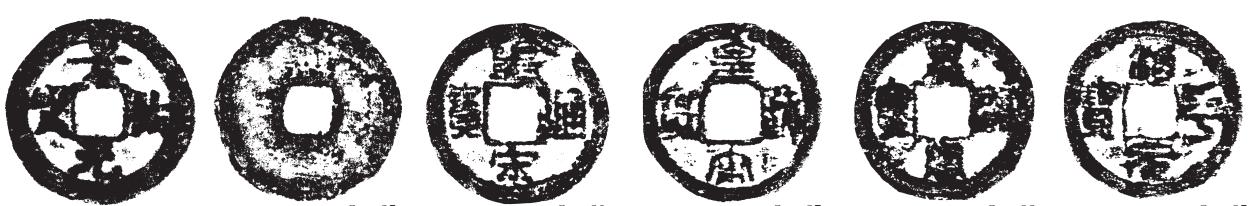
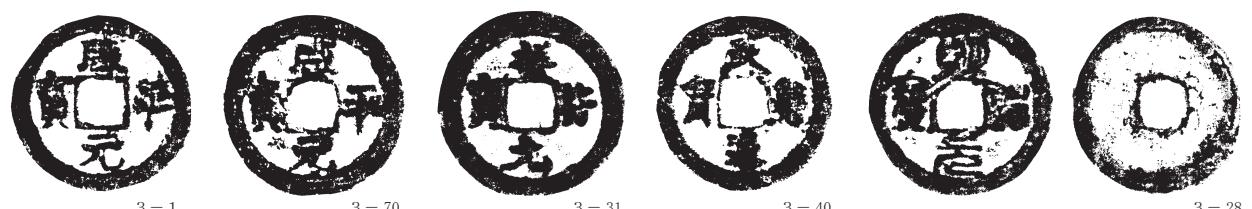
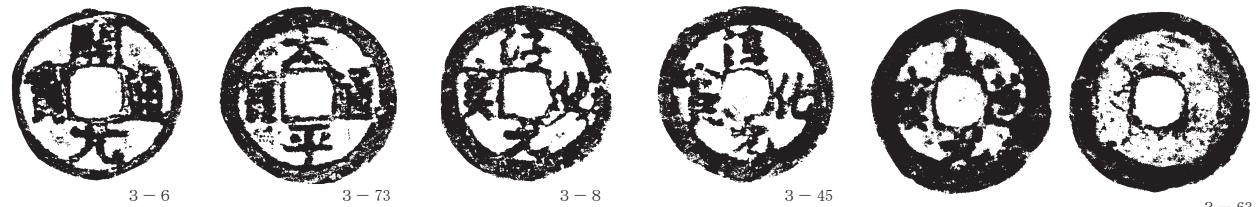
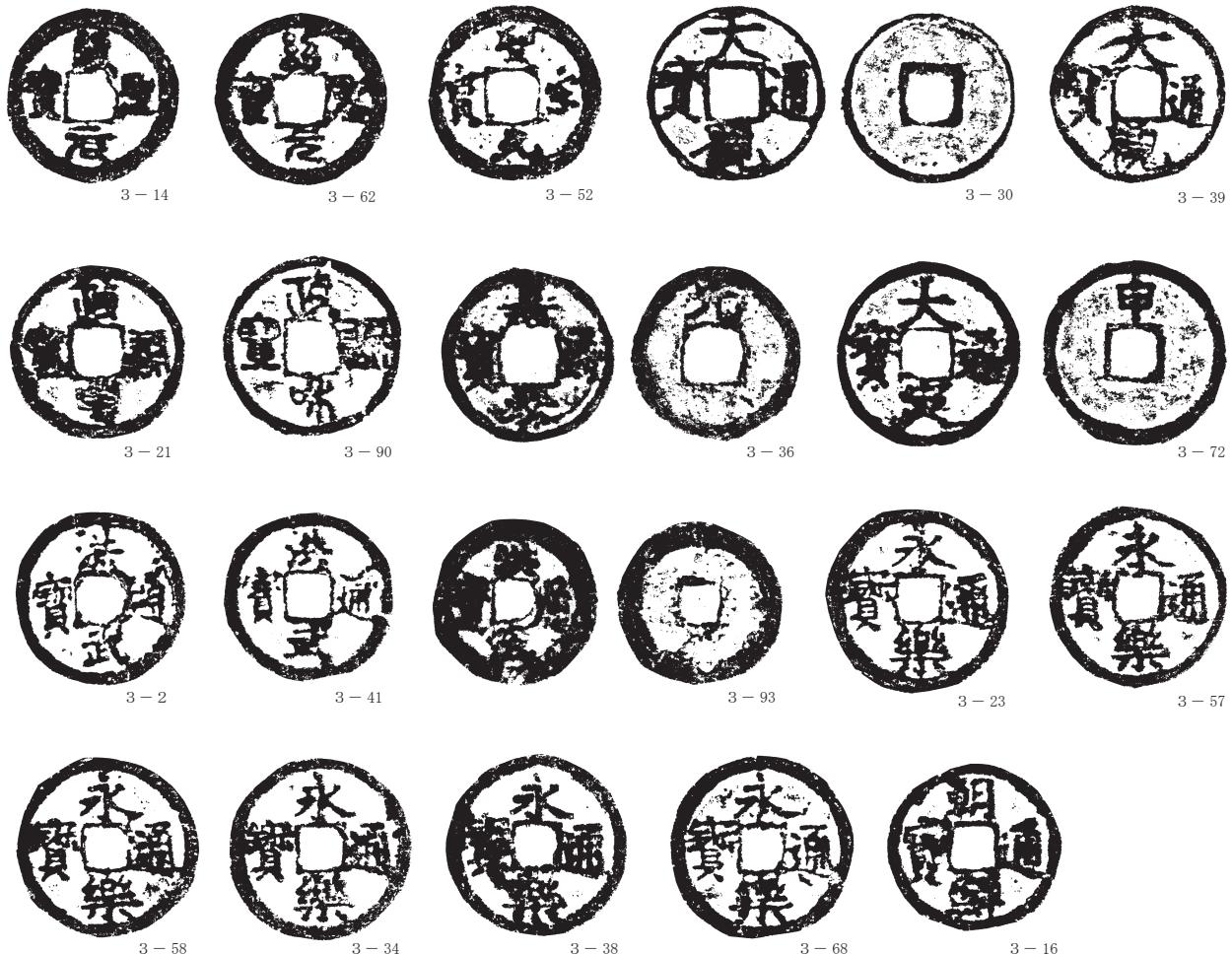


Fig. 29 遺物図 (10) 1号埋納備蓄銭③



#### 縕 4

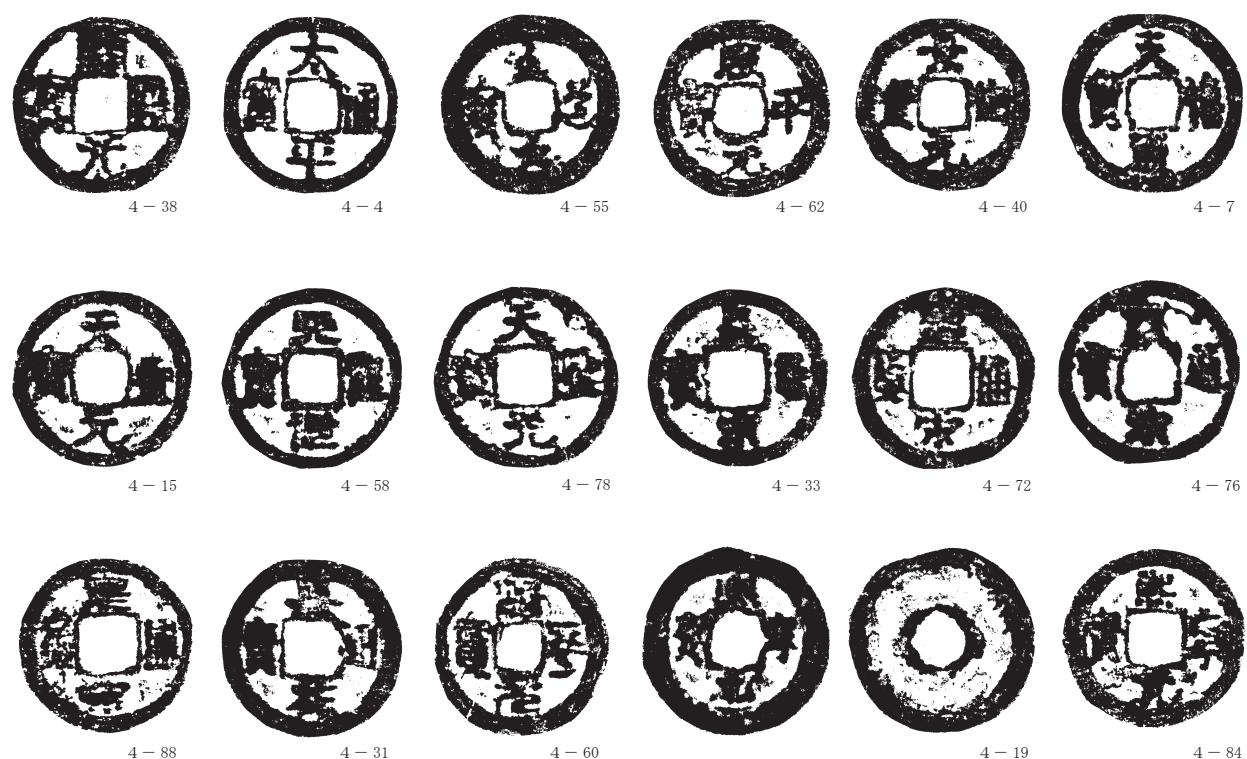
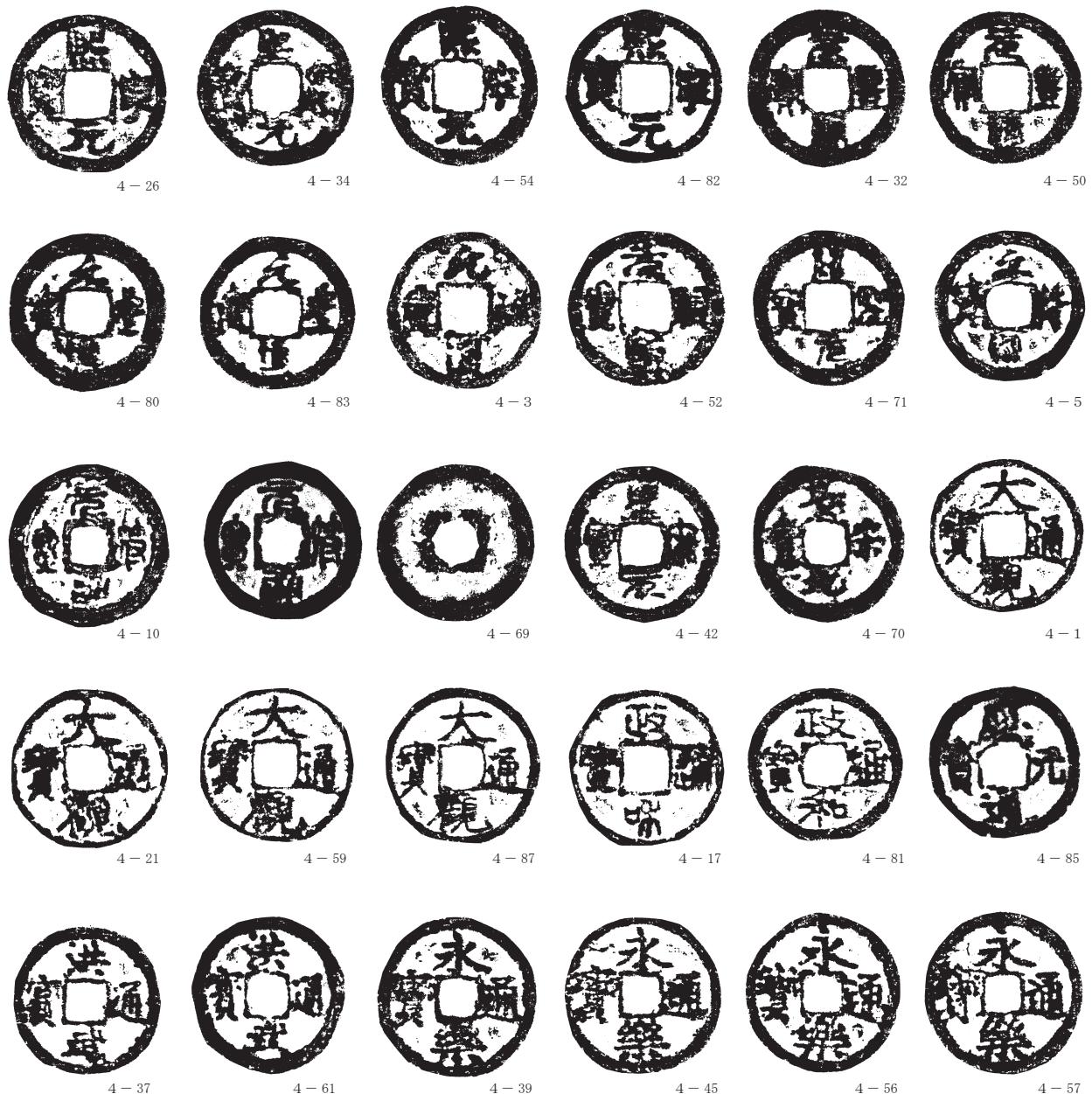


Fig. 30 遺物図 (11) 1号埋納備蓄銭④



##### 緝 5

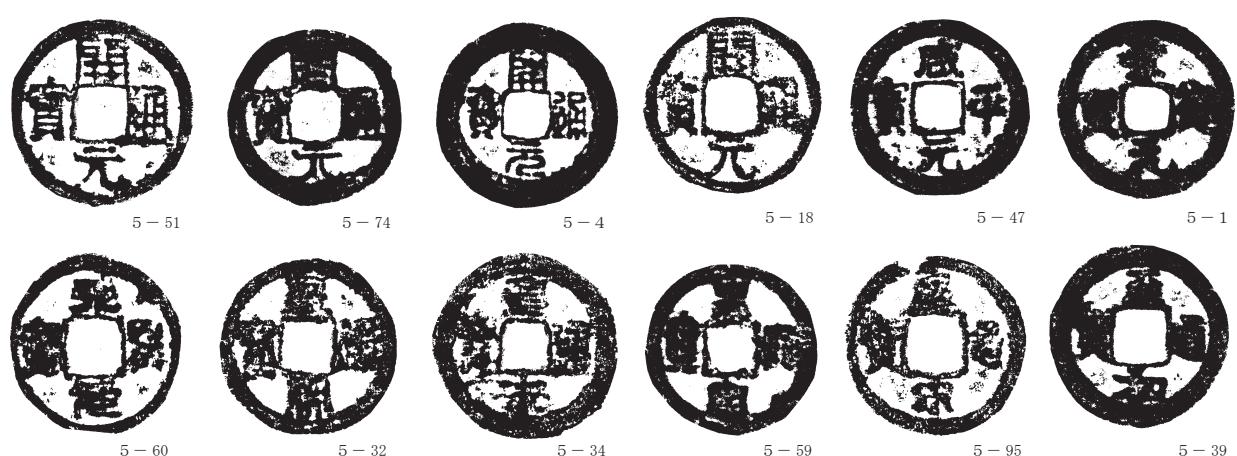
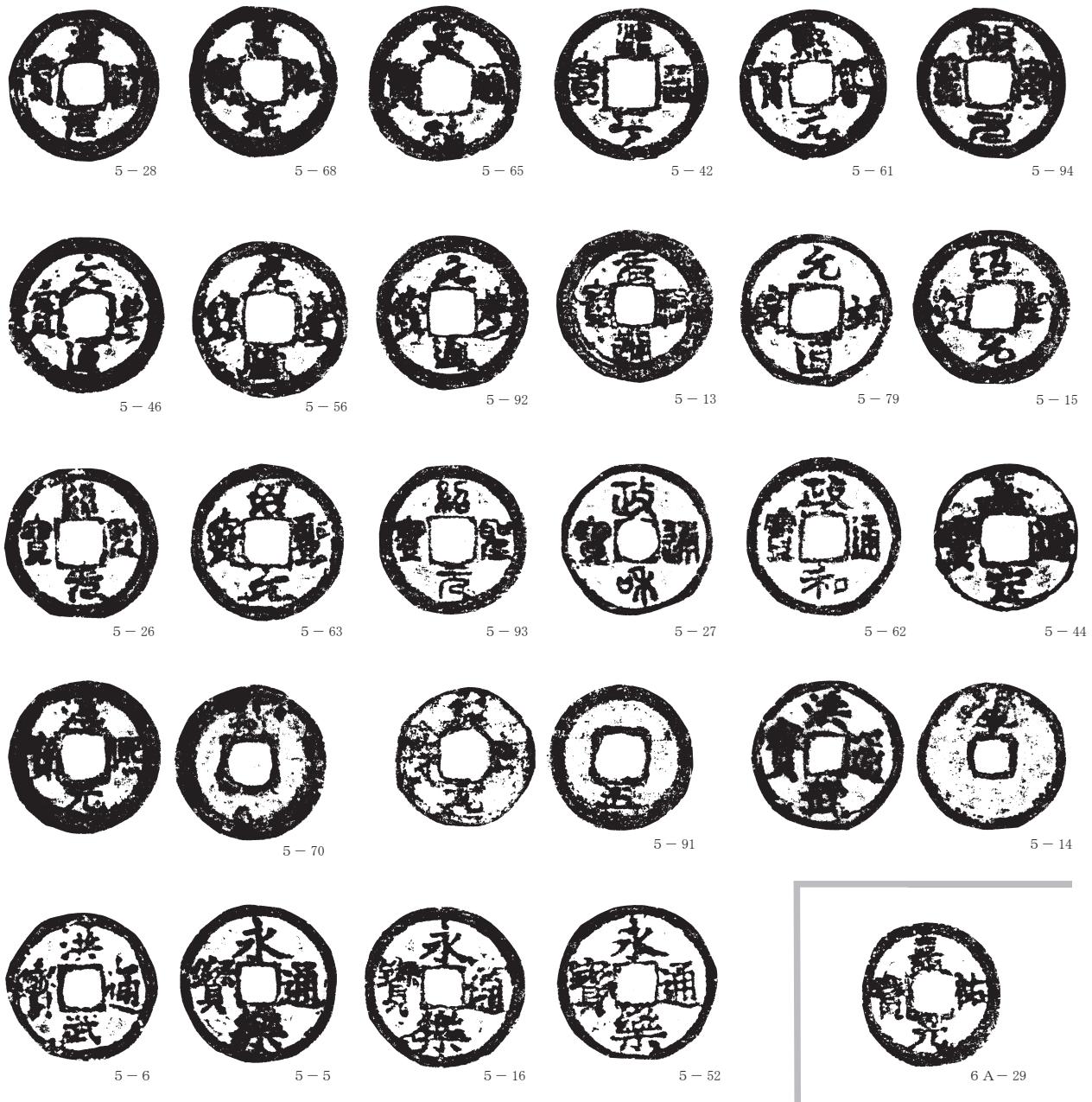


Fig. 31 遺物図 (12) 1号埋納備蓄銭⑤



緒 6

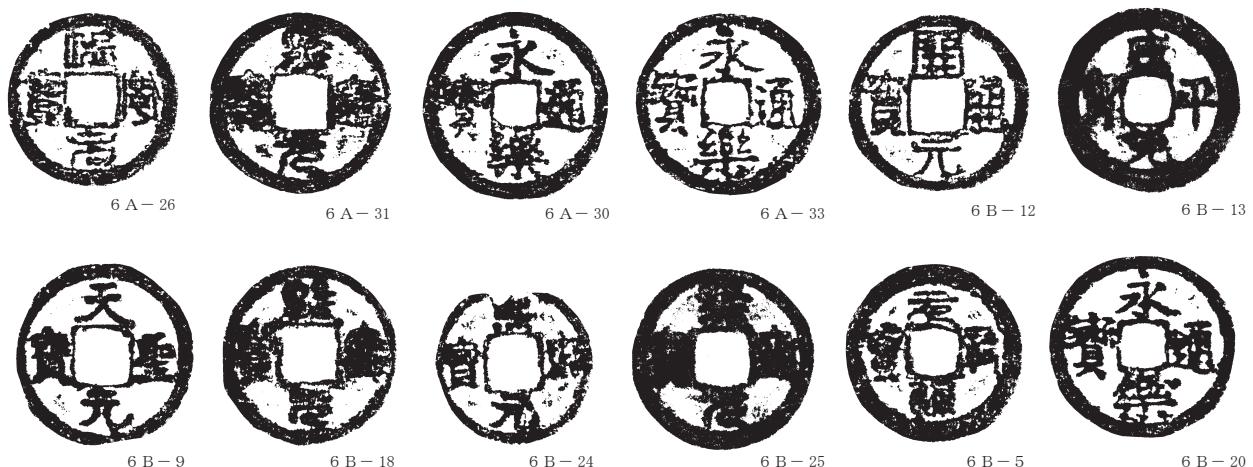


Fig. 32 遺物図 (13) 1号埋納備蓄銭⑥

Tab. 10 埋納備蓄錢一覽表 (1)

緒1	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考											
		錢徑		内径		厚さ														
		縦	横	縦	横															
1	政和通寶	2.46	2.45	2.06	2.02	0.13	3.21			篆書										
2	—	2.36	2.32	1.80	1.77	0.13	3.60													
3	至道元寶	2.48	2.49	1.83	1.81	0.14	4.13			行書										
4	至和元寶	2.38	2.38	2.01	1.99	0.12	2.97			真書										
5	天禧通寶	2.42	2.44	1.92	1.93	0.17	4.47	天下穴	真書											
6	—	2.35	2.35	2.01	2.00	0.10	1.91													
7	元豐通寶	2.39	2.39	1.80	1.74	0.14	3.87			行書										
8	開元通寶	2.32	2.30	2.30	2.03	0.10	2.23			真書										
9	—	2.42	2.42	1.98	2.01	0.16	4.13													
10	元祐通寶	2.47	2.47	1.92	2.00	0.11	2.86			行書										
11	—	2.49	2.50	1.93	2.09	0.12	3.34													
12	咸平元寶	2.50	2.49	1.85	1.83	0.12	3.60			真書										
13	大觀通寶	2.47	2.48	2.11	2.14	0.15	[3.55]			真書 / 穴										
14	(聖宋元寶)	2.39	2.39	1.99	1.98	0.14	3.44			篆書										
15	洪武通寶	2.30	2.28	1.72	1.72	0.16	3.73	背右「一錢」カ	真書											
16	元豐通寶	2.41	2.41	1.91	1.97	0.13	3.75			篆書										
17	元祐通寶	2.53	2.52	2.07	2.05	0.12	3.74			篆書										
18	天禧通寶	2.55	2.54	1.97	2.14	0.11	3.64			真書										
19	紹聖元寶	2.48	2.49	1.90	1.99	0.10	3.41			行書										
20	治平元寶	2.35	2.36	1.92	1.94	0.15	4.12			篆書										
21	熙寧元寶	2.37	2.39	1.97	1.99	0.12	2.68			真書										
22	開元通寶	2.51	2.49	2.03	2.04	0.13	3.36			真書										
23	永樂通寶	2.47	2.47	2.09	2.10	0.16	3.59													
24	開元通寶	2.43	2.40	1.72	1.75	0.12	3.32			篆書										
25	永樂通寶	2.53	2.53	2.09	2.11	0.11	2.93													
26	洪武通寶	2.35	2.36	2.03	2.03	0.16	3.96													
27	永樂通寶	2.53	2.50	2.09	2.09	0.12	3.19													
28	—	2.51	2.50	2.09	2.09	0.11	3.65													
29	元祐通寶	2.42	2.41	2.07	2.04	0.12	3.13			篆書										
30	天聖元寶	2.53	2.51	2.05	2.04	0.15	3.87			篆書										
31	開元通寶	2.50	2.50	2.08	2.08	0.13	3.66			真書										
32	紹聖元寶	2.42	2.41	1.84	1.85	0.16	3.97			真書										
33	皇宋通寶	2.51	2.51	2.22	2.22	0.13	3.31			行書										
34	熙寧元寶	2.33	2.32	2.01	1.98	0.15	3.92			真書										
35	永樂通寶	2.52	2.52	2.08	2.08	0.13	3.52			篆書										
36	永樂通寶	2.55	2.53	2.07	2.06	0.17	3.88													
37	明道元寶	2.50	2.48	2.10	2.13	0.14	3.33			真書										
38	嘉祐通寶	2.38	2.37	2.09	2.07	0.16	4.26			真書										
39	熙寧元寶	2.40	2.39	2.07	2.07	0.13	3.59			真書										
40	天聖元寶	2.47	2.45	2.17	2.11	0.13	3.32			篆書										
41	淳熙元寶	2.42	2.43	2.02	2.02	0.11	2.99			真書										
42	開元通寶	2.51	2.54	2.15	2.14	0.12	2.78			真書										
43	熙寧元寶	2.43	2.42	1.94	1.93	0.14	3.63			真書										
44	元祐通寶	2.46	2.46	1.98	1.94	0.13	3.67			行書										
45	熙寧元寶	2.50	2.50	2.11	2.15	0.12	3.69			真書										
46	皇宋通寶	2.42	2.43	2.00	2.01	0.31	3.36			篆書										
47	元豐通寶	2.52	2.51	1.96	1.94	0.12	4.06			篆書										
48	開元通寶	2.37	2.37	2.04	2.03	0.10	2.38													
49	天聖元寶	2.48	2.48	2.09	2.10	0.12	2.70			篆書										
50	元豐通寶	2.34	2.35	1.89	1.89	0.12	2.95			篆書										
51	政和通寶	2.46	2.45	2.09	2.08	0.13	3.34			隸書										
52	熙寧元寶	2.38	2.35	2.08	2.08	0.13	2.98			真書										
53	開元通寶	2.50	2.51	2.08	2.08	0.14	3.96	背左「月」カ	紀地錢											
54	開元通寶	2.49	2.48	2.13	2.11	0.13	3.45													
55	(元祐通寶)	2.42	2.42	2.06	2.04	0.14	[3.91]			行書 / 欠										
56	元豐通寶	2.43	2.44	1.95	1.98	0.13	3.56			篆書										
57	政和通寶	2.44	2.47	2.03	2.04	0.14	2.97			隸書										
58	洪武通寶	2.29	2.28	1.96	1.95	0.14	2.98	郭星形												
59	皇宋通寶	2.38	2.36	1.95	1.91	0.11	2.74			真書										
60	咸平元寶	2.33	2.36	1.87	1.87	0.16	3.97			篆書										
61	洪武通寶	2.34	2.34	1.94	1.97	0.17	3.26													
62	洪武通寶	2.40	2.40	2.00	1.97	0.15	3.84													
63	(聖宋元寶)	2.38	2.36	1.89	1.85	0.14	2.88			真書										
64	元豐通寶	2.43	2.43	1.83	1.94	0.15	3.68			行書										
65	咸平元寶	2.48	2.46	1.98	1.95	0.14	3.85			真書										
66	政和通寶	2.48	2.46	2.19	2.15	0.15	3.62			隸書										
67	景德元寶	2.47	2.47	1.94	1.93	0.13	3.66			真書										
68	—	2.32	2.32	1.85	1.83	0.13	3.31													
69	紹聖元寶	2.43	2.44	1.92	1.93	0.15	3.67			行書										
70	政和通寶	2.51	2.49	2.06	2.05	0.16	3.76			篆書										
71	政和通寶	2.48	2.49	2.16	2.20	0.15	4.22			隸書										
72	元豐通寶	2.41	2.39	1.98	1.96	0.12	3.48			篆書										
73	皇宋通寶	2.42	2.42	1.79	1.78	0.10	3.06			篆書										
74	皇宋通寶	2.46	2.47	2.03	2.10	0.13	3.39			真書										

緒1	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考										
		錢徑		内径		厚さ	重さ												
		縦	横	縦	横														
75	熙寧元寶	2.48	2.48	2.05	2.07	0.12	3.76			真書									
76	景定元寶	2.43	2.39	2.03	2.03	0.12	3.24	背上「五」		真書									
77	紹聖元寶	2.40	2.37	1.88	1.95	0.12	4.01			行書									
78	皇宋通寶	2.45	2.48	2.05	2.07	0.14	3.79			真書									
79	天聖元寶	2.50	2.49	2.09	2.09	0.18	4.96			真書									
80	(天聖元寶)	2.37	2.39	1.92	1.92	0.16	3.72			篆書									
81	(紹聖元寶)	2.37	2.37	1.87	1.85	0.13	3.79			篆書									
82	元豐通寶	2.46	2.45	1.95	1.95	0.11	[2.69]			篆書 / 穿孔									
83	政和通寶	2.39	2.42	2.08	2.11	0.10	[2.28]			篆書 / 欠									
84	—	2.46	2.47	2.06	2.07	0.13	3.08												
85	開元通寶	2.42	2.42	1.93	1.93	0.15	4.21												
86	元豐通寶	2.51	2.49	1.95	1.90	0.15	4.56			篆書									
87	元豐通寶	2.47	2.48	1.89	1.91	0.12	3.99			行書									
88	紹聖元寶	2.40	2.40	1.89	1.89	0.15	4.50			行書									
89	熙寧元寶	2.50	[2.51]	1.90	[2.01]	0.17	[3.59]	</											

Tab. 11 埋納備蓄錢一覽表（2）

緒2	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考	緒3	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考							
		錢徑		内徑		厚さ	重さ					錢徑		内徑		厚さ	重さ									
		縦	横	縦	横							縦	横	縦	横											
48	元豐通寶	2.41	2.42	1.94	1.97	0.14	3.86			行書	21	政和通寶	2.43	2.43	2.03	2.06	0.12	3.29			隸書					
49	紹聖元寶	2.40	2.40	1.81	1.85	0.13	3.78			行書	22	熙寧元寶	2.47	2.48	1.98	2.06	0.13	3.14			篆書					
50	永樂通寶	2.48	2.47	2.06	2.09	0.16	3.55				23	永樂通寶	2.54	2.51	2.02	2.05	0.13	3.35								
51	元豐通寶	2.52	2.49	1.78	1.78	0.13	4.61			篆書	24	熙寧元寶	2.50	2.51	2.03	2.01	0.18	3.88			真書					
52	元祐通寶	2.42	2.44	1.97	2.00	0.13	3.63			行書	25	景祐元寶	2.52	2.52	1.84	1.85	0.11	3.56			真書					
53	開元通寶	2.49	2.49	2.06	2.08	0.13	3.49				26	淳化元寶	2.45	2.46	1.77	1.78	0.10	3.29			真書					
54	元豐通寶	2.50	2.50	2.10	2.14	0.14	3.73			行書	27	元祐通寶	2.50	2.48	1.88	1.93	0.12	3.84			篆書					
55	元祐通寶	2.44	2.45	2.04	2.03	0.13	3.41			篆書	28	明道元寶	2.50	2.49	1.94	1.97	0.13	3.72			篆書					
56	治平元寶	2.47	2.45	1.90	1.90	0.14	3.78			真書	29	元祐通寶	2.38	2.38	1.91	1.89	0.11	2.92			行書					
57	政和通寶	2.43	2.45	2.05	2.10	0.14	3.45			篆書	30	(元祐通寶)	2.38	2.35	1.82	1.81	0.16	3.87			行書					
58	開元通寶	2.42	2.40	1.93	1.96	0.12	3.42				31	祥符元寶	2.53	2.54	1.90	1.92	0.13	4.36			真書					
59	元豐通寶	2.47	2.46	1.86	1.87	0.14	3.68			篆書	32	景德元寶	2.51	2.48	1.87	1.87	0.13	3.07			真書					
60	元豐通寶	2.35	2.35	1.87	1.88	0.14	3.40			行書	33	天聖元寶	2.51	2.49	1.94	1.94	0.13	3.69			篆書					
61	元祐通寶	2.37	2.36	1.84	1.84	0.12	3.02			行書	34	永樂通寶	2.50	2.50	2.08	2.05	0.17	3.80								
62	開元通寶	2.45	2.44	2.09	2.07	0.13	2.81				35	開元通寶	2.42	2.43	1.97	2.01	0.13	3.24								
63	景定元寶	2.38	2.37	2.02	2.01	0.10	2.60			真書	36	嘉泰通寶	2.39	2.39	1.97	1.97	0.11	3.38	背上「元」力							
64	元豐通寶	2.43	2.42	1.86	1.97	0.15	3.81			篆書	37	聖宋元寶	2.35	2.37	1.90	1.89	0.15	4.13			篆書					
65	永樂通寶	2.51	2.51	2.08	2.07	0.13	3.06				38	永樂通寶	2.51	2.52	2.08	2.05	0.15	3.90								
66	熙寧元寶	2.37	2.39	2.02	2.02	0.12	2.62			篆書	39	大觀通寶	2.45	2.45	2.06	2.03	0.15	4.07								
67	政和通寶	2.53	2.53	2.06	2.06	0.13	3.73			篆書	40	天禧通寶	2.44	2.43	1.79	1.79	0.13	3.60			真書					
68	至道元寶	2.45	2.44	1.85	1.85	0.14	3.92			篆書	41	洪武通寶	2.41	2.45	1.87	1.86	0.13	3.47								
69	元符通寶	2.40	2.39	1.86	1.86	0.15	3.54			行書	42	皇宋通寶	2.41	2.35	1.95	1.96	0.15	3.66			真書					
70	元豐通寶	2.48	2.45	1.86	1.83	0.13	3.66			篆書	43	永樂通寶	2.50	2.49	2.04	2.04	0.15	3.93								
71	元豐通寶	2.48	2.47	2.03	1.95	0.11	3.81			行書	44	嘉祐元寶	2.38	2.36	1.87	1.82	0.13	3.66			真書					
72	永樂通寶	2.50	2.48	2.07	2.02	0.14	3.43				45	淳化元寶	2.39	2.42	1.70	1.72	0.11	2.98			行書					
73	熙寧元寶	2.44	2.44	2.02	2.03	0.12	3.21			篆書	46	治平通寶	2.42	2.43	1.92	1.89	0.13	3.64			篆書					
74	景德元寶	2.49	2.48	1.90	1.87	0.10	2.86			真書	47	祥符通寶	2.49	2.49	1.92	1.90	0.13	3.64								
75	永樂通寶	2.54	2.54	2.05	2.05	0.17	4.02				48	皇宋通寶	2.41	2.41	1.81	1.80	0.12	3.03			真書					
76	—	2.39	2.39	1.99	1.99	0.11	2.94				49	(元符)通寶	2.48	2.47	1.97	1.95	0.15	3.55			篆書					
77	紹定通寶	2.40	2.38	1.95	1.95	0.11	2.80			真書	50	元祐通寶	2.36	2.39	1.83	1.83	0.12	3.16			篆書					
78	淳化元寶	2.26	2.24	1.76	1.77	0.14	3.06			真書	51	熙寧元寶	2.40	2.45	1.99	1.97	0.13	3.73			真書					
79	祥符通寶	2.23	2.21	1.91	1.88	0.13	2.61			真書	52	聖宋元寶	2.42	2.43	1.86	1.85	0.13	3.54			行書					
80	嘉祐元寶	2.34	2.34	1.82	1.80	0.15	3.94			真書	53	(元豐通寶)	2.48	2.45	1.81	1.88	0.11	3.22			隸書					
81	永樂通寶	2.49	2.47	2.09	2.03	0.14	3.13				54	洪武通寶	2.30	2.32	1.81	1.81	0.18	3.82								
82	洪武通寶	2.43	2.45	2.00	2.01	0.14	3.09				55	—	2.40	2.42	1.90	1.90	0.12	3.10								
83	淳熙元寶	2.37	2.38	1.80	1.77	0.14	3.73	背上「月」力		真書	56	永樂通寶	2.51	2.50	2.06	2.02	0.15	3.69								
84	元祐通寶	2.45	2.44	1.86	1.84	0.10	2.88			行書	57	永樂通寶	2.49	2.43	2.06	2.01	0.17	3.74								
85	治平元寶	2.45	2.45	1.90	1.91	0.14	3.95			真書	58	永樂通寶	2.50	2.51	2.05	2.04	0.14	3.96								
86	天禧通寶	2.45	2.46	1.88	1.86	0.14	4.43			真書	59	皇宋通寶	2.44	2.42	1.87	1.85	0.10	2.58			真書					
87	熙寧元寶	2.49	2.50	1.97	1.96	0.17	4.65			篆書	60	元豐通寶	2.47	2.48	1.83	1.82	0.11	3.83			篆書					
88	皇宋通寶	2.48	2.49	1.73	1.82	0.11	3.43			篆書	61	元豐通寶	2.46	2.45	1.88	1.78	0.12	3.47			篆書					
89	天聖元寶	2.47	2.47	1.97	2.00	0.14	3.75			篆書	62	紹聖元寶	2.40	2.39	1.81	1.84	0.14	3.40			篆書					
90	至道元寶	2.46	2.47	1.81	1.82	0.11	3.19			篆書	63	至道元寶	2.45	2.45	1.67	1.66	0.12	3.53	判読不能		草書					
91	元豐通寶	2.42	2.43	1.83	1.88	0.14	3.58			行書	64	元豐通寶	2.54	2.51	1.94	1.95	0.12	3.82			篆書					
92	天聖元寶	2.51	2.51	2.03	2.02	0.12	3.68			真書	65	嘉祐元寶	2.39	2.38	1.90	1.88	0.15	4.08			真書					
93	—	2.39	2.40	—	—	0.13	3.34				66	皇宋通寶	2.45	2.46	1.76	1.78	0.11	3.30			真書					
94	景定元寶	2.38	2.39	—	—	0.12	3.03			真書	67	永樂通寶	2.50	2.50	2.04	2.08	0.13	3.77								
95	元豐通寶	2.39	2.38	1.90	1.81	0.16	3.98			篆書	68	永樂通寶	2.53	2.53	2.08	2.06	0.17	3.92								
96	紹聖元寶	2.47	2.47	1.82	1.84	0.13	[3.56]			行書	69	嘉祐元寶	2.48	2.48	1.87	1.90	0.13	3.70	郭星形	篆書						
97	洪武通寶	2.41	2.41	2.08	2.05	0.19	3.84				70	咸平元寶	2.47	2.47	1.83	1.82	0.14	3.82			真書					
											71	嘉祐元寶	2.37	2.36	1.74	1.74	0.13	3.26			真書					
											72	大定通寶	2.53	2.53	2.16	2.13	0.15	3.40	背上「申」							
											73	太平通寶	2.44	2.42	1.80	1.81	0.11	3.30								
											74	洪武通寶	2.36	2.34	1.97	2.00	0.19	3.87								
											75	永樂通寶	2.50	2.49	2.11	2.00	0.17	4.15								
											76	咸平通寶	2.46	2.46	1.81	1.81	0.12	3.62			真書					
											77	元祐通寶	2.42	2.42	1.92	1.92	0.13	3.42			篆書					
											78	元豐通寶	2.48	2.49	1.95	1.92	0.14	3.93			篆書					
											79	熙寧元寶	2.47	2.46	1.89	1.87	0.12	3.96			真書					
											80	元豐通寶	2.42	2.42	1.87	1.83	0.14	4.05	</td							

Tab. 12 埋納備蓄錢一覽表 (3)

緒3	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考			
		錢徑		内徑		厚さ						
		縦	横	縦	横							
95	紹聖元寶	2.40	2.39	1.86	1.82	0.14	3.90		行書			
96	永樂通寶	2.46	2.48	2.06	2.04	0.16	4.36					
97	熙寧元寶	2.44	2.44	1.97	2.00	0.11	3.23		真書			

緒4	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考			
		錢徑		内徑		厚さ						
		縦	横	縦	横							
1	大觀通寶	2.40	2.37	2.05	2.01	0.12	2.90					
2	(元祐通寶)	2.38	2.37	1.90	1.90	0.12	3.68		行書			
3	元祐通寶	2.47	2.46	1.98	1.96	0.14	3.73		行書			
4	太平通寶	2.44	2.42	1.97	1.96	0.12	3.15					
5	元符通寶	2.39	2.35	1.85	1.85	0.14	3.71		行書			
6	永樂通寶	2.43	2.46	2.05	2.08	0.12	[2.24]		欠			
7	天祐通寶	2.43	2.45	1.92	1.95	0.14	4.11		真書			
8	皇宋通寶	2.48	2.49	2.06	2.05	0.12	[3.08]		真書 / 穴			
9	開元通寶	2.45	2.46	2.12	2.10	0.12	2.98		真書			
10	元祐通寶	2.54	2.53	1.93	1.95	0.10	3.25		篆書			
11	(紹聖元寶)	2.39	2.39	1.79	1.87	0.13	3.49		篆書			
12	熙寧元寶	2.46	2.44	1.95	1.96	0.10	3.02		真書			
13	元豐通寶	2.41	2.39	1.85	1.83	0.14	3.67		篆書			
14	洪武通寶	2.12	2.11	1.61	1.61	0.15	3.28					
15	天聖元寶	2.45	2.48	1.97	1.99	0.15	4.00		真書			
16	(熙寧元寶)	2.35	2.34	1.81	1.82	0.13	3.50		真書			
17	政和元寶	2.41	2.43	2.12	2.12	0.13	2.73		篆書			
18	—	2.45	2.45	2.01	2.00	0.11	3.16					
19	熙寧元寶	2.50	2.51	1.82	1.85	0.12	3.74	郭星形	真書			
20	天聖元寶	2.47	2.47	2.09	2.09	0.14	2.76		篆書			
21	大觀通寶	2.51	2.47	2.16	2.17	0.16	3.74					
22	元祐通寶	2.47	2.45	1.93	1.99	0.11	3.34		篆書			
23	(皇宋通寶)	2.45	2.46	1.93	1.95	0.13	3.76		篆書			
24	元祐通寶	2.40	2.39	1.95	1.92	0.13	3.37		篆書			
25	元豐通寶	2.38	2.38	1.87	1.91	0.14	3.83		篆書			
26	熙寧元寶	2.49	2.50	1.97	1.99	0.10	3.36		真書			
27	皇宋通寶	2.49	2.49	2.03	2.05	0.12	2.94		真書			
28	永樂通寶	2.47	2.47	2.02	2.04	0.13	3.37					
29	熙寧元寶	2.38	2.38	1.82	1.83	0.14	3.51		篆書			
30	天祐通寶	2.51	2.54	1.96	2.01	0.11	3.44		真書			
31	嘉祐通寶	2.45	2.44	1.91	1.89	0.12	3.50		真書			
32	元豐通寶	2.49	2.47	1.84	1.83	0.11	2.96		篆書			
33	皇宋通寶	2.47	2.47	1.95	1.97	0.12	3.57		真書			
34	熙寧元寶	2.44	2.45	1.86	1.91	0.12	3.69		真書			
35	(嘉祐元寶)	2.37	2.37	1.79	1.80	0.12	2.95		篆書			
36	(皇宋通寶)	2.44	2.44	1.95	1.88	0.13	3.55		篆書			
37	洪武通寶	2.31	2.30	1.86	1.85	0.17	3.71		真書			
38	開元通寶	2.46	2.47	1.97	1.95	0.12	2.90		真書			
39	永樂通寶	2.48	2.47	2.06	2.02	0.14	3.91					
40	景德元寶	2.42	2.42	1.76	1.79	0.12	3.00		真書			
41	天聖元寶	2.47	2.47	1.94	1.91	0.14	3.91		篆書			
42	聖宋元寶	2.41	2.43	1.89	1.87	0.11	2.76		篆書			
43	—	2.49	2.45	1.87	1.82	0.11	[3.98]	郭星形	欠			
44	大觀通寶	2.48	2.53	2.17	2.19	0.14	3.47					
45	永樂通寶	2.48	2.49	2.08	2.09	0.14	3.82					
46	皇宋通寶	2.33	2.33	1.75	1.78	0.11	3.08		真書			
47	(聖宋元寶)	2.45	2.44	1.96	1.93	0.11	2.93		真書			
48	—	2.38	2.41	1.94	1.98	0.10	3.06		真書			
49	(聖宋元寶)	2.39	2.42	1.81	1.82	0.14	3.37		真書			
50	元豐通寶	2.38	2.37	1.83	1.87	0.13	3.71		篆書			
51	聖宋元寶	2.46	2.48	1.75	1.84	0.12	3.60		真書			
52	元祐通寶	2.41	2.41	1.91	1.92	0.13	3.77		篆書			
53	天聖元寶	2.50	2.48	2.07	2.03	0.11	3.63		真書			
54	熙寧元寶	2.48	2.47	1.92	2.00	0.13	3.45		真書			
55	至道元寶	2.43	2.44	1.75	1.76	0.11	3.16		篆書			
56	永樂通寶	2.46	2.47	2.04	1.98	0.14	3.37					
57	永樂通寶	2.52	2.49	2.01	2.01	0.13	3.66					
58	天聖元寶	2.46	2.45	2.04	2.04	0.12	3.70		篆書			
59	大觀通寶	2.45	2.43	2.16	2.15	0.15	3.65					
60	治平元寶	2.39	2.39	1.85	1.83	0.14	3.82		篆書			
61	洪武通寶	2.38	2.37	1.92	1.88	0.17	4.29		真書			
62	咸平元寶	2.47	2.48	1.94	1.84	0.14	3.55					
63	洪武通寶	2.34	2.31	1.96	1.93	0.20	4.22					
64	大觀通寶	2.49	2.51	2.12	2.14	0.14	3.66					
65	熙寧元寶	2.41	2.42	1.91	1.99	0.11	3.41		真書			
66	天聖元寶	2.37	2.38	1.82	1.79	0.13	3.82		真書			
67	開元通寶	2.35	2.35	1.91	1.92	0.12	3.31					

緒5	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考			
		錢徑		内徑		厚さ						
		縦	横	縦	横							
68	皇宋通寶	2.38	2.37	1.80	1.83	0.11	2.78		真書			
69	元符通寶	2.48	2.46	1.88	1.93	0.13	3.50	郭星形	篆書			
70	聖宋元寶	2.44	2.42	1.95	1.91	0.11	2.79		行書			
71	紹聖元寶	2.43	2.42	1.80	1.83	0.12	3.82		篆書			
72	皇宋通寶	2.49	2.48	1.89	1.96	0.13	3.68		真書			
73	元豐通寶	2.49	2.51	1.89	1.90	0.15	4.63		行書			
74	景祐元寶	2.46	2.47	1.93	1.99	0.12	3.01		真書			
75	元祐通寶	2.45	2.46	1.92	1.97	0.14	4.28		篆書			
76	皇宋通寶	2.52	2.47	1.94	1.97	0.14	4.35		真書			
77	嘉祐元寶	2.36	2.37	1.75	1.75	0.13	3.38		篆書			
78	天聖元寶	2.50	2.50	2.05	2.03	0.11	3.01		真書			
79	(景德元寶)	2.43	2.42	1.78	1.74	0.10	2.54		真書			
80	元豐通寶	2.51	2.51	1.76	1.76	0.12	3.41		行書 / 潤線			
81	政和通寶	2.40	2.40	1.97	1.95	0.10	2.29		隸書			
82	熙寧元寶	2.42	2.43	1.97	1.96	0.12	3.49		真書			
83	元豐通寶	2.44	2.43	1.87	1.83	0.12	3.45		行書			
84	熙寧元寶	2.45	2.48	1.89	1.88	0.12	3.38		真書			
85	(慶)元通寶	2.39	2.39	1.95	1.94	0.14	3.08					
86	天(聖)元寶	2.44	2.44	1.88	1.87	0.12	2.88		真書			
87	大觀通寶	2.43	2.44	2.09	2.09	0.13	3.38					
88	皇宋通寶	2.42	2.43	1.91	1.90	0.12	3.15		真書			

緒5	錢貨名	法量 (cm / g)					背文	加工	書体 / 備考			
		錢徑		内徑		厚さ						
		縦	横	縦	横							
1	景德元寶	2.43	2.44	1.87	1.84	0.15	3.48		真書			
2	—	2.41	2.45	1.87	—	0.13	3.40					
3	咸平元寶	2.39	2.45	1.77	1.83	0.11	3.25		真書			
4	開元通寶	2.49	2.49	1.72	1.73	0.12	3.10		篆書			
5	永樂通寶	2.46	2.46	2.06	2.08	0.15	3.92					
6	洪武通寶	2.29	2.31	1.87	1.87	0.16	3.91					
7	嘉祐通寶	2.40	2.41	1.95	2.01	0.14	3.31		真書			
8	—	2.49	2.46	2.01	2.00	0.15	3.79					
9												

Tab. 13 埋納備蓄錢一覽表 (4)

## VI　まとめ

今回の調査では面積こそ狭いながら、当初の予想をはるかに上回る多種多様な遺構と遺物が確認された。集落や遺跡の変遷を総括し、中世屋敷跡に伴う掘立柱建物跡の補説と埋納備蓄銭の分析を行い、まとめとしたい。

### 1. 古墳時代以降の耕地と古代の集落 (Fig 5・6)

大渡道場遺跡で明確な土地利用が認められるのは、Hr - FA 直下（6世紀初頭）の1号水田跡からである。諸般の事情から植物珪酸体分析はできず、畦畔も1条の縦アゼしか検出できなかつたため、水田区画等は不明である。水田と隣接する1号畠跡は、Hr - FA 降下後しばらく経つてから耕作が始まるが、興味深いことに、水田跡と判断した区域では畠跡の痕跡が捉えられず、両者の間には明瞭な棲み分けが認められる。よって、畠は水田と同時期以降、継続して営まれていた可能性もある。畠跡出土遺物も、このことを示唆している。おそらく、わずかな比高差で水田（＝低湿地）と畠地（＝微高地）に区分されるのであろう。畠耕作の終了時期は不明ながら、古代の集落が営まれるまでには、一定の空白期間を想定することも可能であろう。

概ね10世紀代に捉えられる古代の集落は、W-8・13号溝およびW-11号溝によって区画されている。流水を想定できるW-1・2号溝も、同様の時期であろうか。集落に先行するW-9・10・12溝は9世紀後半代と推測する。ただし、W-12溝については豊穴の可能性が残る。近隣の元総社地区では、国府域周縁部において10～11世紀代の大幅な住居数増加と集落の拡大が判明しており、本遺跡もこうした現象の末端に位置する。

### 2. 中世の屋敷跡と墓域 (Fig 6・12・33・34・35、Tab. 2・3・4)

全体像は掴めないが、調査区は屋敷の主要部分に該当する。22棟の掘立柱建物跡を想定し、新旧関係や主軸方位の異同等を基に大別8期・17小期を設定し、変遷案を提示した。紙幅の都合から、概説に留める。

1a期をB3建物（43.2m<sup>2</sup>）、1b期を小規模で付属屋的なB4（9.9m<sup>2</sup>）・B5建物（12.2m<sup>2</sup>）とした。他に主軸が近似する遺構がなく、最初期に位置づけた。2期には屋敷の基本形が成立する。3条の溝と3棟の建物が対応する。溝による囲郭は不明である。2a期…東面庇のB6建物（37.3m<sup>2</sup> / 身舎23.7m<sup>2</sup>）とW4溝。2b期…B21建物（26.7m<sup>2</sup>）とW3溝。2c期…東面張出のB7建物（30.1m<sup>2</sup> / 身舎17.5m<sup>2</sup>）とW7溝。3a・b期は屋敷構造の転換期にあたる。東西方向のW6溝（P287は残欠と推定）によって屋敷地は南北に分割される。北側では主屋が総柱構造となり、土坑群と地下式坑の構築も始まる。3a期…土坑群（埋戻し覆土のD9～13土坑）と地下式坑を囲むように、B1建物（31.1m<sup>2</sup> / 身舎29.8m<sup>2</sup>）とB2建物（梁行2間以上の総柱状建物24.9m<sup>2</sup>～）およびB8建物（12.7m<sup>2</sup>）が配置される。W6溝の南側にはB22建物（22.2m<sup>2</sup> / 身舎15.1m<sup>2</sup>）がある。3b期…北側ではD2～7・14土坑（埋戻し覆土）とD22・23土坑（砂質覆土）が集中的に構築される。D2・4・14土坑は、W14溝・P251・P252のような小溝で区画される。南側には浅いD16～20土坑とT3豊穴・火葬跡が分布し、様相が全く異なる。4期以降は南北の屋敷地が統合され、W5溝で囲郭された新たな屋敷地が出現し、大きな画期となる。W5溝南端部に土壘状痕跡を認定した場合、調査区外西側の方が上位空間となろう。4期はやや大型の総柱建物が構築される。新たな屋敷地にも拘わらず、建物群はW6溝の北側に進出しない。墓域を画する境界として、W6溝は残存していた可能性を考慮する。建物構造からは、4a・b期と4c・d期の間に小画期が認められる。4a期…3間×4間+西面庇のB9建物（66.1m<sup>2</sup> / 身舎54.8m<sup>2</sup>）。埋納備蓄銭は15世紀第2四半期～中葉と仮定し、3a期～4a期と関連付けた。4b期…北面庇のB10建物（45m<sup>2</sup> / 身舎35.1m<sup>2</sup>）。4c期…東西棟の2間×4間以上のB11建物（32m<sup>2</sup>～）。4d期…2間×2間以上のB12建物（23m<sup>2</sup>～）。5期の2棟は付属建物と判断する。主屋は調査区外であろう。火葬墓は5期以降と推測する。5a期…1間×3間に東面庇のB13建物（19m<sup>2</sup> / 身舎14.4m<sup>2</sup>）。5b期…南北軸のB14建物（23m<sup>2</sup> / 13.6m<sup>2</sup>）。6期…やや複雑な構造の主屋・B15建物（45.5m<sup>2</sup>～）と付属屋のB16建物（推定20m<sup>2</sup>）。I1井戸の掘削以降、W5溝は痕

跡的な残存と推測する。7期以降は東面に張出を伴う側柱建物の時期である。7a期…B19建物(48m<sup>2</sup>/身舎34.8m<sup>2</sup>)。7b期…B18建物(46.7m<sup>2</sup>/身舎36.9m<sup>2</sup>)。8期…B17建物(37.5m<sup>2</sup>/身舎34.2m<sup>2</sup>)とB20建物(14.2m<sup>2</sup>)。主屋面積は7a期のB19建物から約10m<sup>2</sup>縮小し、廃絶に向かうようである。新旧関係は、B5建物→B7建物→B8建物、B22建物→B9建物→B10・11建物、B9建物→B18建物、B13建物→B14建物→B19建物、B16建物→B20建物が判明している。それ以外については直接的新旧関係は不明であり、建物の構造・形状・規格・主軸等の異同や、他遺構との全体的配置状況から推定した。

要約すると、1期(発生)→2期(屋敷成立)→3a・b期(構造変化=屋敷地分割+墓域複合+建物様式変化)→4期(変革期=囲郭溝整備+屋敷地統合+主屋大型化)→5期(主屋移動)→6期(主屋回帰・建物構造複雑化)→7期(継続発展期)→8期(終息)となる。特に2期→3期、3期→4期の変動は大きい。個別建物や屋敷地自体の性格・機能も変化し、一度は分割された屋敷地が、北側の集団を主体として再統合されるものと推測する。屋敷存続期間は、14世紀末(あるいは15世紀初頭)～16世紀代と想定する。変遷案には多くの推測部分を含み、特に4期の総柱建物群は性格の理解が難しい。詳細な再分析や周縁部の調査が進めば、建物自体の大幅な修正も予測される。ご叱正を乞うとともに、今後の調査研究によって大渡道場遺跡の実態解明が進むことを期待したい。



Fig. 33 屋敷跡変遷想定図①

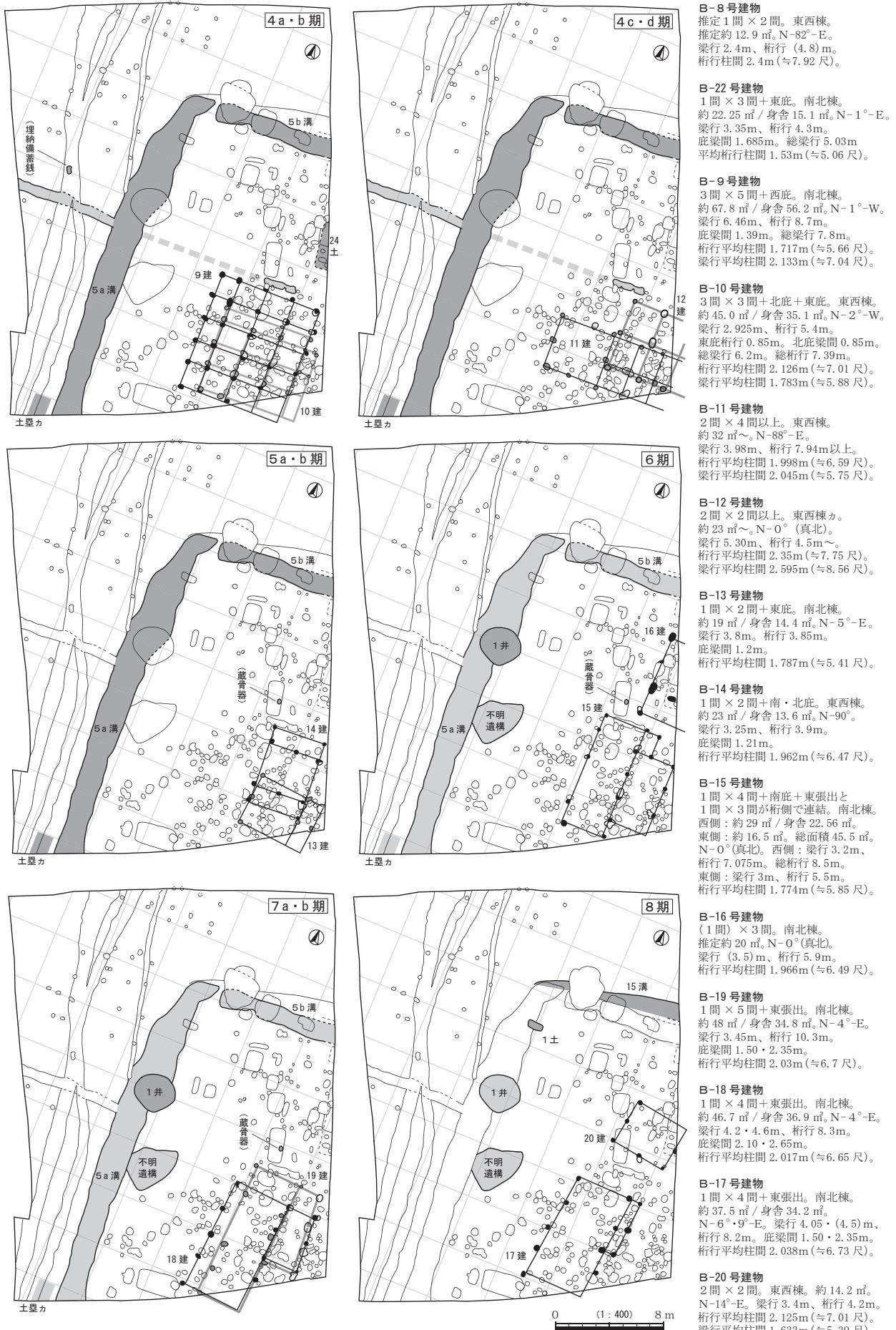


Fig. 34 屋敷跡変遷想定図②

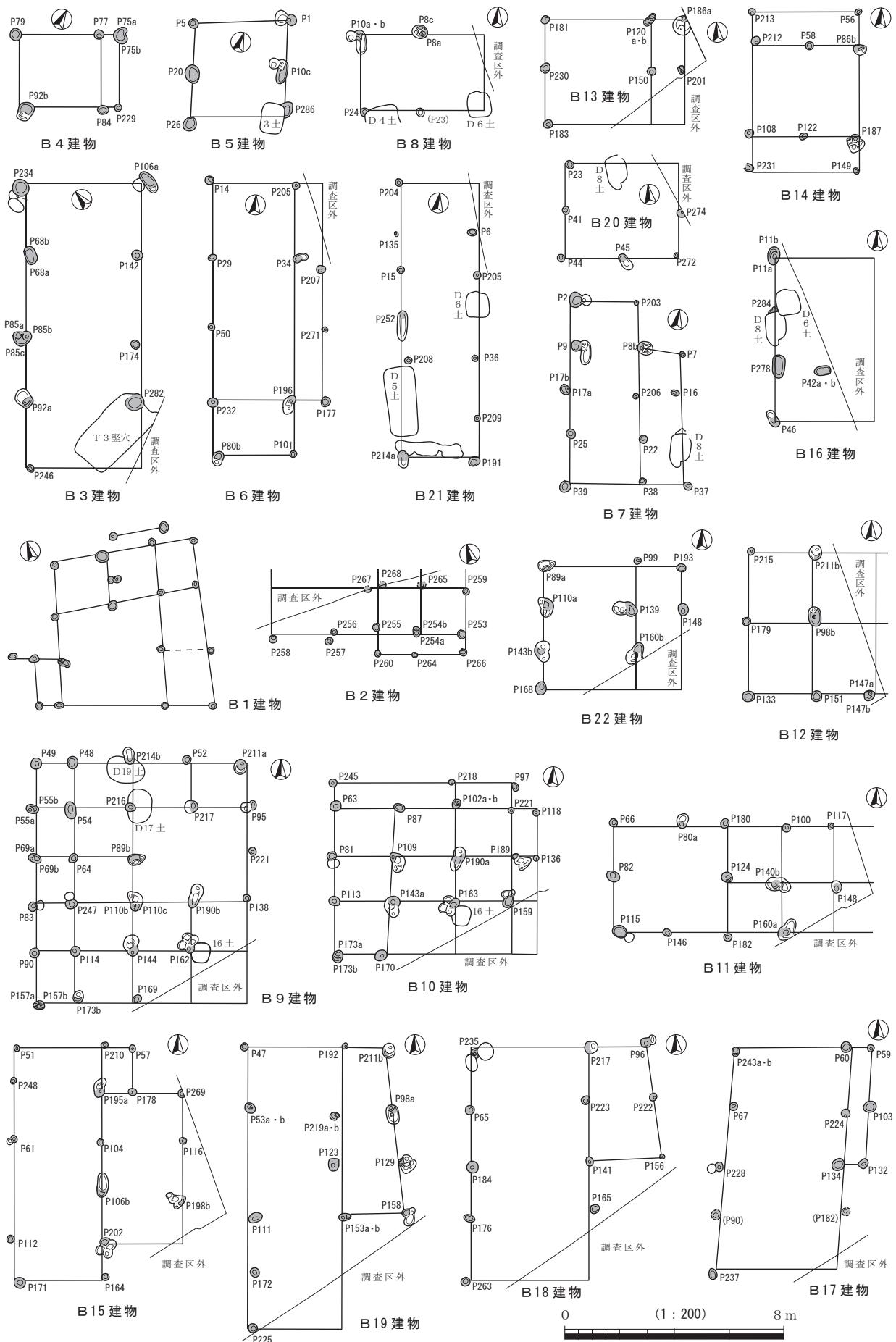


Fig. 35 掘立柱建物跡個別想定図

### 3. 埋納備蓄銭（一括出土銭）の構成 (Fig. 36、Tab. 14・15・16)

今回出土した銭貨は6縉から成り、縉1－97枚、縉2－97枚、縉3－97枚、縉4－88枚、縉5－96枚、縉6－97枚の、総計572枚である。鎌倉時代半ば～室町時代にかけての時期は、おおむね96～97文(97枚)を以て100文とするが、4縉が88枚とやや少くものの、およそこの慣例に該当する。銭種別では「開元通寶」(紀地銭)の初鋤845年から「朝鮮通寶」の初鋤1423年までの41種に分類される。出土した銭貨を国別でみると、唐、後周、南唐、北宋、南宋、金、明、朝鮮となっており、銭種及び総出土枚数では、やはり北宋銭が群を抜いている。これらの中には模鋳銭等も一定量含まれるものと推測する。埋納時期は、「洪武通寶」・「永樂通寶」の比率が高いことや、朝鮮通寶(1点)が含まれていることから考えて、是光吉基編年(坂詰ほか 1986)の第3期2類(15世紀後半～16世紀前半)に、鈴木公雄編年(鈴木 1992)の第5期(15世紀第3四半期前後)に、永井久美男編年(永井 2002)の第5期(15世紀第2四半期)に該当する。本遺跡出土の陶器・在地土器類は、全体として14世紀末あるいは15世紀初頭～16世紀後半の時間幅で捉えられる。宣徳通寶(初鋤1433)の出現率(1/237)と15世紀後半以降の銭貨を含まないことを考慮すると、埋納時期は15世紀中葉～後半と推測する。

各銭貨を観察したところ、背に文字が記銘されたものが少数認められた。南宋銭は「南宋番錢」と称され、背文に元号を示す数字が記されるが、本出土銭には2枚ほど含まれる。縉5－70の「淳熙元寶」は背上に「捌」と思われる文字が見られる。この銭貨は、淳熙7年(1180)から淳熙16年(1189)に鋳造されたものには背に年号が入ることから、この背文が「捌」であれば、淳熙8年(1181)に鋳造されたものと考えられる。縉5－91の「紹熙元寶」は背下に「五」と記銘されるため、紹熙5年(1194)に鋳造されたものと判断される。

「洪武通寶」は572枚中31枚含まれており、その背文には、鋳造地である北平府を表す「北平」が1枚(縉5－14)、紀重銭と呼ばれる「一錢」と記されたものが2枚(縉1－15・縉3－93)確認された。加工銭は郭が星形状に刻み加工されたものが、縉1－58「洪武通寶」、縉2－36「(開元通寶)」、縉4－19「熙寧元寶」、縉4－43、縉4－69「元符通寶」、縉5－41、縉6－25「開元通寶」の7枚に確認された。縉2－28「政和通寶」は、縁に刻み目加工が施されている。小穴のある銭貨については一覧表に記載したが、人為的な穿孔と判断されるものは縉1－5「天禧通寶」のみで、この他の銭貨については鋳上がり不良により空いたものと推測される。

一般に中世の出土銭は、墓坑からのいわゆる「六道銭」のほか、大量一括出土銭については河川流域や城館跡、神社仏閣付近からの出土例が多い。本遺跡周辺は、総社長尾氏の居城であった蒼海城をはじめ、石倉城・大友城・村山城や、居館・環濠屋敷などが分布し、中世上野国の中核地域の一つでもある。本出土銭の埋蔵期と想定される15世紀第2四半期～後半といえば、永享元年(1429)に長尾氏が蒼海城を修築し、享徳3年(1454)には享徳の乱が勃発する。本遺跡が所在する上野国においても、文明9年(1477)の長尾景春の乱や長享元年(1487)の長享の乱が起きるなど、混沌とした時代でもある。そのような時代背景の中、600枚足らずの銭は、どのような意図が込められて埋蔵されたのであろうか。

W-3号溝との関連もさることながら、本遺跡は墓坑を伴う屋敷跡であるため、地鎮行為としての貨幣埋納や境界祭祀などである可能性をうかがわせるが、推測の域を越えない。騎西城(埼玉県騎西町)では、16世紀末の屋敷を区画する堀底から、袋(薦)に収納された状態で少量の銭貨(銭縉)が出土しているようであり(谷口他 2000)、出土状況・収納状態ともに本遺跡例と近似する。今後、類例の増加によって少量銭貨の埋蔵に関する共通の性質や意図が見出せる可能性もありうる。

今回は諸般の事情から、本銭と模鋳銭等を識別・分類するには至らず、銭名による分類記載に留まった。また、一括出土銭としてはかなりの少量であるにもかかわらず、紙面の都合上、総掲載点数・裏面拓影図・写真図版は大幅に割愛せざるを得なかつた。併せてご寛恕頂きたい。今後は、各古銭の化学分析等を用いた詳細な観察・分類および模鋳銭の峻別を行い、本遺跡出土銭の実態と内容をより明確に捉える必要性があろう。遺跡所在地の「大渡町」は発掘調査件数が決して多いとは言えず、調査事例の増加を期待すると共に、本遺跡を含めたより広域な

土地利用の変遷等を捉え、さらに県内外および当該地域における出土銭資料から該期の貨幣流通状況などを踏まえた上で、本出土銭の意義と性格を多角的に検討する機会を望みたい。

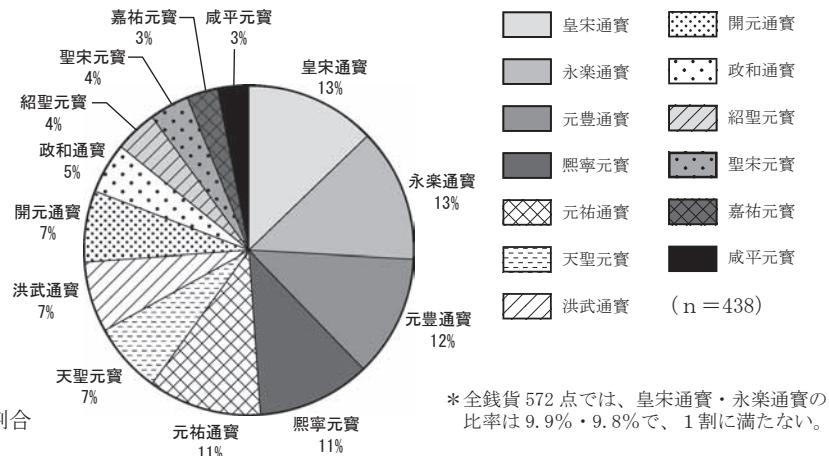


Fig. 36 主要銭貨の構成割合

Tab. 14 銭種一覧表（全体）

錢貨名	国・王朝	初鑄年	枚数
開元通寶	唐	845	29
周通元寶	後周	955	1
開元通寶	南唐	960	3
太平通寶	北宋	976	5
淳化元寶	"	990	4
至道元寶	"	995	7
咸平元寶	"	998	12
景德元寶	"	1004	10
祥符元寶	"	1008	5
祥符通寶	"	1008	2
天禧通寶	"	1017	10
天聖元寶	"	1023	33
明道元寶	"	1032	5
景祐元寶	"	1034	3

錢貨名	国・王朝	初鑄年	枚数
皇宋通寶	"	1038	57
至和元寶	"	1054	5
至和通寶	"	1054	1
嘉祐元寶	"	1056	13
嘉祐通寶	"	1056	6
治平元寶	"	1064	9
治平通寶	"	1064	2
熙寧元寶	"	1068	47
元祐通寶	"	1078	54
元祐通寶	"	1086	47
紹聖元寶	"	1094	19
元符通寶	"	1098	9
聖宋元寶	"	1101	18
大觀通寶	"	1103	10

錢貨名	国・王朝	初鑄年	枚数
政和通寶	"	1111	20
淳熙元寶	南宋	1174	3
紹熙元寶	"	1190	1
慶元通寶	"	1195	3
嘉泰通寶	"	1201	1
嘉定通寶	"	1208	2
紹定通寶	"	1228	2
景定元寶	"	1260	3
大定通寶	金	1178	1
大中通寶	明	1361	1
洪武通寶	"	1368	31
永樂通寶	"	1408	55
朝鮮通寶	朝鮮	1423	1
不明			22
合計			572

Tab. 15 銭種一覧表（緝別）

緝 1

錢名	国・王朝	枚数	錢名	国・王朝	枚数
開元通寶	唐	8	熙寧元寶	北宋	8
開元通寶	南唐	1	元豐通寶	"	11
至道元寶	北宋	1	元祐通寶	"	5
咸平元寶	"	4	紹聖元寶	"	6
景德元寶	"	1	聖宋元寶	"	2
天禧通寶	"	3	大觀通寶	"	1
天聖元寶	"	5	政和通寶	"	8
明道元寶	"	1	淳熙元寶	南宋	1
皇宋通寶	"	6	景德元寶	"	1
至和元寶	"	1	洪武通寶	明	5
嘉祐通寶	"	2	永樂通寶	"	5
治平元寶	"	2	不明		9
		計	23種		97

緝 2

錢名	国・王朝	枚数	錢名	国・王朝	枚数
開元通寶	唐	4	熙寧元寶	北宋	4
太平通寶	北宋	1	元豐通寶	"	15
淳化元寶	"	1	元祐通寶	"	11
至道元寶	"	2	紹聖元寶	"	2
咸平元寶	"	1	元符通寶	"	1
景德元寶	"	3	聖宋元寶	"	1
祥符元寶	"	1	政和通寶	"	4
祥符通寶	"	1	淳熙元寶	南宋	1
天禧通寶	"	3	紹定通寶	"	2
天聖元寶	"	5	景德通寶	"	2
明道元寶	"	2	大中通寶	明	1
皇宋通寶	"	8	洪武通寶	"	5
至和元寶	"	1	永樂通寶	"	9
嘉祐元寶	"	1	不明		4
治平元寶	"	2	計	28種	97

緝 3

錢名	国・王朝	枚数	錢名	国・王朝	枚数
開元通寶	唐	6	治平元寶	"	1
太平通寶	北宋	2	治平通寶	"	1
淳化元寶	"	3	熙寧元寶	"	6
至道元寶	"	1	元豐通寶	"	7
咸平元寶	"	3	元祐通寶	"	9
景德元寶	"	1	紹聖元寶	"	3
祥符元寶	"	1	元符通寶	"	1
祥符通寶	"	1	聖宋元寶	"	3
天禧通寶	"	1	大觀通寶	"	2
天聖元寶	"	2	政和通寶	"	2
明道元寶	"	1	嘉泰通寶	南宋	1
景德元寶	"	1	大定通寶	金	1
皇宋通寶	"	9	洪武通寶	明	5
至和元寶	"	1	永樂通寶	"	13
嘉祐元寶	"	5	朝鮮通寶	朝鮮	1
嘉祐通寶	"	1	不明		2
		計	31種		97

緝 4

錢名	国・王朝	枚数	錢名	国・王朝	枚数
開元通寶	唐	3	熙寧元寶	"	10
太平通寶	北宋	1	元豐通寶	北宋	7
至道元寶	"	1	元祐通寶	"	6
咸平元寶	"	1	紹聖元寶	"	2
景德元寶	"	2	元符通寶	"	3
天禧通寶	"	2	聖宋元寶	"	5
天聖元寶	"	8	大觀通寶	"	6
景祐元寶	"	1	政和通寶	"	2
皇宋通寶	"	10	慶元通寶	南宋	1
嘉祐元寶	"	2	洪武通寶	明	4
嘉祐通寶	"	1	永樂通寶	"	6
治平元寶	"	1	不明		3
		計	23種		88

緝 6

錢名	国・王朝	枚数	錢名	国・王朝	枚数
開元通寶	唐	5	元豐通寶	北宋	8
咸平元寶	北宋	2	元祐通寶	"	10
景德元寶	"	1	紹聖元寶	"	1
天聖元寶	"	8	元符通寶	"	3
明道元寶	"	1	聖宋元寶	"	4
皇宋通寶	"	13	政和通寶	"	1
至和元寶	"	1	慶元通寶	南宋	1
嘉祐元寶	"	3	景德通寶	"	1
治平元寶	"	2	洪武通寶	明	7
熙寧元寶	"	11	永樂通寶	"	13
		計	20種		97

## 引用・参考文献一覧

- 群馬県史編さん委員会 1989 『群馬県史 通史編3 中世』 群馬県  
1990 『群馬県史 通史編1 原始古代1』 群馬県
- 高崎市史編さん委員会 1997 『新編 高崎市史 資料編3 中世I』 高崎市
- 前橋市史編さん委員会 1971 『前橋市史 第一巻』 前橋市
- 秋本太郎 ほか 2008 『史跡箕輪城跡Ⅷ』 高崎市教育委員会
- 今井和久 2003 『稲荷塚道東遺跡』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 上野隆博ほか 1991 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書—市内出土の古銭一』 青森市教育委員会
- 宇田川洋ほか 1975 『青戸・葛西城調査報告III』 葛西城址調査会
- 宇田川恵子 1984 「株木遺跡出土古銭」 『B 4 株木遺跡』 群馬県藤岡市建設部・教育委員会
- 北島恵介・広川達麻 1993 『大門出土古銭調査報告書—中世備蓄銭の報告書一』 静岡県周知郡森町教育委員会
- 小松寿治 1983 『葛西城』 葛西城址調査会
- 坂口 一 ほか 2007 『総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋一彦 ほか 2003 『総社甲稻荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 長谷川一郎 ほか 2001 『元総社小見遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 長谷川一郎 ほか 2003 『元総社小見III遺跡・元総社草作V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 阿久澤真一 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群(13)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 大崎和久 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群(6)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 梅沢克典 ほか 2007 『元総社蒼海遺跡群(12)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 梅沢克典 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群(15)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 金子正人 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群(17)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 近藤雅順 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群(2)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 近藤雅順 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群(14)・元総社蒼海遺跡群(19)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 櫻井和哉 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群(16)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 日沖剛史 ほか 2009 『元総社蒼海遺跡群(21)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 日沖剛史 ほか 2009 『元総社蒼海遺跡群(23)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 日沖剛史 ほか 2010 『元総社蒼海遺跡群(27)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 日沖剛史 ほか 2010 『元総社蒼海遺跡群(28)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 雪田 孝・塚原次郎 2001 『大量出土銭の調査概報』 府中市教育委員会
- 秋本太郎 2005 「上野と周辺地域との関係－在地土器の分布論から探る－」  
『海なき国々のモノとヒトの動き－16世紀～17世紀における内陸部の流通』 内陸遺跡調査会  
2008 「戦国期北関東のかわらけ」 『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』 高志書院
- 飯森康広 2004 「小規模な中世屋敷内部の建物変遷と傾向－掘立柱建物跡の桁行平均柱間を視点に－」  
『研究紀要 22』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 栗原慶多 2008 「北武藏の鉢・壺・甕」 東国中世考古学研究会群馬大会資料
- 近藤義雄 1986 『図説・前橋の歴史 群馬県の歴史シリーズ①』 あかぎ出版
- 坂詰秀一 ほか 1986 『出土銭—中世—』 考古学ライブラリー 45 ニュー・サイエンス社
- 早田 勉 ほか 2008 『更新世の地形発達史と遺跡群の形成』 岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会
- 永井久美男編 1994 『中世の出土銭—出土銭の調査と分類—』 兵庫県埋蔵銭調査会
- 永井久美男 2002 『新版 中世出土銭の分類図版』 兵庫県埋蔵銭調査会
- 中野晴久 2005 「常滑・渥美」 『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～ 発表要旨集』
- 橋口定志 2003 「埋納銭をめぐる諸問題」 『戦国時代の考古学』 高志書院
- 藤澤良祐 2005 「瀬戸系」 『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～ 発表要旨集』
- 山崎 一 1978 『群馬県古城墨跡の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会
- 山崎 一 ほか 1979 『日本城郭大系 第4巻 茨城・栃木・群馬』 株式会社新人物往来社
- 谷口 榮 ほか 2000 『平成12年度特別展 埋められた渡来銭』 葛飾区郷土と天文の博物館

---

## 写 真 図 版

---

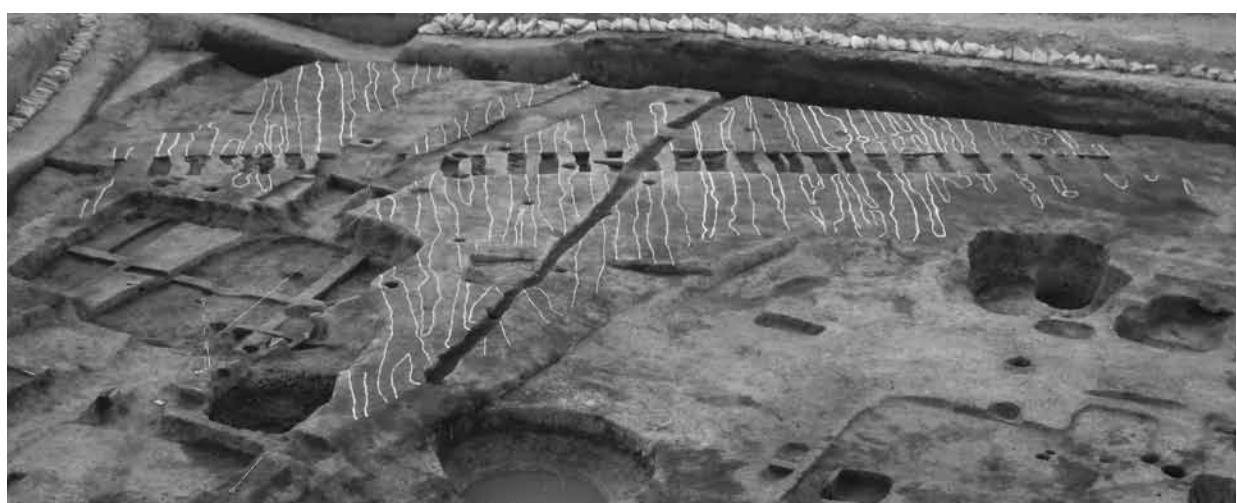


埋納備蓄銭 さしひも 緝紐の状態

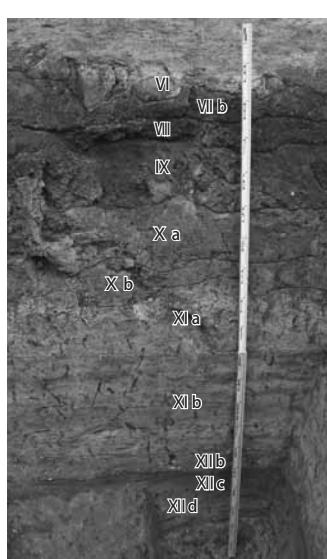
(×1.5倍 上段左から緝1・緝2・緝3、下段左から緝4・緝5・緝6)



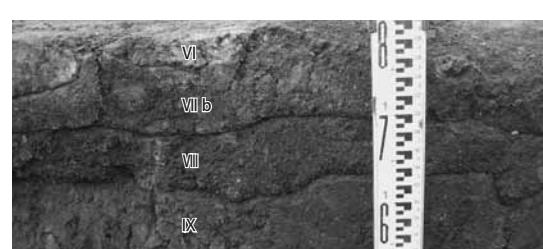
遺跡（A区）全景（南から）



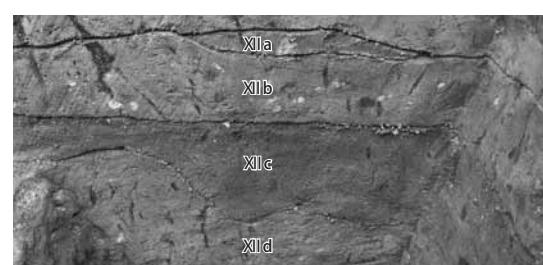
1号畠跡全景（南東から）



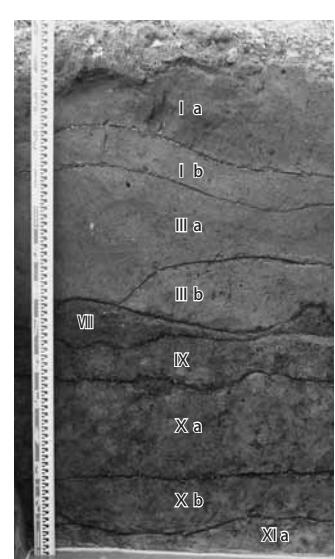
標準土層A（西から）



標準土層A上部



標準土層A下部



標準土層B（西から）

P L . 2



H - 1 号住居跡 全景 (西から)



H - 1 号住居跡 カマド遺物出土状態 (西から)



H - 2 号住居跡 全景 (西から)



H - 2 号住居跡 カマド遺物出土状態 (西から)



H - 2 号住居跡 貯藏穴完掘・耳皿出土状態 (西から)



H - 2 号住居跡 カマド推定復原状況 (西から)



H - 3 ・ 4 号住居跡 全景 (西から)



H - 3 号住居跡 カマド遺物出土状態 (西から)



H - 3 号住居跡 貯藏穴遺物出土状態（西から）



H - 5 号住居跡 全景（西から）



H - 6 号住居跡 全景（西から）



H - 6 号住居跡 カマド全景（西から）



H - 6 号住居跡 遺物出土状態（南から）



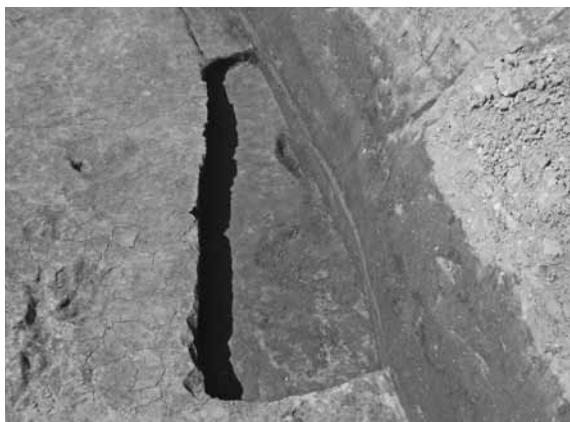
H - 6 号住居跡 丸軸（石帶）出土状態（北から）



H - 7 号住居跡 全景（西から）



H - 8 号住居跡 カマド全景（東から）



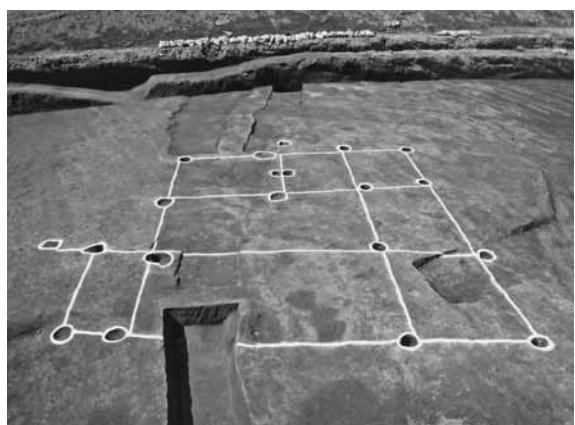
T - 1号堅穴状遺構 全景（南から）



T - 2号堅穴状遺構 全景（南から）



T - 3号堅穴状遺構 全景（東から）



B - 1号掘立柱建物跡 全景（南から）



B - 2号掘立柱建物跡 作業状況（西から）



北部ピット群（掘立柱建物群）全景（南から）



南部ピット群（掘立柱建物群）全景（南から）



南部ピット群（掘立柱建物群）近景（南から）



1号地下式坑・I-2号井戸 全景（南から）



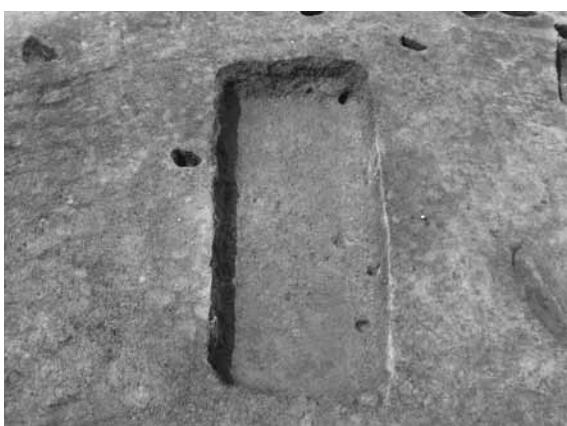
1号地下式坑・I-2号井戸 全景（西から）



D-1号土坑 全景（南から）



D-2・3・4号土坑 全景（南から）



D-5号土坑 全景（南から）



D-5号土坑 埋没状況（西から）



D-6・7・8号土坑 全景（南から）

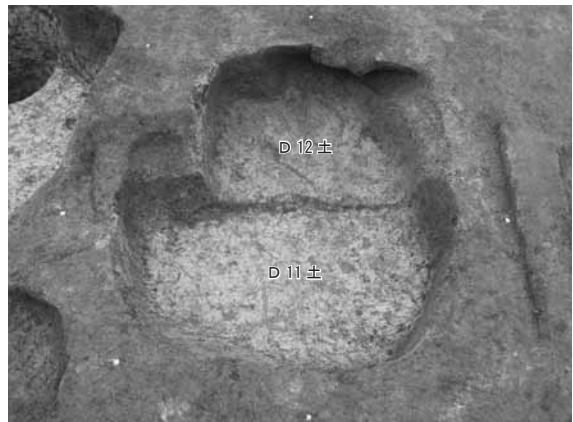


1号火葬墓 全景（北西から）

P L . 6



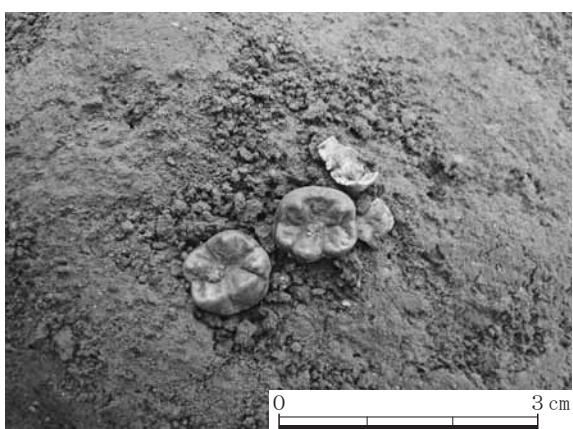
D - 9・10 号土坑 全景 (南から)



D - 11・12 号土坑 全景 (南から)



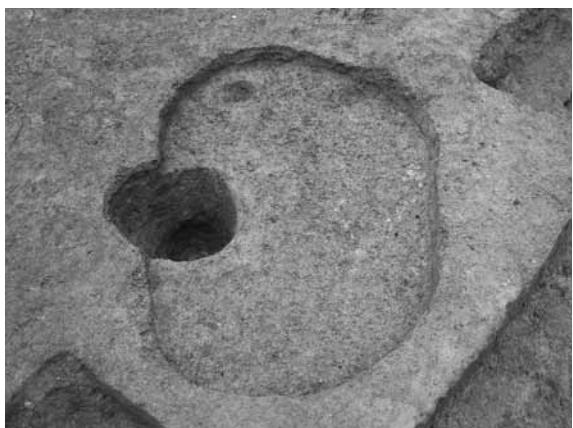
D - 15 号土坑 全景・遺物出土状態 (南から)



D - 15 号土坑 ヒト大臼歯検出状態 (南から)



D - 16 号土坑 全景 (北から)



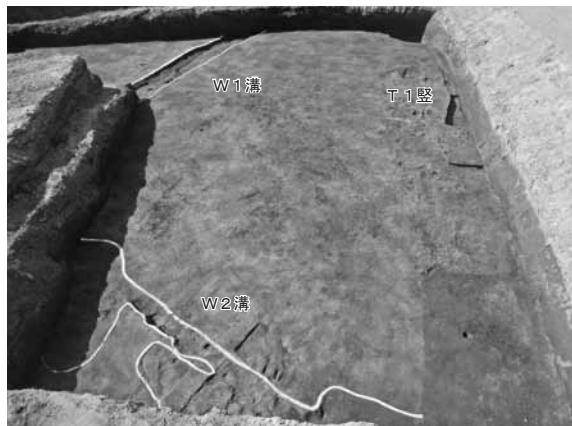
D - 17 号土坑 全景 (南から)



D - 18 号土坑 全景 (北から)



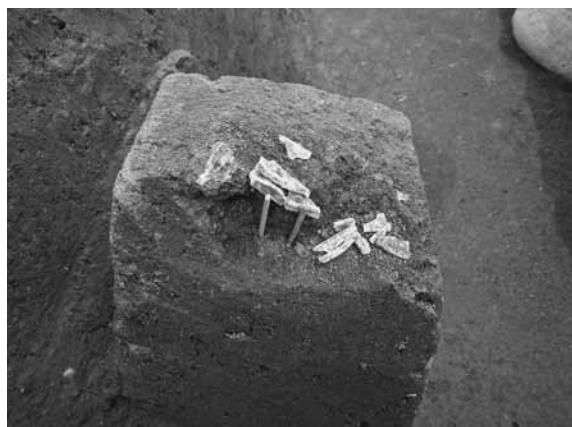
1号火葬跡 全景 (南から)



W-1・2号溝およびB区 全景（南から）



W-3・4・5・6号溝 全景（南から）



W-4号溝 動物遺体検出状態（南から）



W-5号溝 遺物出土状態（南から）



W-7号溝 全景（南から）



W-8・13号溝 全景（南から）



W-10号溝 全景（南西から）



W-11・12号溝 全景（西から）



1号埋納備蓄錢全景（南から）



1号埋納備蓄錢近景（北から）



I - 1号井戸 全景（南から）



1号畠跡 全景（南西から）



1号畠跡 埋没状況（南東から）



1号畠跡 北壁埋没状況（南東から）

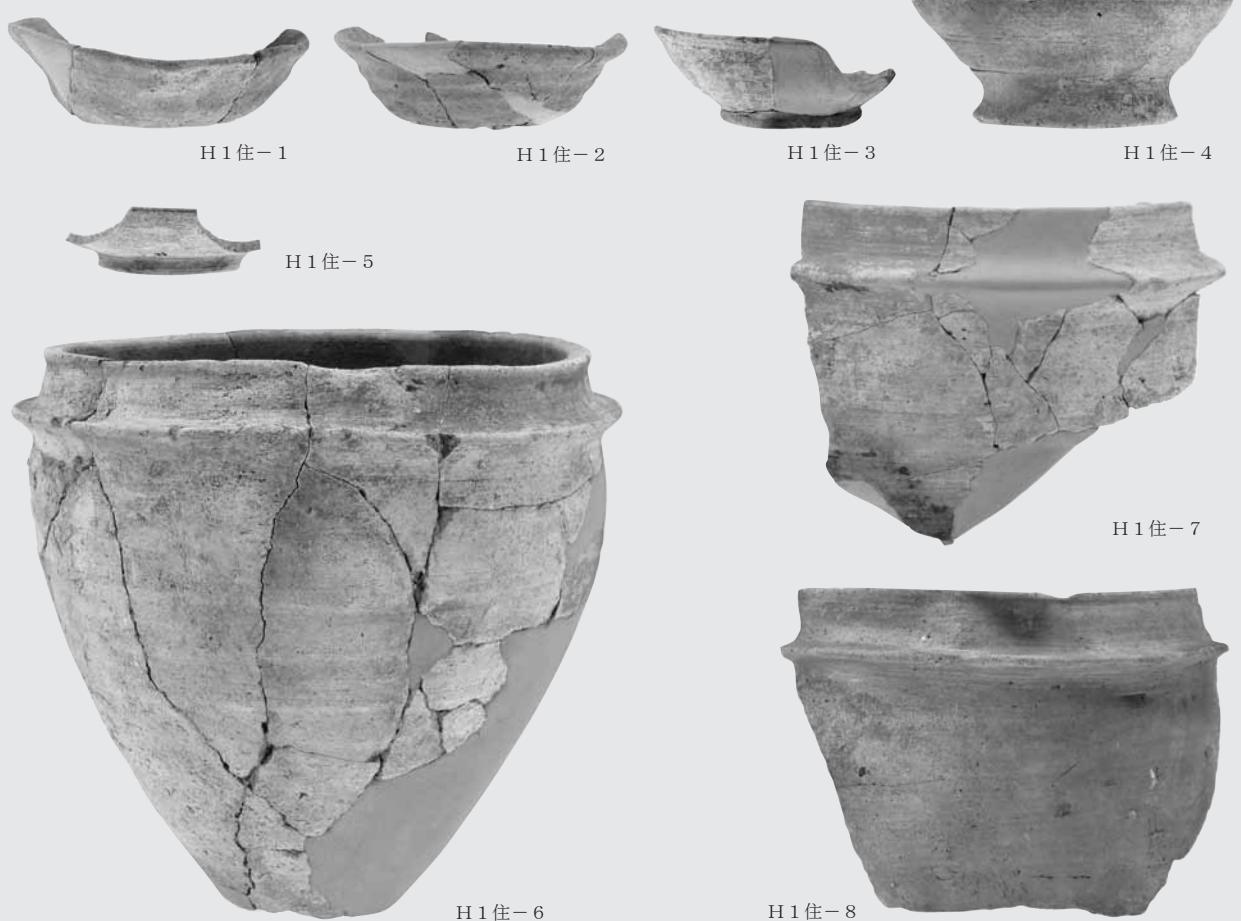


1号畦畔 (Hr-FA直下) 全景（南東から）

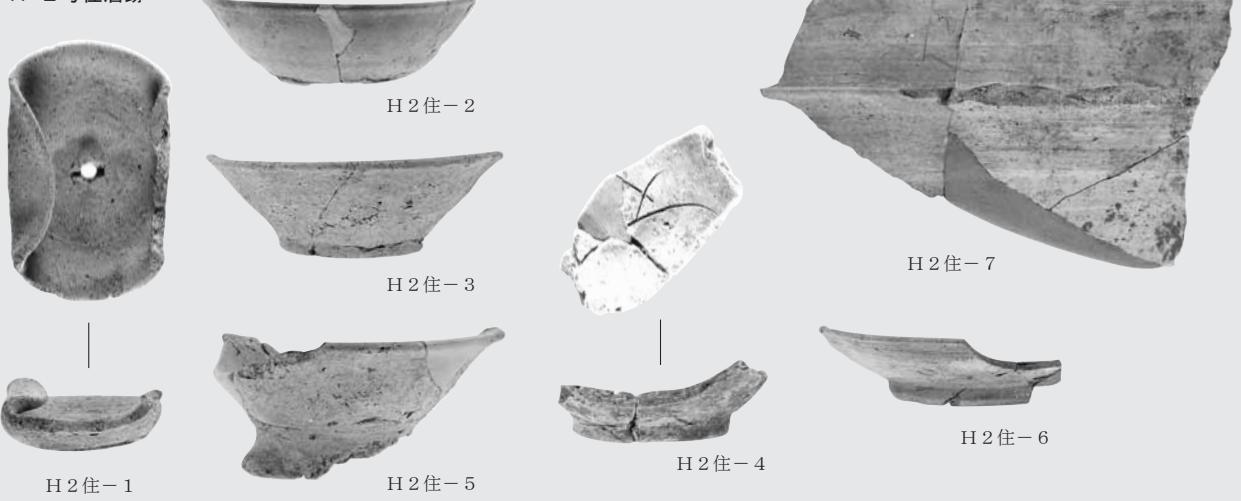


1号水田 (Hr-FA直下) 全景（北東から）

## H-1号住居跡



## H-2号住居跡

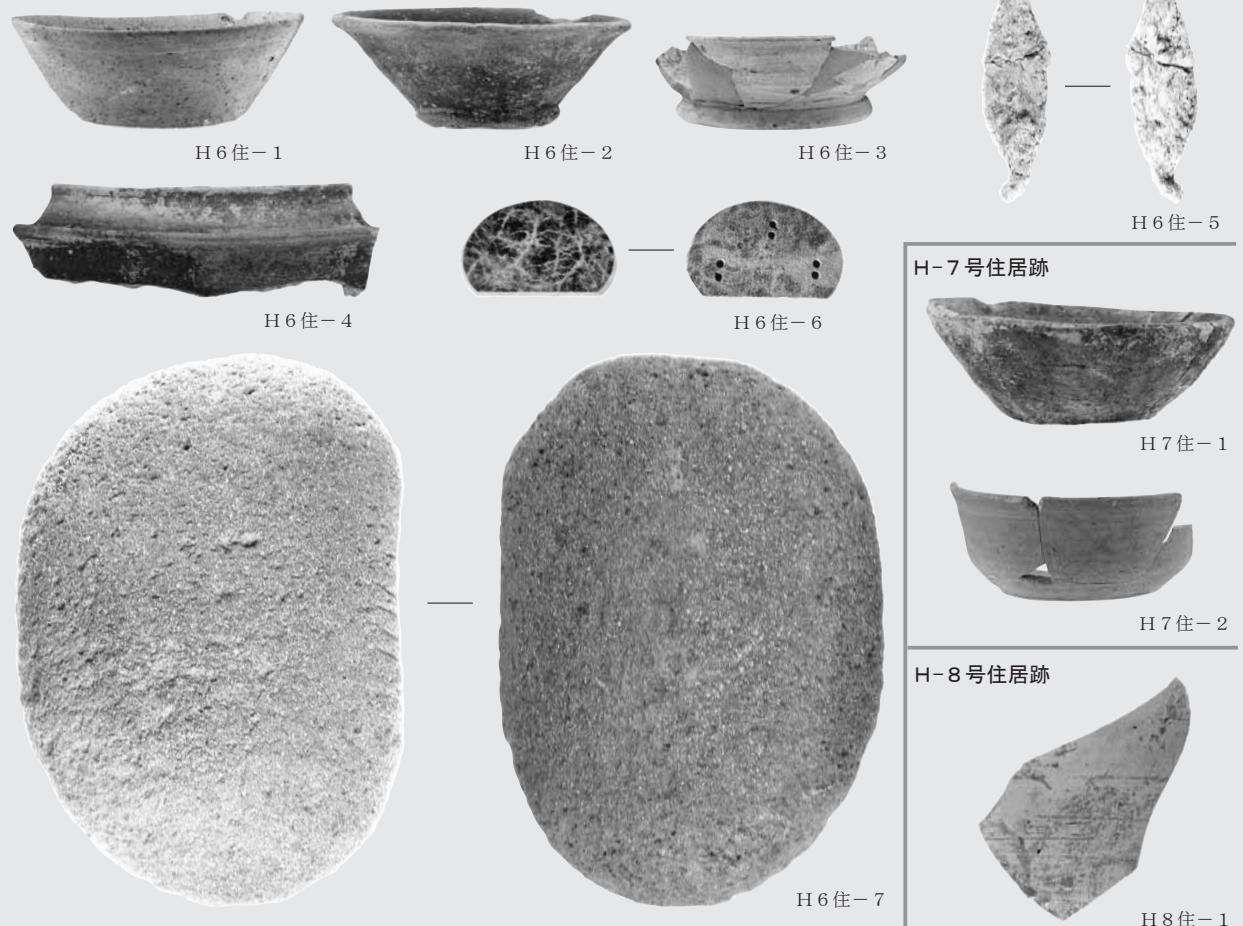


## H-3号住居跡

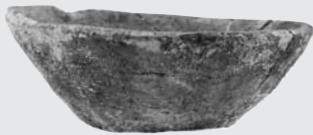


# P L. 10

## H-6号住居跡



## H-7号住居跡



## H-8号住居跡



## T-2号竪穴状遺構



## T-3号竪穴状遺構



## P-275



## P-238



## D-4号土坑



## D-15号土坑 (P-91)



## P-192



## 1号火葬墓 (藏骨器)



## W-3号溝

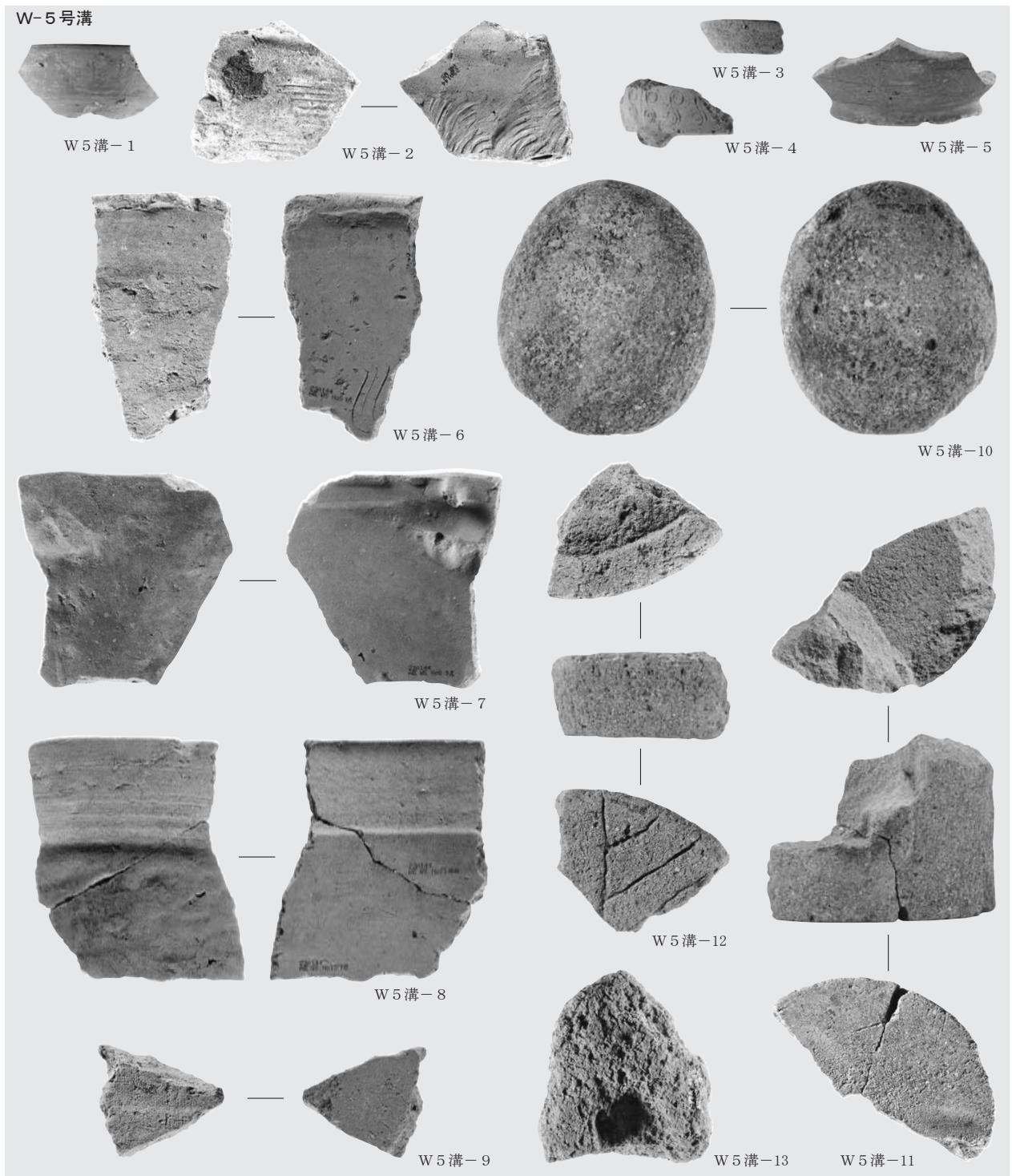


## W-8・13号溝



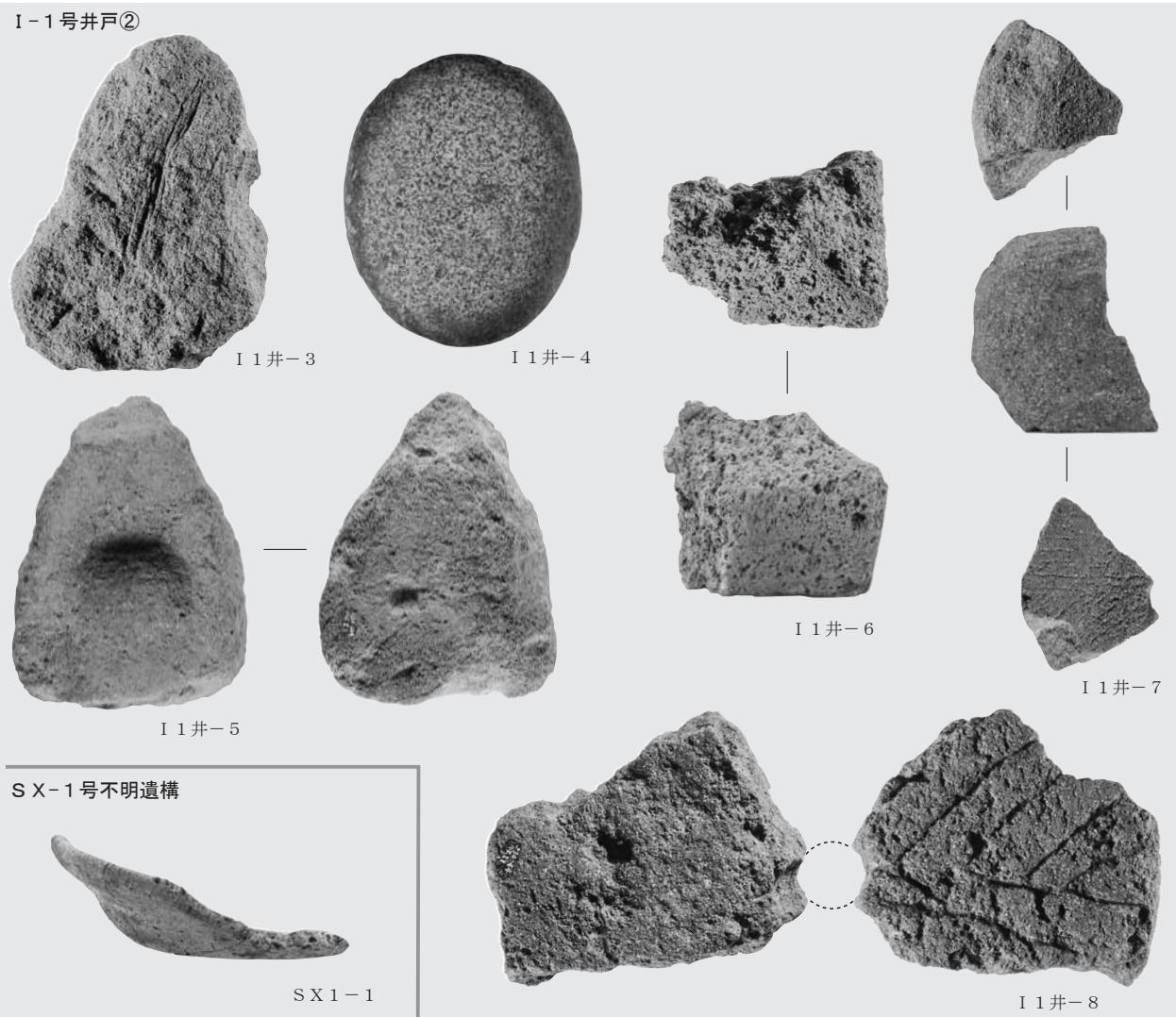
## W-12号溝





P L. 12

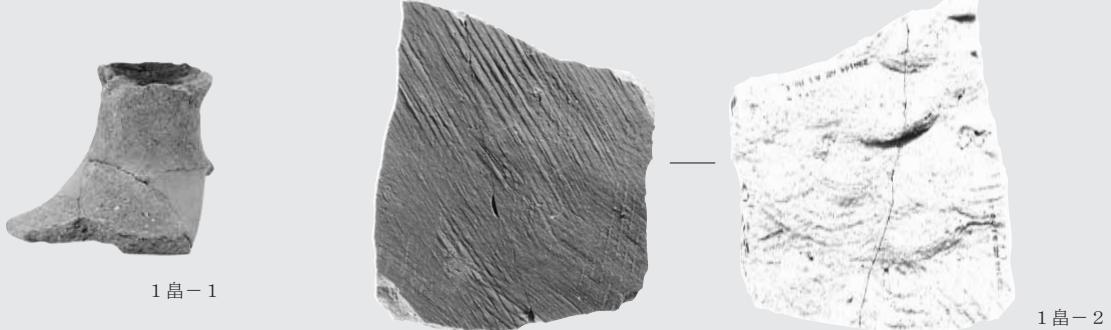
I - 1号井戸②



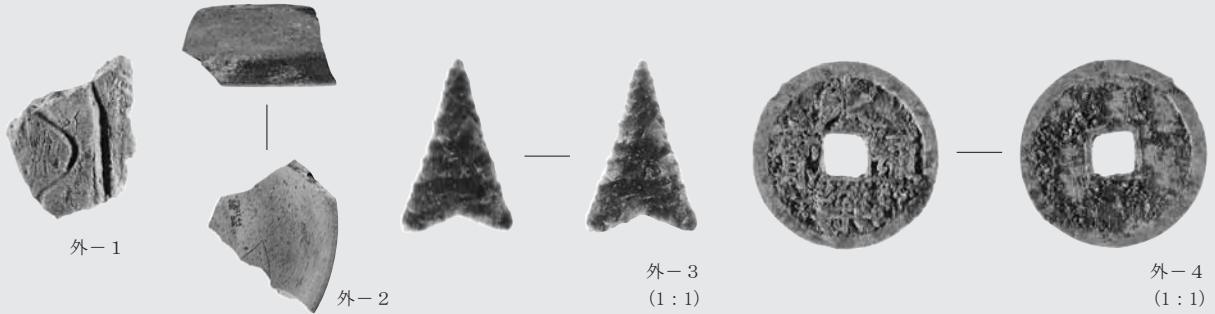
S X - 1号不明遺構



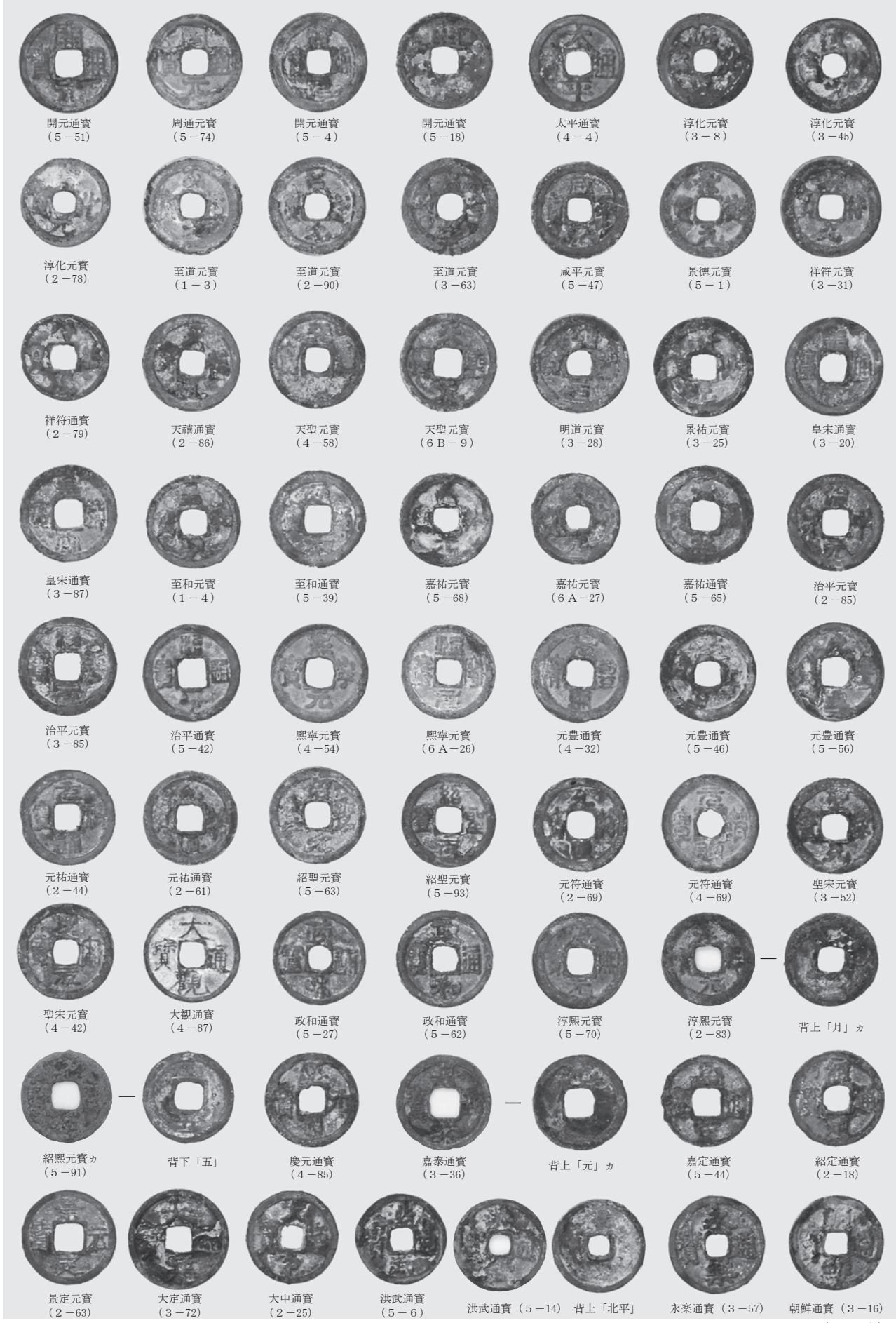
1号畠跡



遺構外出土遺物



## 1号埋納備蓄錢



(S = 3/4)

## 抄 錄

フリガナ	オオワタリドウジョウイセキ
書名	大渡道場遺跡
副書名	前橋市消防局西消防署移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
編著者名	福田貴之・南田法正・山本千春・土井道昭
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2 TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦2011年12月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (日本測地系)	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおわたりどうじょう いせき 大渡道場遺跡	ぐんまけんまえばしし おおわたりまち 群馬県前橋市大渡町 二丁目3番5	10201	23 A 144	36° 23' 39"	139° 02' 40"	20110419 ~ 20110621	840	前橋市消防局西消防署移転新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
大渡道場遺跡	水田跡 畠跡 集落 屋敷跡 墓域	縄文時代 古墳 奈良 平安 中世	堅穴住居跡 堅穴状遺構 掘立柱建物跡 ピット321基 地下式坑 土坑 火葬墓(蔵骨器) 火葬跡 溝跡 貨幣埋納遺構 (埋納備蓄錢) 井戸跡 畠跡 水田跡 不明遺構	8軒 3基 2棟 (+20棟) 1基 23基 1基 1箇所 14条 石器 石製品 瓦 2基 1箇所 (畠間45条) 1箇所 1基	縄文土器 土師器 須恵器 羽釜 灰釉陶器 軟質陶器 燒締陶器 土師質土器 青磁 石器 石製品 瓦 鐵製品 古銭 遺物の総数 8箱	古墳時代後期初頭・Hr-FA火山灰直下の水田跡とHr-FAを鋤き込む畠跡の畠間痕跡を検出。畠跡は平安時代の集落と溝群に破壊される。15世紀代の屋敷跡を確認。小規模な溝で囲郭され、掘立柱建物群・墓坑群・火葬跡・井戸・地下式坑等で構成。溝底面からは埋納備蓄錢(一括出土錢・6縕572枚)が出土。有機質の袋に収納されていたものと想定。備蓄錢は本市2例目。

## 大渡道場遺跡

前橋市消防局西消防署移転新築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成23年12月16日印刷

平成23年12月22日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／前橋市教育委員会

前橋市三俣町二丁目10-2

TEL 027-231-9531

印刷／朝日印刷工業株式会社